

# 宮永町遺跡

—福岡県柳川市宮永町所在近世柳川城下町の調査—

柳川市文化財調査報告書 第18集

2024

柳川市教育委員会

# 宮永町遺跡

—福岡県柳川市宮永町所在近世柳川城下町の調査—

柳川市文化財調査報告書 第18集



## 序

筑後川と矢部川が有明海に注ぐ筑後平野南西部に位置する柳川市は、柳川藩十一万石の城下町であり、詩人北原白秋の詩歌の母胎となった水郷都市です。

このたび報告をいたします宮永町遺跡は近世柳川城（本丸・二の丸・三の丸）を中心に、外堀に囲まれたほぼ正方形の区域にあたる御家中（城内）で、武家屋敷が並び、町は小路（こうじ）と呼ばれていた地区の宮永小路です。令和2年に市道京町上宮永町線拡幅工事に伴い、柳川市教育委員会が発掘調査を実施いたしました。その結果、廃棄土坑、柱穴など、城下町における人々の暮らしを生き活きと現在に伝える生活遺構が確認され、出土した陶磁器や、木製品、土製品、金属器等と合わせて、城下町の変遷を明らかにする手がかりとなりました。

本報告が今後の調査研究に寄与すると共に、埋蔵文化財に対する理解を深め、文化財保護に対する取り組みの一助となることを願います。

最後に、今回の調査にご理解を頂きご協力頂きました地元の皆様を始め、調査にあたりご助言ご指導を賜りました皆様、発掘調査に従事して頂きました皆様に厚くお礼を申し上げます。

令和6年9月30日

柳川市教育委員会  
教育長 橋本 秀博

## 例 言

- 1 本書は、市道京町上宮永町線拡幅工事に伴い、柳川市教育委員会が発掘調査を実施した、柳川市宮永町所在「宮永町（みやながまち）」遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は柳川市教育委員会が事業主体となり、柳川市教育委員会生涯学習課の橋本清美が調査を担当した。
- 3 本書に掲載した遺構実測に用いたグリッド杭の設置は埋蔵文化財サポートシステムの伊藤博樹が、遺構実測図の作成は牧之角健太が行った。遺物実測図の作成は、西美智代、野口宏美、大津幸代、石井朝子、牧之角が行った。
- 4 本書に掲載した空中写真撮影は空中写真企画の諫山広宣が、遺構写真撮影及び、遺物写真撮影は橋本が行った。
- 5 遺物の整理復元は西、野口、大津、石井、牧之角が行った。
- 6 遺物の製図は九州文化財研究所の加藤悠作、金子史雄が行った。
- 7 出土遺物、写真、実測図は柳川市教育委員会において保管している。
- 8 本書の執筆、編集は橋本が行った。

※SA…土居 SK…土坑 SP…小穴 SD…溝

# 本文目次

I	はじめに	1
1	調査に至る経過	1
2	調査組織	1~2
II	位置と環境	3
III	調査の内容	5~52
1	第1遺構面	5~26
2	第2遺構面	27~41
3	第3遺構面	42~46
4	出土土製品	44~46
5	出土瓦	44~49
6	出土木製品	44~52
7	出土鉄製品	51~52
8	出土銭	51~52
IV	総括	53~54

# 図版目次

図版1	1 宮永町遺跡調査区遠景（東から）
	2 宮永町遺跡調査区遠景（西から）
	3 宮永町遺跡調査区（直上）
図版2	1 SK-3完掘状況（南から）
	2 SK-4完掘状況（南から）
	3 SK-5完掘状況（南西から）
図版3	1 SK-6完掘状況（南から）
	2 SK-16完掘状況（南西から）
	3 SK-20有機物検出状況（東から）
図版4	1 SK-20完掘状況（南から）
	2 第2遺構面遠景（直上）
	3 第2遺構面全景（直上）

- 図版5 1 SA-37完掘状況遠景（北から）  
 2 SA-37完掘状況（南から）  
 3 SA-37土層堆積状況（東から）

- 図版6 1 SK-38完掘状況（東から）  
 2 SK-39土層堆積状況（西から）  
 3 SK-41完掘状況（北西から）

- 図版7 1 SK-44完掘状況（南西から）  
 2 SK-46完掘状況（西から）  
 3 SK-47完掘状況（北西から）

図版8 出土遺物①

図版9 出土遺物②

図版10 出土遺物③

図版11 出土遺物④

図版12 出土遺物⑤

図版13 出土遺物⑥

図版14 出土遺物⑦

図版15 出土遺物⑧

図版16 出土遺物⑨

図版17 出土遺物⑩

図版18 出土遺物⑪

図版19 出土遺物⑫

図版20 出土遺物⑬

図版21 出土遺物⑭

図版22 出土遺物⑮

## 挿 図 目 次

第1図	柳川市位置図	1
第2図	周辺遺跡分布図（1/25,000）	3
第3図	調査区位置図（1/2,500）	4
第4図	御家中絵図（『旧藩主立花家史料』より一部抜粋）	4
第5図	第1遺構面遺構配置図（1/200）	6
第6図	SK-2・3・4・5実測図（1/40）	7
第7図	SK-2・3・4出土遺物実測図（14は1/12、他は1/3）	8

第8図	SK-6・8実測図 (1/40) .....	9
第9図	SK-5・6・16出土遺物実測図 (1/3) .....	11
第10図	SK-16・20実測図 (1/40) .....	12
第11図	SK-16出土遺物実測図② (1/3) .....	13
第12図	SK-16・20出土遺物実測図 (1/3) .....	15
第13図	SK-20・第1遺構面その他の遺構 (SD-1・10・11) 出土遺物実測図 (1/3) .....	17
第14図	第1遺構面その他の遺構 (SK-12) 出土遺物実測図 (1/3) .....	19
第15図	第1遺構面その他の遺構 (SK-12・13・14・15・17・18) 出土遺物実測図 (1/3) .....	21
第16図	第1遺構面その他の遺構 (SK-21・22・SP-23・SK-24・25・26・28) 出土遺物実測図 (169は1/12、他は1/3) .....	22
第17図	第1遺構面その他の遺構 (SK-28・29) 出土遺物実測図 (1/3) .....	23
第18図	第1遺構面その他の遺構 (SK-29・31) 出土遺物実測図 (1/3) .....	24
第19図	第1遺構面その他の遺構 (SK-32・SD-35・SK-36) 出土遺物実測図 (1/3) .....	25
第20図	第2遺構面遺構配置図 (1/200) .....	28
第21図	SA-37実測図 (平面図1/20、断面図1/40) .....	29
第22図	第2遺構面SA-37出土遺物実測図① (1/3) .....	30
第23図	第2遺構面SA-37出土遺物実測図② (1/3) .....	31
第24図	SP-38・SK-39・40実測図 (1/40) .....	33
第25図	SK-41・42・43実測図 (1/40) .....	35
第26図	第2遺構面SK-39・41・42・43出土遺物実測図 (1/3) .....	36
第27図	第2遺構面SK-43出土遺物実測図② (1/3) .....	37
第28図	第2遺構面SK-43出土遺物実測図③ (1/3) .....	38
第29図	第2遺構面SK-43・44・45出土遺物実測図 (1/3) .....	39
第30図	SK-44実測図 (1/40) .....	41
第31図	SK-46・47実測図 (1/40) .....	43
第32図	第3遺構面出土遺物実測図① (1/3) .....	45
第33図	第3遺構面出土遺物実測図② (1/3) .....	46
第34図	出土土製品実測図 (1/3) .....	46
第35図	出土瓦実測図① (1/3) .....	47
第36図	出土瓦実測図② (1/3) .....	48
第37図	出土瓦実測図③ (1/3) .....	49
第38図	出土木製品実測図① (425は1/6、他は1/3) .....	50
第39図	出土木製品実測図② (1/3) .....	52
第40図	出土鉄製品実測図 (1/3) .....	52
第41図	出土銭 (1/1) .....	52



## 表 目 次

第 1 表 出土遺物観察表.....	57~76
--------------------	-------

# I はじめに

## 1 調査に至る経過

福岡県柳川市は筑後川と矢部川に挟まれた筑後平野の南西に位置する、人口61,786（2024年6月末現在）人、面積77.15平方キロメートルの地方都市である。市南部には近世以前から戦後まで造られた広大な干拓地が広がる他、本市を含む筑紫平野南部一帯には、水田の灌漑水用の水路が網の目のように巡り、独特の景観を形成している。

今回、市道京町上宮永町線拡幅工事が計画されたことに伴い、柳川市建設部建設課より令和2年8月27日に埋蔵文化財の有無について照会を受けた柳川市教育委員会が、令和2年9月9日に確認調査を実施した。その結果、近世の遺物を伴う遺構面を確認したため、当地が近世柳川城下町の宮永町遺跡に当たることから武家地に関連する遺構であると判断し、その後の協議を始めた。

数次の協議を経て、開発予定地において道路拡張工事により遺構が破壊される範囲で発掘調査を行うことを合意した。発掘調査は文化財保護法による諸手続きを経て、令和2年10月23日から令和2年12月25日まで実施した。



第1図 柳川市位置図

## 2 調査組織

発掘調査及び報告書作成の関係者は次のとおりである。

		令和2年度	令和3年度	
総括 柳川市教育委員会	教育長	沖 毅	沖 毅	
	教育部長	袖崎 朋洋	袖崎 朋洋	
	生涯学習課長	新聞 文隆	新聞 文隆	
	生涯学習課長補佐		三小田 祐輔	
	文化財保護係長	高口 祐介	三小田 祐輔(兼)	
	文化財保護係	堤 伴治	堤 伴治	
		橋本 清美(整理・経理)	橋本 清美(整理・経理)	
	会計年度職員	牧之角 健太	牧之角 健太	
	柳川市建設部	建設部長	松永 泰治	松永 泰治
		建設課長	中村 正光	中村 正光
建設課長補佐		梅崎 秋敬	平田 秀史	
新設改良係長		平田 秀史	平田 秀史(兼)	

		令和4年度	令和5年度
総括 柳川市教育委員会	教育長	沖 毅	橋本 秀博
	教育部長	袖崎 朋洋	武田 真治
	生涯学習課長	新開 文隆	野田 学
	生涯学習課長補佐	田中 規之	横山 雄治
	文化財保護係長	田中 規之(兼)	横山 雄治(兼)
	文化財保護係	橋本 清美(整理・経理)	橋本 清美(整理・経理)
柳川市建設部	会計年度職員	川嶋 大輝	川嶋 大輝
	建設部長	牧之角 健太	牧之角 健太
	建設課長	中村 正光	中村 正光
	建設課長補佐	古賀 洋二郎	古賀 洋二郎
	新設改良係長	古賀 正光	古賀 正光
		今村 日出男	松崎 秀臣
		令和6年度	
総括 柳川市教育委員会	教育長	橋本 秀博	
	教育部長	武田 真治	
	生涯学習課長	野田 学	
	生涯学習課長補佐	横山 雄治	
	文化財保護係長	横山 雄治(兼)	
	文化財保護係	橋本 清美(整理・経理)	
柳川市建設部		川嶋 大輝	
	建設部長	目野 隆広	
	建設課長	古賀 正光	
	建設課長補佐	平田 秀史	
	新設改良係長	松崎 秀臣	

なお、発掘調査及び報告書作成の期間中、大変多くの方々のご指導ご協力をいただきました。  
 (順不同、敬称略) 福岡県教育庁総務部文化財保護課、九州歴史資料館

## II 位置と環境

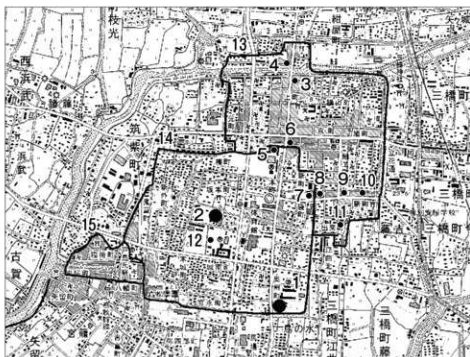
宮永町遺跡は、柳川市の中央部からやや南東寄りの中心市街地の隣接地に所在する、近世柳川城下町の遺跡である。旧城下町の全域が周知の埋蔵文化財包蔵地「柳川城郭跡」にあたり、確認調査により遺構を確認した地点から随時、近世の旧町名に由来する現在の町名を与えた遺跡を登録している。

本遺跡が所在する柳川市は筑後平野南西部の有明海北縁にあたり、西を筑後川、東を矢部川に挟まれた三角州に立地し、標高0～5m程度の平坦な低平地である。柳川市に面する有明海は干満差の激しい国内有数の干潟を有し、沿岸部には干拓地が広がる。柳川城の城郭を形成する城堀は、城下町の東辺にある3ヶ所の水門から二ツ川の水を取水して水路で繋ぎ、さらに城堀の南岸に複数の取水口を備え、二ツ川から市南部の宮永地区及び両開地区に再分配するための中盤施設の役割を果たす。

柳川城は国人領主蒲池氏が永祿年間（1558～1570）に築いたといわれるが、史料に乏しく詳細は不明である。豊臣秀吉の九州平定後、天正15（1587）年、立花宗茂が柳川城に入り、三藩・下妻・山門の三郡を支配した。慶長5（1600）年に関ヶ原の戦いで西軍に与した宗茂が改易されると、田中吉政が筑後国の領主として柳川城に入る。しかし2代忠政に後嗣が無く、断絶改易となった。そして元和6（1620）年、立花宗茂が再封され、以後幕末まで立花氏の支配が続いた。近世柳川城下町は柳川城を中核に「御家中」、「柳河町」、「沖端町」の三地区により構成されていた。御家中は、柳川城を中心よりやや南西に配するほぼ正方形の区域である。北と東は柳河町と堀を境として接し、西は沖端町や沖端村・鬼童村と接する。御家中は現在の城内地区に概ね相当する。

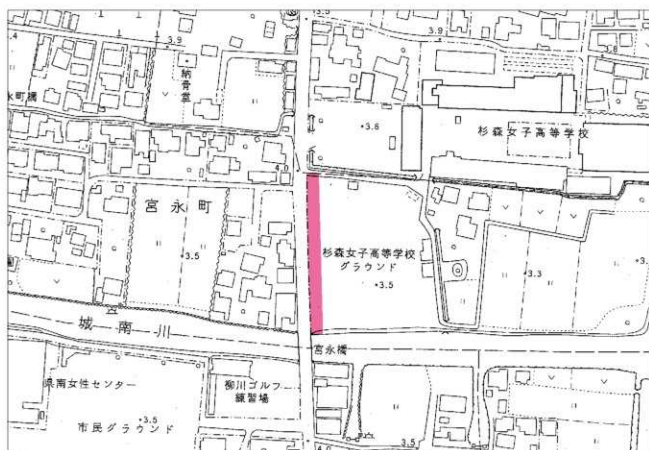
御家中の単位は小路で、宮永町は宮永小路に所属した。御家中は原則として藩士のみが居住できるが、例外的には御殿組の扶持人が住居し、外小路の一部には弓足軽、職足軽が居住した。

宮永町遺跡は城郭内の宮永小路にあたり、今回の調査地点である宮永町は外堀に南面した城郭南端部にあたる。当地は「文久・慶応・明治・家中変遷」によれば、文久二戊六月年調において、新中重茂、清水正三郎、森喜太郎の3軒の武家地であったことが記され、同資料中の明治廿九年一二月の屋敷地の状況として、3軒とも水田又は菜園へと用途が変化していることがわかる。その後、現在の杉森高等学校の運動場となり現在へ至る。

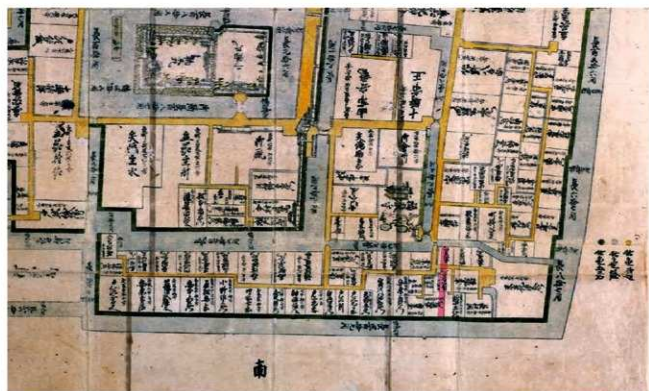


- 1 宮永町遺跡
- 2 本城町遺跡
- 3 上町遺跡
- 4 保加町遺跡
- 5 本町遺跡
- 6 京町遺跡
- 7 本町袋町遺跡
- 8 南長柄町遺跡
- 9 細工町遺跡
- 10 新町遺跡
- 11 出来町遺跡
- 12 柳川城址
- 13 柳河（城下町）
- 14 城内（御家中）
- 15 沖端（港町）

第2図 周辺遺跡分布図（1/25,000）



第3図 調査区位置図 (1/2,500)



第4図 御家中絵図 (『旧藩主立花家史料』より一部抜粋)

### Ⅲ 調査の内容

宮永町遺跡の発掘調査は、令和2年10月23日から作業に必要なプレハブ等の搬入を開始し、重機による表土掘削を開始した。調査にあたっては、安全を考慮し調査を行った。遺構密度はそれほど高くないが、調査区全面にわたっており、全体図を1/20縮尺で実測し、各遺構のレベルを入れる作業を行った。また主要遺構については個別に実測図作成を行い、写真撮影も行った。調査が終了したのは令和2年12月25日である。

調査範囲は東西2.8m、南北90.5m、第1面の面積が287㎡であり、2面調査を行ったため、総調査面積は574㎡である。検出した主な遺構は、土坑、小穴である。出土遺物は、近世陶磁器、青磁、白磁、染付け、土師器、瓦質土器、土製品、瓦、木製品、鉄製品、銅銭である。

#### 1 第1遺構面

##### SK-2 (第6図)

調査区の南部分で検出した正方形の土坑で、長軸1.9m・短軸約1.8m、深さは最深部で0.2mを測る。埋土は暗黒色粘土で、埋土のしまりは強い。底面は全体的に平坦で、立ち上がりは比較的緩やかな傾斜を呈する。

##### 出土遺物 (図版8、第7図)

1から3は陶器である。1と2は皿で、貫入がある。1は見込みに蛇ノ目釉剥ぎ、高台内面及び高台に胎土目痕がある。2は豊付けに釉剥ぎ及び胎土目痕がある。3は壺で丸みを帯びた器形で内面及び外面に釉だれがあり、外面底部付近にスガが付着する。4は白磁の皿で、薬灰釉が施軸されている。5から8は肥前系磁器の染付碗で、外面に草文が描かれる。7の外面には赤絵が描かれる。

##### SK-3 (第6図)

調査区の西側で検出した不定形の土坑で、SK-2と切り合う。長軸1.68m・短軸0.77m以上、深さは最深部で0.47mを測る。埋土は明黒色土で、埋土のしまりは普通。底面は北側がテラス状になり、立ち上がりは比較的緩やかな傾斜を呈する。

##### 出土遺物 (図版8、第7図)

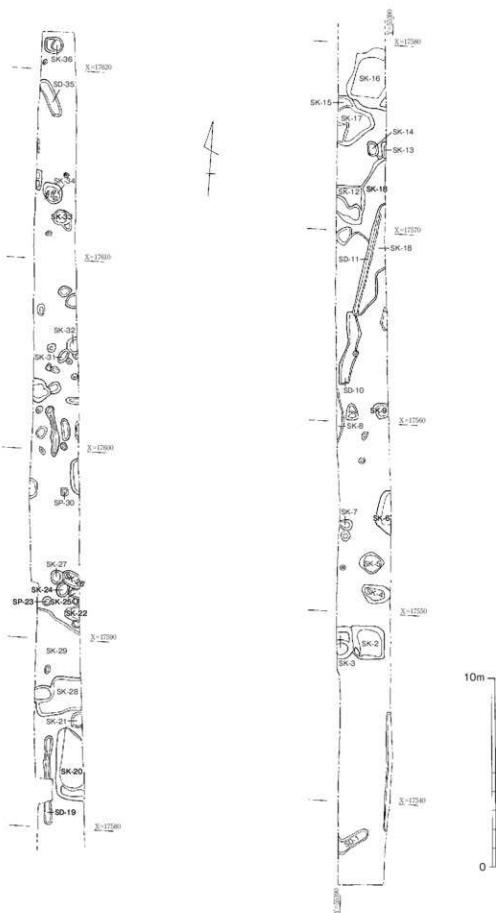
9は瓦質土器の鉢である。内面及び外面にナデ、ハケメ、オサエの調整を施す。10から12が陶器で、10は播鉢である。内面は播目、外面は回転ナデが施される。11は皿である。内面は白化粧土後に緑釉葉を掛け、外面は緑釉後に白化粧土を掛け、貫入がある。12は碗である。高台は露胎で、豊付けに4つの胎土目痕がある。13は青磁の壺である。外面肩部に梅花を貼り付ける。

##### SK-4 (第6図)

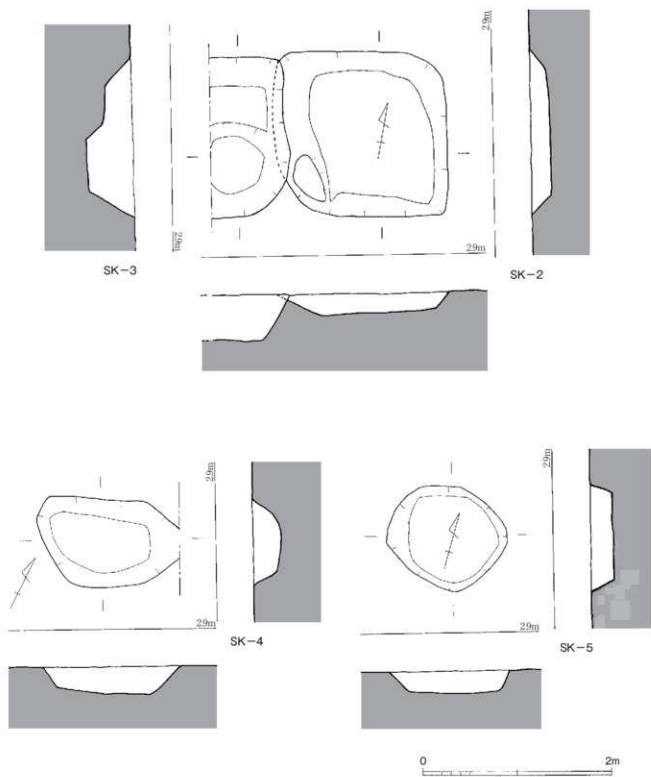
調査区の南側で検出した楕円形の土坑で、長軸1.44m・短軸0.95m、深さは最深部で0.28mを測る。埋土は暗黒色粘土で、しまりは強い。底面は全体的に平坦で、西から東に向かって若干傾斜する。立ち上がりは、比較的緩やかな傾斜を呈する。

##### 出土遺物 (第7図)

14は瓦質土器の甕で、外面及び内面はハケ及びナデ等の調整を施す。

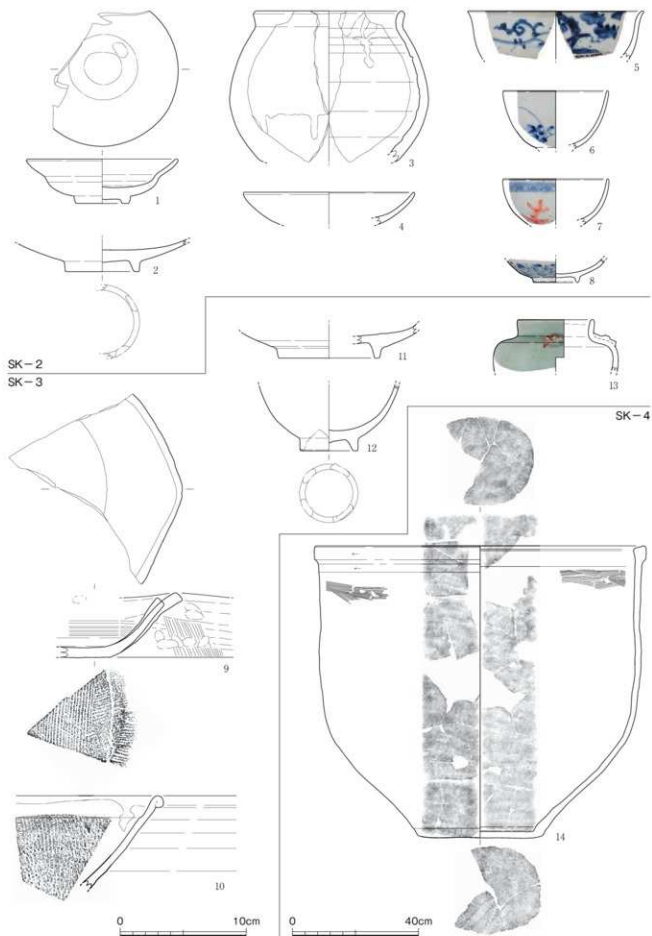


第5図 第1遺構面遺構配置図 (1/200)

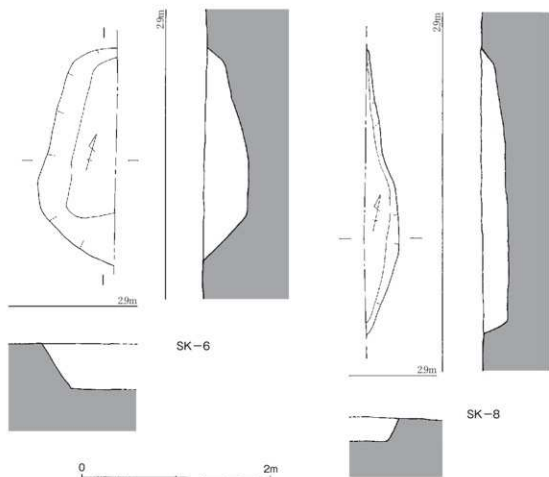


第6図 SK-2・3・4・5実測図 (1/40)





第7図 SK-2・3・4出土遺物実測図 (14は1/12、他は1/3)



第8図 SK-6・8実測図 (1/40)

#### SK-5 (第6図)

調査区の南側SK-4の北側で検出した楕円形の土坑で、長軸1.27m・短軸1.1m、深さは最深部で0.24mを測る。埋土は暗黒色粘土で、しまりは強い。底面は全体的に平坦で、立ち上がりは比較的緩やかな傾斜を呈する。

#### 出土遺物 (図版8、第9図)

15は瓦質土器の鉢で、外面下部から底部にかけて被熱の痕跡が残る。

#### SK-6 (第8図)

調査区の東で検出した不定形の土坑で、長軸2.19m・短軸0.75m以上、深さは最深部で0.45mを測る。埋土は暗黒茶色土で、しまりは普通。底面は中央に向かって落ち込み、立ち上がりは比較的緩やかな傾斜を呈する。

#### 出土遺物 (第9図)

16から17は陶器である。16は小杯で、貫入が見られる。17は碗で貫入があり、口縁部及び胴下部に鉄釉を塗り、外面に緑染付で竹笹文を描く。18は磁器の染付碗で、外面口縁部及び高台に圈線、外面に文様を描く。

## SK-8 (第8図)

調査区の西で検出した不定形の土坑で、長軸3m・短軸0.37m以上、深さは最深部で0.26mを測る。埋土は灰色土で、しまりは普通。底面は北に向かって若干高くなり、立ち上がりは比較的緩やかな傾斜を呈する。

## SK-16 (第10図)

調査区中央で検出した不定形の土坑で、長軸3.1m・短軸1.64m以上、深さは最深部で0.79mを測る。埋土は黒色土で、しまりはゆるい。埋土中に炭や橙色の粒状の小ブロックを含む。底面は全体的に平坦で北側に、長方形の土坑を伴う。立ち上がりは比較的急な傾斜を呈する。

### 出土遺物 (図版8～11、第9・11・12図)

19から22は土師器の小皿で、外面底部に糸切り痕がある。23から24は白磁の小杯で、貫入が見られる。25は陶器の碗で、内面に灰釉を掛け、見込みに砂が付着する。26は白磁の碗で、疊付に2ヶ所砂目が付着する。なお、後日接合できたため図面と写真で器形が異なる。27から42は陶器で、27から28は碗である。27は貫入が見られる。28は外面下部に花卉装飾を施し高台内に「小倉」の文字彫りがあり、見込みに鉄絵の山水文を描く。29は皿で、見込みに蛇ノ目状に白化粧土を塗る。30は碗で見込みに鉄絵を描く。31は瓶で鉄軸を掛ける。32は火入で、鉄軸を掛ける。33は鉄鉢で外面の口縁近くに印花あり。34は甕である。35は火入で、外面胴部に鎊釉を帯状に施す。36は鉢で外面及び内面に白化粧土による刷毛目装飾を施す。37から42は播鉢である。38と39は播目が11本施される。40は播目が13本施される。41は播目が11本施される。42は底部に糸切り痕、見込みと底部に胎土目痕がある。43から47は白磁である。43は碗で、剥落しているが赤絵により草花文等が描かれる。44は小杯で、高台内に砂が付着する。45は菊花小皿で、内面及び高台内に砂が付着する。46と47は碗であり、47は内面及び外面に貫入がある。48から60は染付である。48から50は皿で、48は内面及び外面に唐草文が描かれる。49は内面に墨弾きによる捻文が描かれる。50は見込みに松竹梅文、外面に唐草文を描く。51は蕎麦猪口で、外面に文様がある。52は小杯で、外面に楓文が描かれる。53は碗で、外面に草花文が描かれる。54と55は皿で、見込みに五弁花文が施される。55は内面に折枝梅文、見込みに五弁花文、高台内面に「大明年製」が描かれる。56から74は碗で、56は外面にスタンブ文がある。57は内面及び外面に色絵で施文される。58は菊、草花文が描かれる。59は外面に花、唐草文が描かれる。60は外面に竹、梅文が描かれる。61は陶器の碗で、見込みに山水文が描かれる。62から74は染付碗で、62は外面に草花文が描かれる。63は外面に唐草文が描かれる。64は外面に草花文が描かれる。65から67は見込みと外面に網目文、見込み丸に菊花文が描かれる。68は外面口縁部に雨降文が描かれる。69は高台内に一条の圏線が描かれ、僅かに「大明年製」が残る。70は外面にコンニャク印判が施される。71は外面に文様が描かれる。72は見込みに、五弁花文が描かれる。73は外面に氷裂文を描く。74は外面に文様があり、高台外面に軸だれする。75は香炉で、外面に草文が描かれる。76は青磁色絵碗で、内面に色絵で松竹梅が描かれる。77は色絵碗で、外面に色絵で草花文等が描かれる。



SK-5

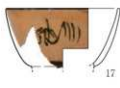
15

SK-16

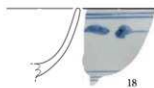


SK-6

16



17



18



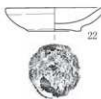
19



20



21



22



23



24



25



26



27



28



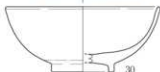
29



30



31



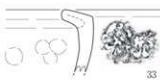
32



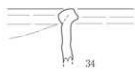
33



34



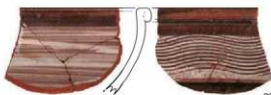
35



36



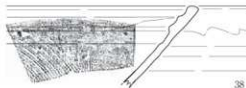
37



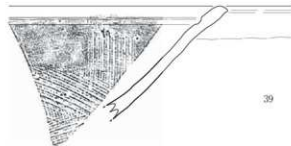
38



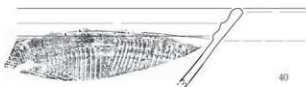
39



40



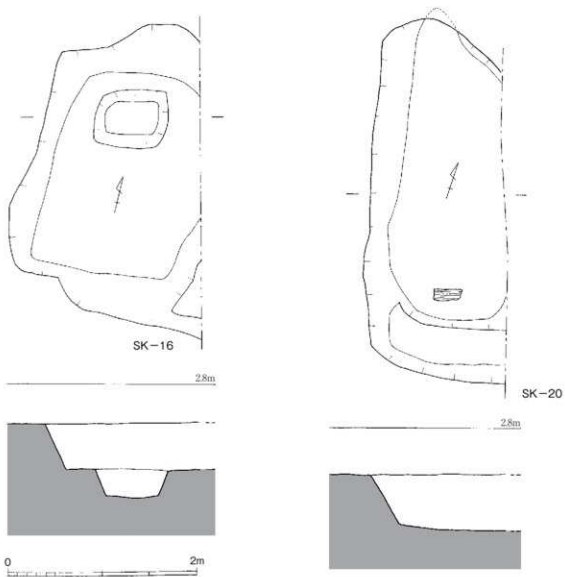
41



42

0 10cm

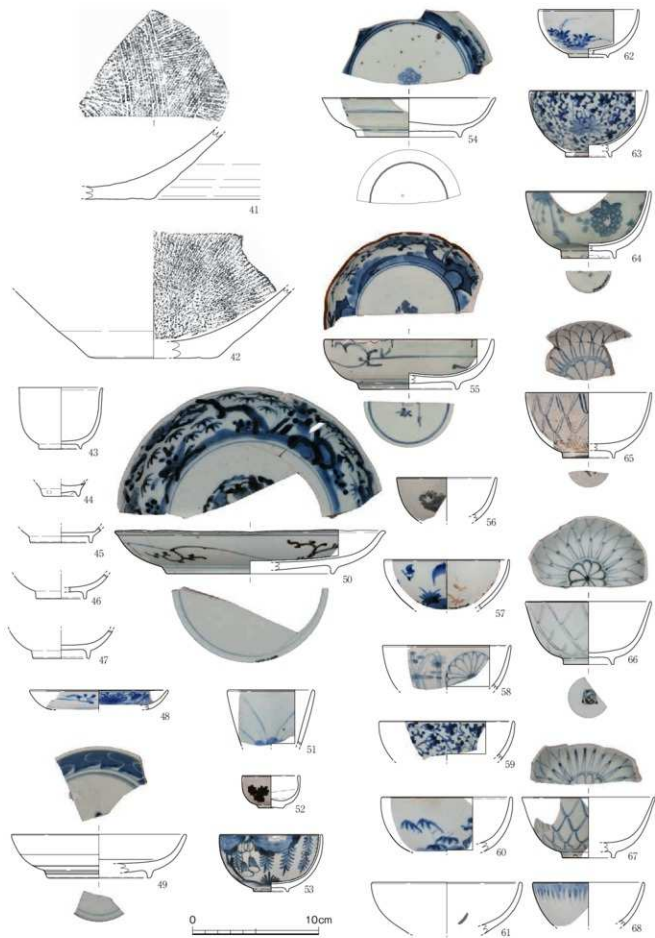
第9図 SK-5・6・16出土遺物実測図 (1/3)



第10図 SK-16・20実測図 (1/40)

**SK-20 (第10図)**

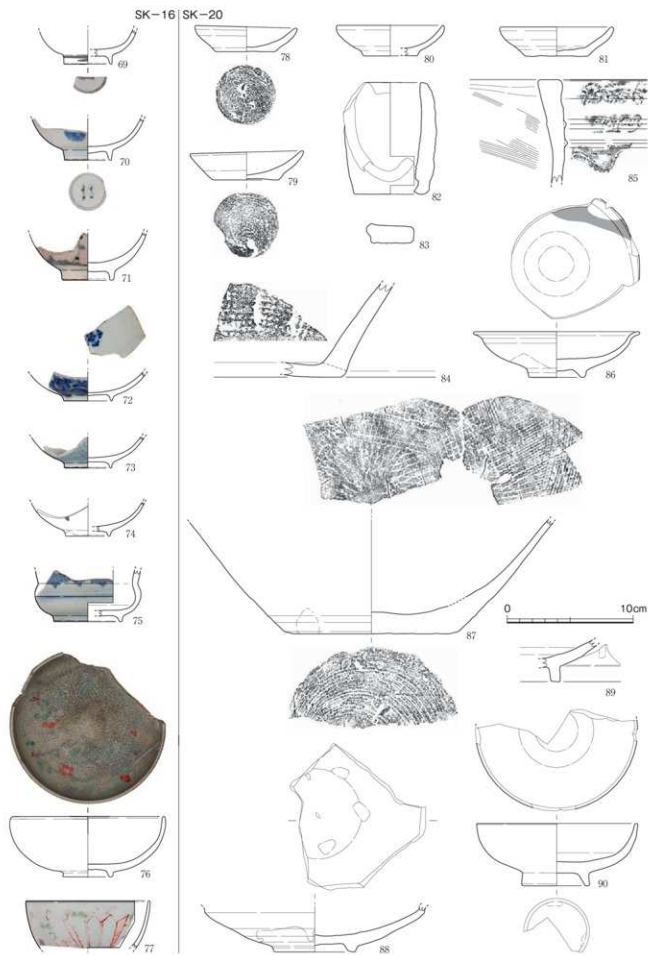
調査区中央で検出した不定形の土坑で、長軸3.83m・短軸1.4m以上、深さは最深部で0.59mを測る。埋土は黒色土で、しまりはゆるい。埋土中に、炭や木片等の有機物を含む。底面は全体的に平坦で、立ち上がりは若干急な傾斜を呈する。



第11图 SK-16出土遗物实测图② (1/3)

#### SK-20出土遺物（図版11、12 第12、13図）

78から81は土師器の小皿で、78から80は外面底部に糸切り痕があるが80は摩耗する。81の外面底部は、ヘラ切りがされる。82と83は土器質で82は器種不明であるが、83の栓の様な物と対である。84は陶器の甕で、内面に格子目のタタキ痕がある。85は瓦質土器の火鉢で、口縁外面に二条の突帯を貼り付け、印刻を施す。86から94は陶器である。86は皿で、内面に緑青色の灰軸をかける。口縁部の断面は被熱痕がある。見込みは蛇ノ目軸剥ぎがされる。87は播鉢で、胴部下部に指オサエ跡が3ヶ所残る。88は皿で、見込み及び外面豊付から高台の外裾部にかけて胎土目痕が見られる。89は鉢の底部片である。90と91は碗である。90は見込みに蛇ノ目軸剥ぎ、豊付軸剥ぎがされる。91は内面に白泥で叩刷毛目を施す、外面は白泥で蛸手を施す。92は鉢で、貫入が見られる。93は台付皿で、見込みから高台外面にかけて白化粧土を円状に施す。94は鉢で内面は白化粧土の上に施軸し、波状の刷毛目模様を描く。外面が口縁から黒褐色の灰軸をかける。高台に胎土目痕が2ヶ所残り、見込みには環状に砂目跡が残る。95から98は白磁である。95は小杯で、貫入が見られる。96は紅皿で菊花状に内面型打し、高台を貼り付ける。97は碗で、口縁に口鑄が施される。98は皿で、見込みは蛇ノ目軸剥ぎがされる。99は陶器の小杯で、外面に不明な文様と二条の圈線を描く。見込みに砂が付着する。100から103は染付である。100は小杯で、外面に菊文が描かれる。101は碗で、外面胴部に桐コンニャク印判を施文する。102は皿で、内面に松竹梅文、外面に唐草文を描く。口縁は口鑄が施される。103は輪花碗で見込みに五弁花文が施され、外面は口縁に濃淡の差がある2種類の桜花文を交互に描く。104は変成岩製の基石である。



第12図 SK-16・20出土遺物実測図 (1/3)



## 第1遺構面その他の遺構出土遺物（図版12～17、第13～19図）

105から109はSD-1から出土した遺物である。105は灯明皿で、内外面に口ウが付着する。外面底部は糸切り痕が残る。106は皿で、内面に8本単位の描目による調整を施す。107は鉢で、内面及び外面は鉄軸をハケ掛け後、外面から内面口縁部に白化粧土をハケ掛けを施す。108は土鍋で、口縁を折り曲げて逆L字形に成形し、口縁部付近に把手を貼り付ける。109は白磁の赤絵小杯で、外面に赤絵の痕跡がある。

110から112、114はSD-10から出土した遺物で、110から112は陶器である。110は播鉢で、鉄軸を全面に施し、内面は描目を施す。111と112は碗で、111は内面及び外面に鉄軸をハケ塗り後、白化粧土をハケ塗りする。112は貫入が見られる。114は染付碗で、内面口縁部は袈裟襷文帯、外面は微塵唐草に蝶文を描く。

113、115、116はSD-11出土の遺物である。113は青花碗で、内面は一条の圏線、外面に文様を描かれる。115は染付皿で、内面に葉の文様、外面に圏線が描かれる。116は陶器の碗で、口縁に雨降文のような黄緑色の釉薬がかかる。

117から152はSK-12出土の遺物である。117から119は土師器で、117は焼壺である。内面及び外面はナデ調整を施し、外底は摩耗して調整は不明である。118と119は皿である。118は小皿で底部は糸切り痕、ヨコナデ調整が残り口縁部に煤が付着する。119の底部はヘラ切り痕、ヨコナデ調整が残る。120と121は陶器の灯明皿で底部に糸切り痕が残る。122は白磁の小杯で、貫入が見られる。123から137は陶器である。123は小杯で、高台から腰まで露胎である。124は色絵碗で、外面に赤釉で文様が残る。125は鉢で、見込み底部及び高台の外面から底にかけて砂が付着する。126は土鍋で、外面の口縁付近にヘラ押し痕がある。127は碗で、貫入が見られる。128から130は土瓶の蓋である。128と129は宝珠状の摘みが付く。130は鉄軸が掛かる。131は土瓶で、外面の口縁から胴下部まで鉄軸が掛かる、施軸部分に白化粧土で文字が描かれる。132は片口鉢で、片口部分は手捏ねである。133と134は鉢で、133は外面に白化粧土を塗布し、帯状に掻き取り、鉄絵と褐釉を掛け流す。その後、白化粧土の上に外面上部から内面にかけて透明釉を掛ける。134は外面に、褐色の灰釉を掛ける。135と136は播鉢で、内面に描目を施し、外面に鉄軸を掛ける。136は、高台外面及び内面から底部にかけて砂が付着する。137は碗で外面に1ヶ所、取っ手が付く。

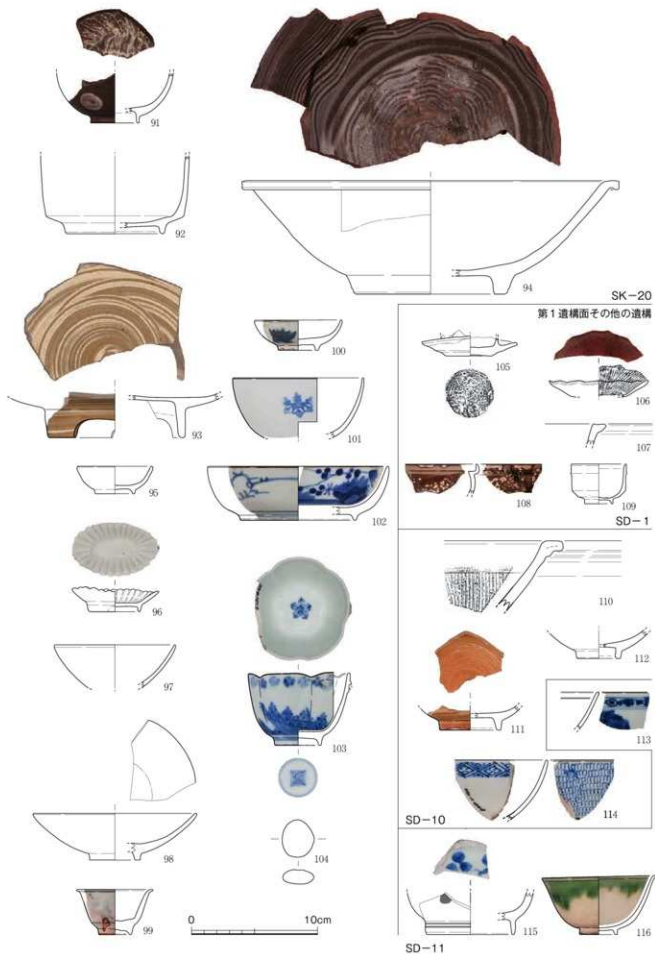
138から141は白磁である。138は小杯である。139は碗である。140は皿で、胴部の高台際近く及び高台に一条の圏線を描く。141は碗である。

142は青花の蓋である。

143から152は染付である。143と144は碗で143は見込み及び胴部に水裂文が描かれる。144は外面に文様、高台に二条の圏線、見込みに一輪の花が描かれる。145は皿で、外面に草文が描かれる。146、147は碗である。146は外面胴部に雪持笹文を描く。147は内面口縁部に雷文、外面に鶴、雲文、裾部に襷文を描く。148は合子の蓋で、外面に水裂文を描く。149は碗で、外面胴部に松の文様を描く。150、151は皿である。150の外部底面は、蛇ノ目凹形高台。151は型打ち成型で作られ、花卉型を呈する。見込みに山水文を描く。152は蓋で、外面の区画間の中に四方襷文を描く。

153と154はSK-13出土の皿で、153は磁器である。154は染付で、見込みに松、草文を描く。

155から157はSK-14出土の遺物である。155は陶器の皿で見込みに鉄軸を掛け、砂が付着する。156は染付碗で、外面口縁部に雨降文を描く。157は色絵の皿で、見込みは緑色で笹が描かれる。外面は赤絵により文様が描かれる。



第13図 SK-20・第1遺構面その他の遺構 (SD-1・10・11) 出土遺物実測図 (1/3)

158から160はSK-15出土の遺物である。158は土師器の皿で、外面底部は糸切り痕が残る。159は磁器の碗で、外面に鉄絵が描かれる。160は染付の皿で、見込みに菊花・草・蝶、外面胴部に唐草文を描く。

161から164はSK-17出土の遺物である。161は陶器の碗で、外面に文様が描かれる。162と163は磁器である。162は染付碗で、外面に文様が描かれる。163は仏飯器で、外面にコンニャク印判の様な文様に一部が見られる。164は土師質土器の灰器で、口縁部に格子状のタキが残る。

165から168はSK-18出土の遺物である。165は陶器の碗で、貫入が見られる。166から168は染付である。166は皿で、内面に二重格子文を描く。167は花瓶で外面に草文を描く。168は段重で、外面に微塵唐草文を描き、重ね部に砂が付着する。

169はSK-21出土の瓦質土器の甕で、内及び外面の口縁にハケの上から横ナデ、外面胴部にハケ目、内面胴部にハケ目、外面胴部の一部は摩滅する。

170から181はSK-22出土の遺物である。170は土師器の小皿である。171から174は陶器で、171は土鍋である。口縁は、折り曲げて逆L字形成形し、口縁下に飛びカンナ文を施す。172は甕で、底部に火彫れがあり、外面は白化粧土がたれる。173は徳利で、外面上部は白化粧土の文様が描かれ、下部は鉄軸で笹文を描く。174は壺で、上野高取系と考えられる。175から181は磁器である。175は染付の蓮華で、内面に半菊文が描かれる。176と177は染付皿である。176は内面に折松文が描かれる。177は外面及び高台に圏線、内面に文様が描かれる。178と179は染付碗で、178は外面に草花文を描く。179は外面に梅花文、裾部に三条の圏線、氷裂文が描かれる。180は赤絵で外面に牡丹唐草文が描かれる。181は内面に色絵で、文様が描かれる。

182はSP-23出土の遺物である。白磁の菊花小皿で、押型成形される。高台内にハリ跡が1ヶ所、見込みにハマ跡が2ヶ所確認できる。

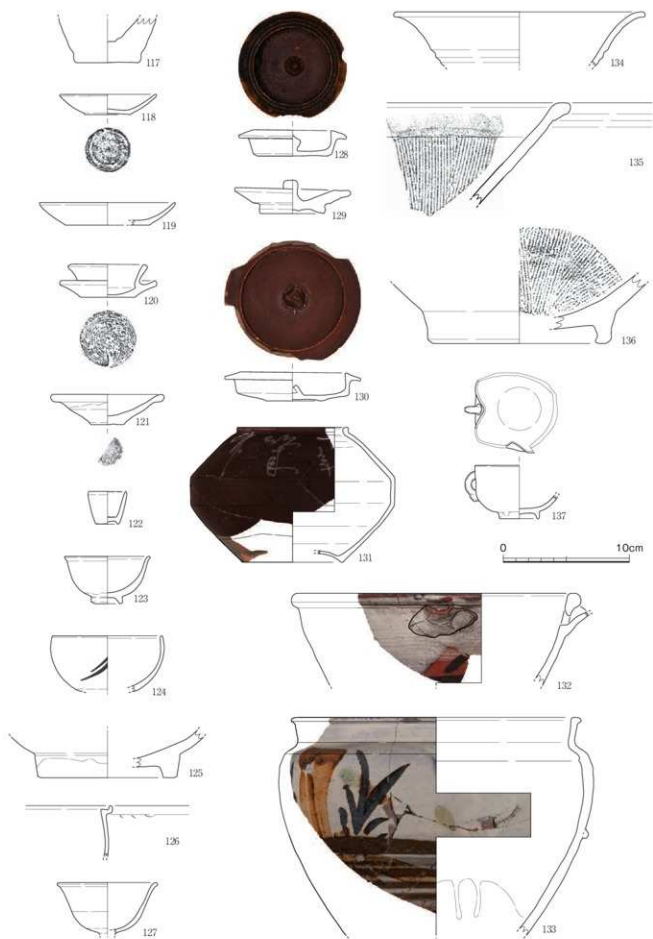
183と184はSK-24出土の陶器である。183は灯明皿で、外面底部は糸切り痕が残る。184は皿で、見込みは蛇ノ目軸刺ぎする。

185はSK-25出土の染付碗で、外面に雪輪草花文が描かれる。

186から188はSK-26出土の遺物である。186と187は陶器で、186は土鍋である。187は鉢である。188は染付鉢で、高台の外面に二条の圏線と鋸歯文が描かれる。

189から199はSK-28出土の遺物である。189から191は陶器である。189は小碗で外面は釉だれし、内面に砂目跡が残る。190は鉢で、口縁部上部に六条の溝を施す。191は播鉢で、内面に佛描文を施す。192はSK-20出土の遺物と接合した土師質の風炉である。外面はハケのちに斜め方向のミガキ、縦ナデの調整がされる。内面はハケのちオサエの調整がされる。193と194は陶器の碗である。193の内面は化粧土で刷毛掛けされる。194は貫入が見られる。195は白磁の碗である。196は陶器の鉢で、内面は化粧土で波状に佛掻きする。197は染付の皿で、見込みに花文が描かれる。198と199は染付の碗で、198は外面に花文が描かれる。199は外面に花唐草文が描かれる。

200から231はSK-29出土の遺物である。200と201は土師質土器である。200は播鉢で、9本単位の播目が施される。201は鉢である。202は瓦質土器の火鉢で、外面口縁部に印花を施す。203から221は陶器である。203は播鉢で、8本単位の播目が施される。204と205は皿である。204は見込みに胎土目痕が3ヶ所あり、胴部は釉だれがある。206は碗で見込みに山水文が描かれる。207から209は皿で、207の見込みは、蛇ノ目軸刺ぎがされ、高台と見込みに若干の砂が付着する。208は貫入が見られる。209は内面に、鉄絵が描かれる。210は壺で胎土目跡が、見込みに3ヶ所、壺付に4ヶ



第14図 第1遺構面その他の遺構 (SK-12) 出土遺物実測図 (1/3)

所残る。211は鉢で見込みに砂が付着する。212は皿である。213と214は火入で、213は筒形である。215は仏飯器である。216は碗で、内面及び外面に刷毛目模様を施す。217から219は皿で、217は内面及び外面に刷毛目模様を施す。218は見込みに刷毛目模様を施す。219は見込みに白土を掛けて刷毛目模様を施す、その上に砂目跡が4ヶ所残る。220と221は鉢である。220は内面は白化粧土でハケ掛け後、灰釉掛けを行い、外面は褐色の釉でハケ掛けを行う。高台内面は鉄漿によるハケ掛けを行う。221の口縁部は玉縁で肥厚である。外面下位は鉄漿を掛けると共に、白化粧土に櫛状掻き取りがされる。内面は白化粧土でハケ掛けを行う。

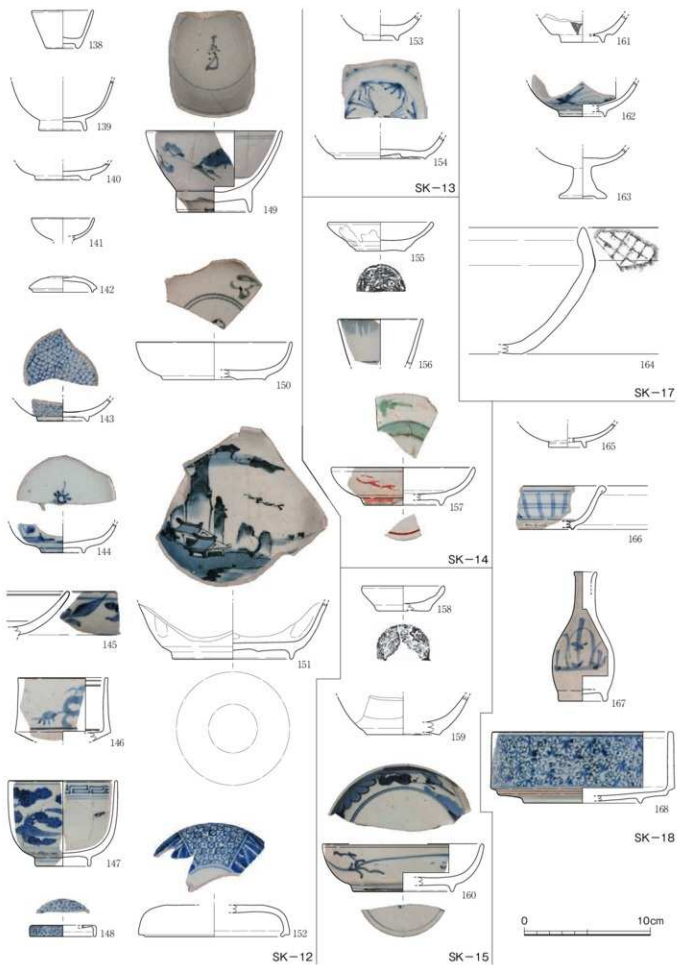
222から231は磁器である。222は白磁の皿で型押し成形がされ、見込みに花卉文様を陽刻する。223から226は染付の碗である。223は外面に、花唐草文が描かれる。224は胴部に文様が描かれ、高台に釉だれがある。225は見込みに薄い染付で、文様が描かれる。226は外面に、藤花文が描かれる。227は染付の鉢で、見込みに菊唐草文が描かれる。228は白磁の瓶で、内面に釉だれがある。229は磁器の瓶の頸部から口縁部で、頸部に文様が描かれる。230は染付の碗で、外面に山、船等が描かれ、高台付近に雷文が描かれる。231は染付の皿で、内面に折松葉文が描かれる。

232から236はSK-31出土の遺物である。232は陶器の播鉢で、口縁端部がくの字に内側に突出する。233は土師質土器の土鍋で、外面はハケメ調整が施される。234は陶器の播鉢で、12本単位の播目が施される。235は陶器の碗である。236は陶器の片口である。

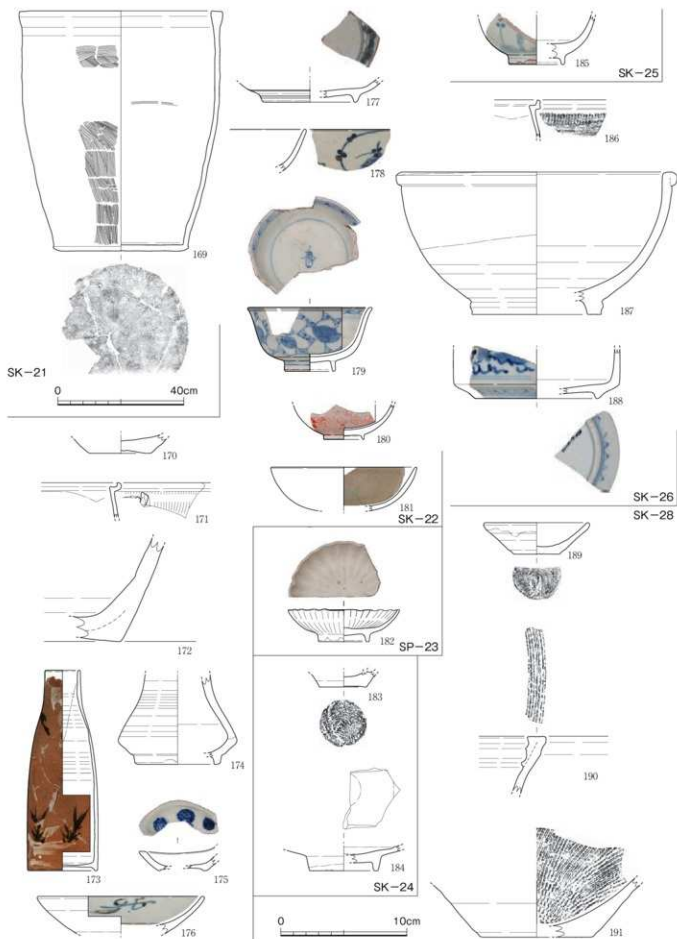
237はSK-32出土の染付碗で、外面に文様の一部を確認できる。

238と239はSD-35出土の陶磁器である。238は陶器の仏花瓶で、外面口縁部から内面にかけて茶褐色の鉄釉上掛けがされ、体部に鉄絵の笹文、褐色釉等で文様が描かれる。239は染付の皿で、見込みに葉文が描かれる。

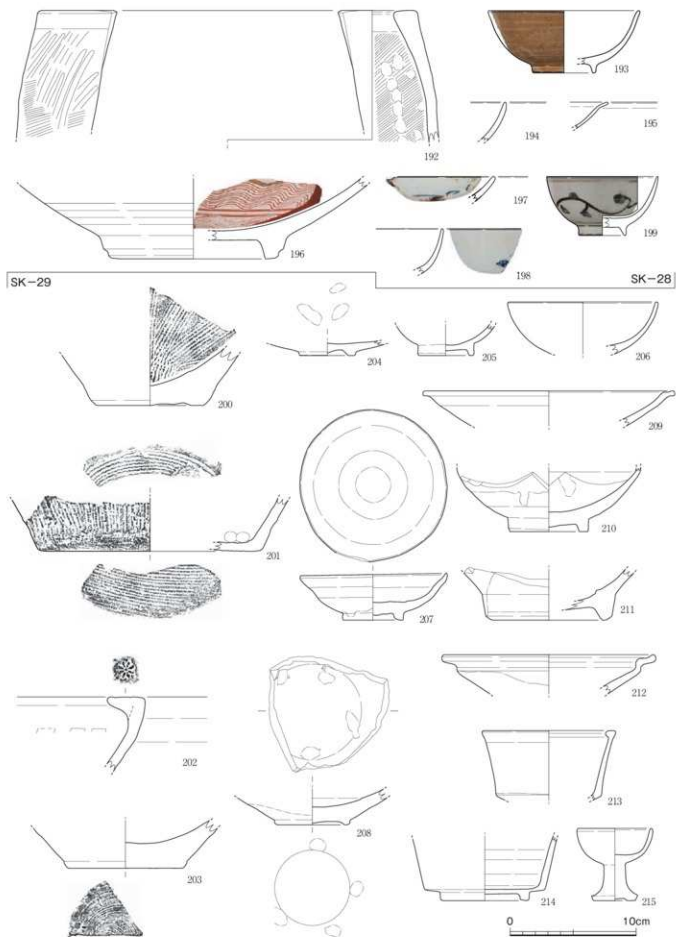
240から245はSK-36出土の遺物である。240は瓦質土器の火鉢で、外面口縁部付近に印花が施文される。241は陶器の碗で、内面から外面中ほどまで施釉する。242は白磁の皿で、器形は輪花を呈する。243は陶器の壺である。244は陶器の皿で、内面に白化粧土を掛け櫛状掻き取りにする。245は染付碗で、高台に「大明年製」と考えられる文字が描かれる。



第15図 第1遺構面その他の遺構 (SK-12・13・14・15・17・18) 出土遺物実測図 (1/3)

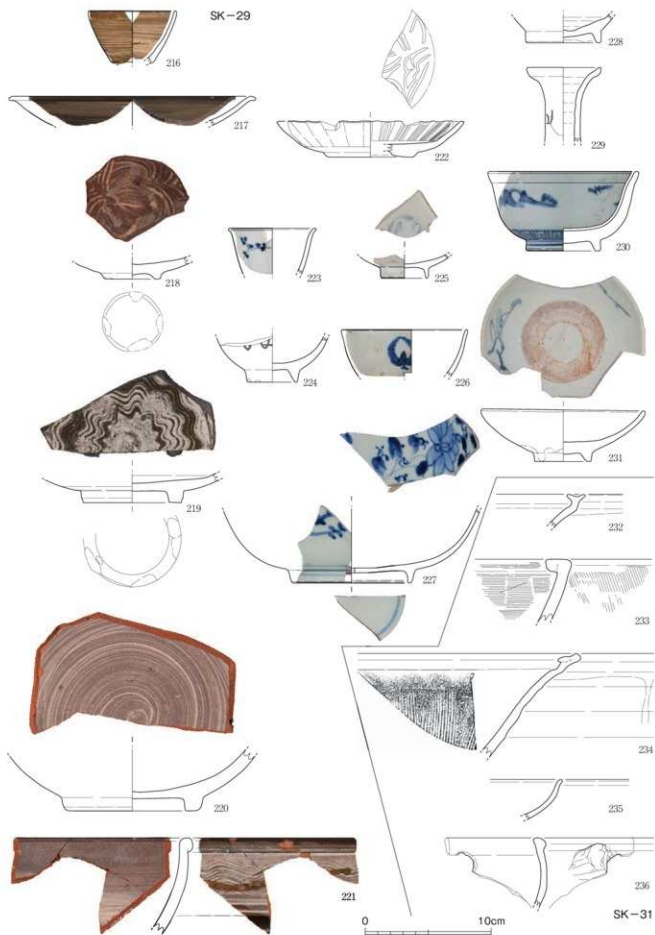


第16図 第1遺構面その他の遺構 (SK-21・22・SP-23・SK-24・25・26・28) 出土遺物実測図 (169は1/12、他は1/3)

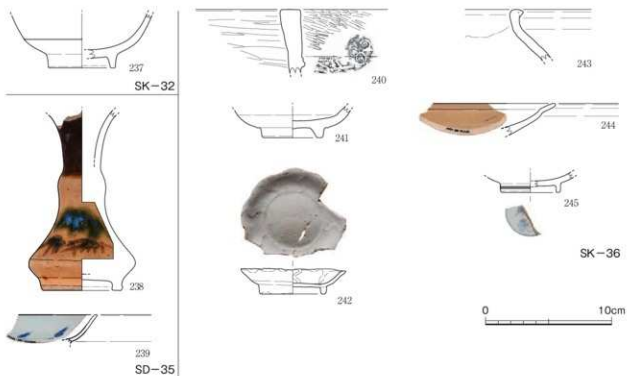


第17図 第1遺構面その他の遺構 (SK-28・29) 出土遺物実測図 (1/3)





第18図 第1遺構面その他の遺構 (SK-29・31) 出土遺物実測図 (1/3)



第19図 第1遺構面その他の遺構 (SK-32・SD-35・SK-36) 出土遺物実測図 (1/3)



## 2 第2遺構面

### SA-37 (第21図)

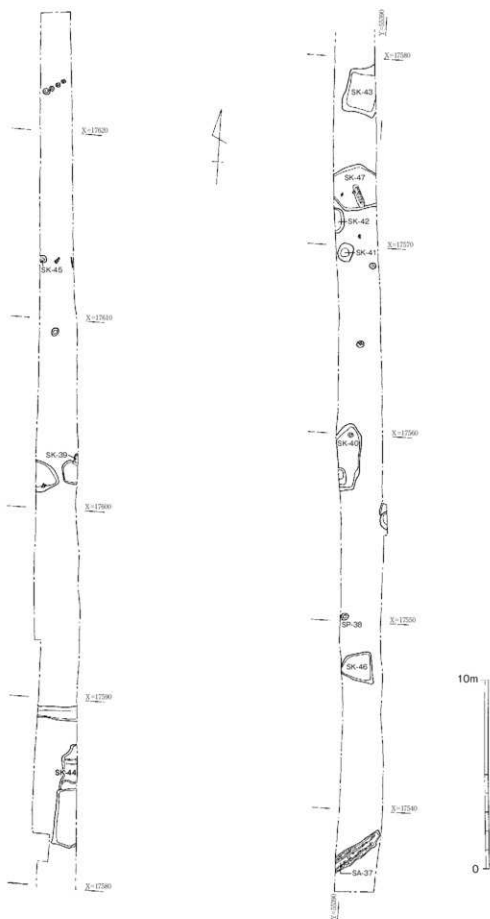
調査区南端で検出した土居の基礎と考えられる遺構である。遺構は、板状の木材と杭状の木材を用い、溝状となる。遺構は、長軸2.88m・短軸0.83m、深さは最深部で1.0mを測る。埋土の上層は灰白土で礫を含む、砂質である。中層は暗茶色土で、僅かに炭化物を含む。下層は、暗灰色の砂質である。西側は調査区外に伸びており全容は不明である。

### 出土遺物 (図版17、第22、23図)

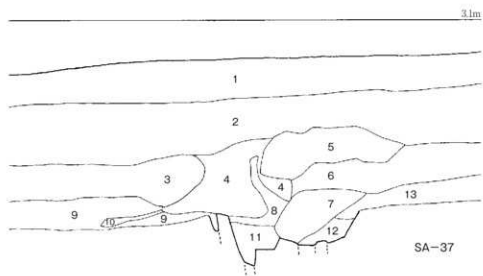
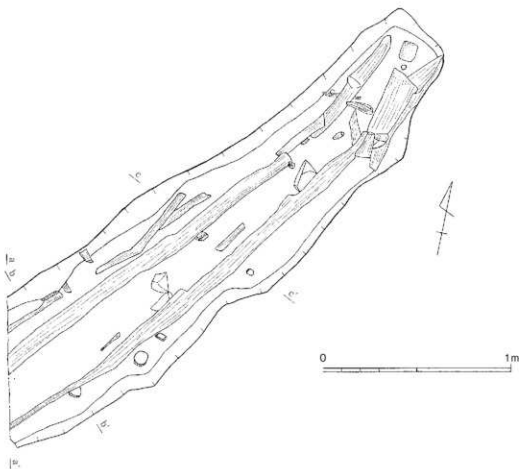
246は陶器の灯明皿で、底部は糸切り成形される。247は陶器の皿で、三鳥手のモチーフを見込みに刻印し鉄軸を全面掛けした後、印刻部に白化粧土を掛けて印刻部以外を拭きとって象嵌し透明釉を全面に掛ける。見込みに、窯当て具痕が3つ残る。248は陶器の鉢で、見込みに環状の砂目跡、高台内に砂目跡が残る。249と250は陶器の皿である。249は見込みに環状の砂目跡が残る。250は内面に、白化粧土を櫛状掻き取りし、その上に鉄軸を掛ける。高台は、貼り付け高台である。251は陶器の土鍋で、外面は飛び匏文が施される。252は陶器の鉢で、口縁部を白化粧土で塗った後、ハケでナデた様跡が残る。253は陶器の菊皿で、壘付けに砂が付着する。254は陶器の鉢で、鉄軸をハケで塗った後に、白化粧土を掛ける。255は白磁の壺である。256は陶器の鉢で見込み及び、高台内面、外面に砂目跡が残る。257は陶器の壺である。258は陶器の鉢で、内面腹部に鉄軸を塗り、上から灰釉を掛ける。口縁付近から外面にかけて、白化粧土を施す。外面は白化粧土の上から文様の一部がみえる。259は白磁の壺と考える。外面はイチチン描きによる文様が描かれる。260は陶器の鉢で、外面底部は、糸切りにより成形される。261は陶器の壺である。262は陶器の茶道具で、外面に穿孔のある獅子頭が貼付される。263は磁器の小杯である。264は白磁の合子である。265は白磁の碗である。266は磁器の壺で、外面に耳が貼り付く。267は磁器の小杯で、内面の口縁付近に金色の雷文、見込みに青色で「青陽之春」の落款、草花文が描かれる。268は染付の碗で、外面胴部に松文、裾部から高台外側に四条の圏線が描かれる。269は染付の碗で、外面に葉文が描かれる。270は染付の杯で、外面に山水文が描かれる。271は染付の碗で、外面に氷裂文・菊花文が描かれる。272は染付の碗で、外面に丸文が描かれる。273は染付の皿で、見込みに文様が描かれる。274は陶器の皿で、見込みに緑釉が掛けられる。275から277は染付の皿である。275は見込み及び外面に唐唐草文が描かれる。276は外面に唐草文が描かれる。277は外面及び見込みに、文様が描かれる。278は染付の徳利で、外面に遠山の文様が描かれる。279は染付の皿で、外面に唐草文が描かれる。280は染付の仏飯器で、外面に唐唐草文が描かれる。281は染付の花瓶で、外面に山水文等が描かれる。282は染付の皿で、口縁に連弧文、花文が描かれ、外面に唐草文が描かれる。283は黒い基石である。

### SP-38 (第24図)

調査区西側で検出した円形の小穴で、長軸0.4m・短軸0.34m、深さは最深部で0.27mを測る。埋土は茶黒色粘土で、しまりは弱い。底面は全体的に水平で、立ち上がりは比較的急な傾斜を呈する。



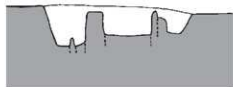
第20圖 第2遺構面遺構配置圖 (1/200)



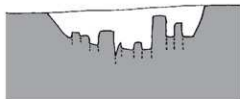
SA-37 土層断面図

1. 茶色土層 (表土) 粘質強い
2. 明茶色土層 粘質強い
3. 明黄茶色土層 粘質強い
4. 暗茶色土層 粘質強い  
炭をわずかに含む
5. 灰白色砂層 粘質強い  
礫を少量含む
6. 暗茶灰色土層 粘質普通  
炭を少量含む
7. 暗灰色砂層 粘質弱い
8. 明黄灰色粘土層 粘質弱い
9. 黄白色粘土層 粘質弱い
10. 灰色砂層 粘質普通
11. 青灰色粘土層 粘質強い  
石、砂利、陶器を多量に含む
12. 青灰色粘土層 粘質強い  
楳の粒状の金属成分を含む
13. 黄白色粘土層 粘質弱い

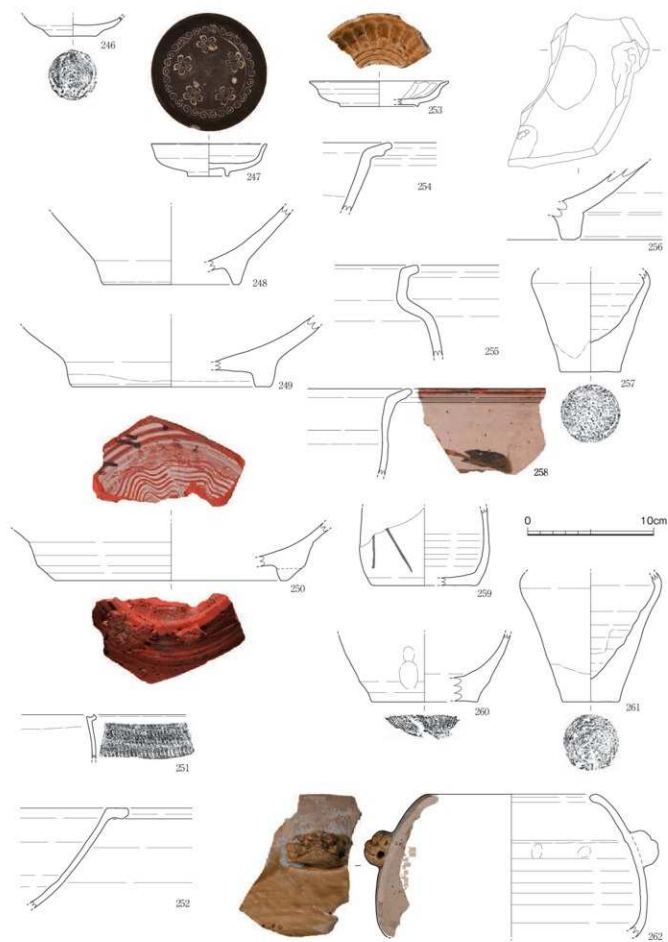
b ————— 2.3m b'



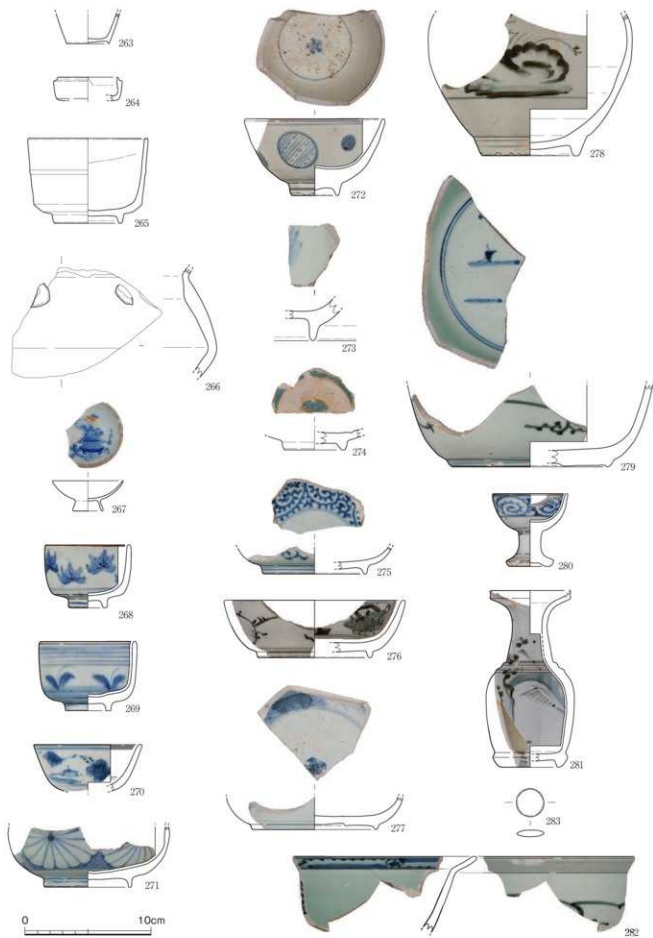
c ————— 2.3m c'



第21図 SA-37実測図 (平面図1/20, 断面図1/40)



第22图 第2遺構面SA-37出土遺物実測図① (1/3)



第23图 第2遺構面SA-37出土遺物実測図② (1/3)



#### SK-39 (第24図)

調査区の東側で検出した不定形の土坑で、長軸0.5m以上・短軸0.3m以上、深さは最深部で0.15mを測る。遺構は第1遺構面で検出した、SK-6と切り合っており残りは僅かである。埋土は炭化物を含む、黄灰色粘土で、しまりは普通。底面は全体的に水平で、立ち上がりは比較的急な傾斜を呈する。

#### 出土遺物 (図版17、第26図)

284は陶器の鉢で、内面及び外面に鉄釉を施す。285は陶器の碗で、壘付け、胴部に砂が付着する。286は陶器の描鉢で、14本単位の描目が施され、外面底部は糸切りにより成形される。

#### SK-40 (第24図)

調査区西側で検出した不定形の土坑で、長軸2.9m・短軸1.16m、深さは最深部で0.27mを測る。埋土は暗茶色粘土で、しまりは弱い。底面は中央に向かって落ち込む、立ち上がりは比較的急な傾斜を呈する。

#### SK-41 (第25図)

調査区の中央で検出した不定形の土坑で、長軸0.92m・短軸0.8m、深さは最深部で0.36mを測る。埋土は黒灰色粘土でレンガ、炭化物を含み、しまりはやや弱い。底面は全体的に水平で、立ち上がりは急な傾斜を呈する。

#### 出土遺物 (図版18、第26図)

287は陶器の碗で、見込みに窯当具痕が残る。288は陶器の鉢で、内面は白土による刷毛目装飾を施す。

#### SK-42 (第25図)

調査区中央で検出した不定形の土坑で、長軸1.3m・短軸0.48m以上、深さは最深部で0.3mを測る。埋土は暗茶色粘土で、底面は緩やかなレンズ状で、立ち上がりは比較的急な傾斜を呈する。西側は調査区外へ広がっているため、全容は不明である。

#### 出土遺物 (図版18、第26図)

289は陶器の合子の蓋である。290は陶器の皿で、口縁部は鉄釉を掛け、皮鯨手風である。291は陶器の碗で、外面に文様の一部が描かれる。

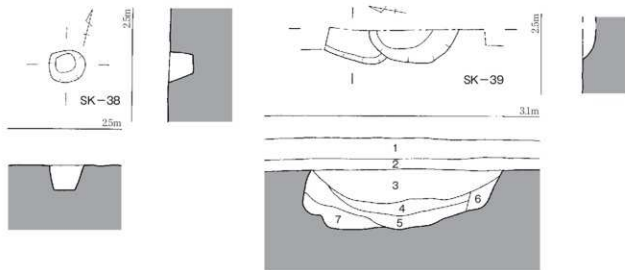
#### SK-43 (第25図)

調査区中央で検出した不定形の土坑で、長軸2.74m・短軸1.53m以上、深さは最深部で1.0mを測る。埋土は黄灰色粘土で、しまりは弱い。底面は全体的に水平で、立ち上がりは急な傾斜を呈する。

#### 出土遺物 (図版18、19、20、第26、27、28、29図)

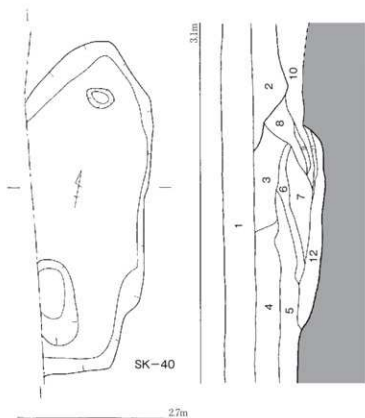
292から300は土師器の皿で、292から297、299の底部は糸切り成形され、ヨコナデ調整がされる。295の内面は黒煤が付着する。296の口縁部には、燃焼跡が残る。298は口縁部付近に墨書があり、外面底部は糸切り成形される。300の外面はヨコナデ調整がされ、外面底部はへら切りにより成形される。

301は土師質土器の焼塩壺で、外面に煤が付着する。302から329は陶器である。302は皿で、内面



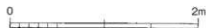
SK-39 土層断面図

1. 明黄色土層(表土) 粘質強い かく乱
2. 茶褐色土層 粘質強い
3. 暗茶色土層 粘質強い 炭を少量含む
4. 暗灰色土層+黒色有機物層 粘質普通  
少量の黄白色粘土を含む
5. 黒灰色土層 粘質普通  
薄紅色の有機物、黄白色粘土を含む
6. 灰色土層 粘質強い  
橙の粒状の金属成分を含む
7. 灰色土層 粘質強い  
橙の粒状の金属成分を含む
8. 青灰色粘土層 粘質弱い



SK-40 土層断面図

1. 茶色土層(表土) 粘質普通
2. 暗茶色土層 粘質強い S8遊積礫土
3. 明灰色土層 粘質強い 炭を少量含む
4. 明灰色土層 粘質強い
5. 黄灰色土層 粘質強い
6. 黒灰色土層+黄白色粘土層  
粘質普通 二つがまばらにある層
7. 黒灰色有機物層 粘質弱い
8. 黄白色土層 粘質強い  
一部に黒色土を含む
9. 黒色有機物層 粘質弱い
10. 黄灰色粘土層 粘質弱い
11. 黒灰色有機物層 粘質弱い
12. 茶灰色粘土層 粘質弱い
13. 青灰色粘土層 粘質弱い



第24図 SK-38・39・40実測図 (1/40)

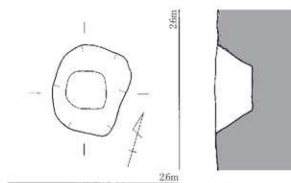
から外面口縁部にかけて鉄軸の軸だれが広がる。303は小杯である。304は碗で、口縁部に銅緑釉が施釉され、高台から腰部まで露胎である。305は碗で、内面及び外面に貫入が見られる。306から308は皿で、見込みは蛇ノ目軸剥ぎがされる。309は壺で、外面底部に貝の目跡が残る。310と311は鉢である。310は外面底部に糸切り痕が残る。311は見込みに大量の砂が残る。312は瓶で、内面及び高台豊付は無釉で、高台内と体部下半に鉄漿を施す。313は鉢で、見込みに砂が付着する。314は皿で、見込みが軸剥ぎされる。315から320は播鉢である。315は11本単位の播目が施される。316は9本単位の播目が施される。317、318は口縁部に鉄軸を施す、櫛描文の単位は不明である。319は内面に播目を描く、単位は不明である。320は外面底部に胎土目跡が残る。321は皿で、見込みは蛇ノ目軸剥ぎのち鉄漿を塗布する。蛇ノ目軸剥ぎの外側は、1.4cm幅で白化粧土を施した後、櫛掻き

が施される。322は壺で、内面及び外面の胴下位に鉄軸刷毛掛けが施される。323は肥前系京焼風の碗で、見込みに鉄軸で山水文を描く。324は花生である。325から327は皿である。325と327の見込みは、蛇ノ目軸剥ぎが施される。326は内面に打刷毛目を施す。328は汽車土瓶で、外面に鉄軸を施し、その上に白化粧土で文字、緑釉で草文を描く。329は鉢で、内面は白化粧土で刷毛目模様を描かれる。

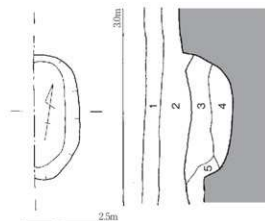
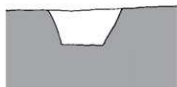
330は白磁の文字、外面に柿右衛門系にごし手風楓が描かれる。331は白磁の碗である。332は磁器の皿で、器形は花卉形を呈する。333は青磁の碗で、高台が高い。334は陶器の小杯で、器形は端反する。薬灰釉が掛けられ、外面に草文が描かれる。335から345は染付碗である。335の外面には草文が描かれ、豊付に砂が付着する。336は外面に草花文が描かれる。337は外面に草花文と宝文が描かれる。338は草花文が描かれる。339は外面に楓文が描かれる。340は外面に蛇竜草花文が描かれる。341は外面に暗青色の染付で、草文が描かれる。342は外面に草文が描かれる。343は外面に花卉文、柿文が描かれる。344は外面に竹文が描かれる。345は見込みに菊文、外面に草花文が描かれる。

346は染付の皿で、見込みは蛇ノ目軸剥ぎがされる。347は染付の手塩皿で、見込みに草花文、外面に唐草文が描かれる。348は染付の碗で、内面に松文を描く。349は染付の皿で、内面は半菊唐草文、外面は唐草文、高台内は「大明年製」が描かれる。350は陶胎染付の瓶で、豊付に砂が付着する。

351と352は染付の皿である。351は花卉形を呈し、内面は菊唐草文、外面は唐草文、見込みにコンニャク印判の五弁花、高台内に「全」の文字が描かれる。352の器形は輪花を呈し、外面に唐草文、内面に花唐草文、外面の裏銘に呉須染付による渦福が描かれる。

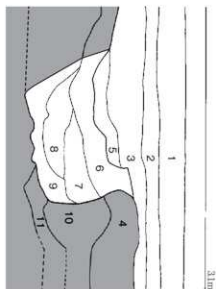


SK-41



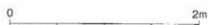
SK-42

- SK-42 土層断面図注記
1. 明茶白色土層 (表土)  
粘質強い
  2. 暗茶色土層  
粘質強い 石、礫を含む
  3. 黄灰色土層  
粘質普通 黄土色が強い
  4. 青灰色土層  
粘質強い 黄色土を少し含む
  5. 黒色土層  
粘質少し強い 木を含む

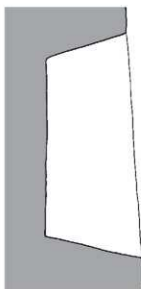


SK-43 土層断面図注記

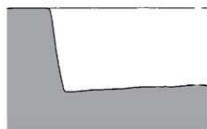
1. かく乱 粘質強い
2. 明茶色土層 粘質強い
3. 暗茶色土層 粘質強い 瓦、炭を含む
4. 黄灰色粘土層 粘質普通
5. 黒色土層 粘質強い 瓦、陶磁器、炭を含む
6. 黄灰色土層 粘質強い 炭を少量含む
7. 茶灰色土層 粘質少し強い 木、炭を含む 土色は茶が強い
8. 黒灰色土層 粘質強い 木くず、炭を多量に含む
9. 二ヶ茶色土層 粘質普通 木くず、貝殻を多量に含む
10. 青灰色粘土層 粘質強い
11. 暗青灰色粘土層 粘質強い 木くず、貝殻を少量含む



第25図 SK-41・42・43実測図 (1/40)

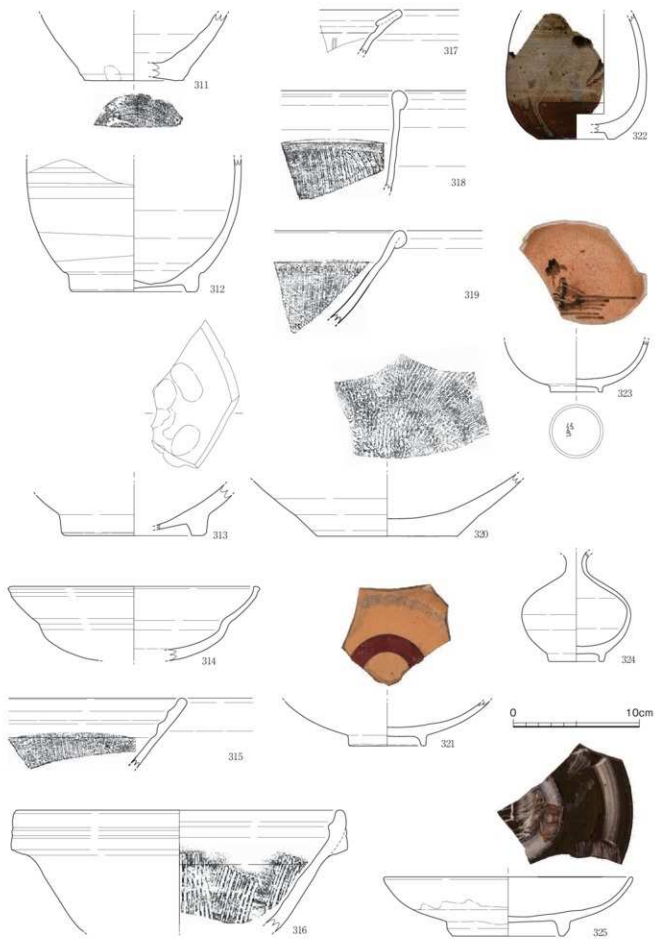


SK-43





第26図 第2遺構面SK-39・41・42・43出土遺物実測図(1/3)



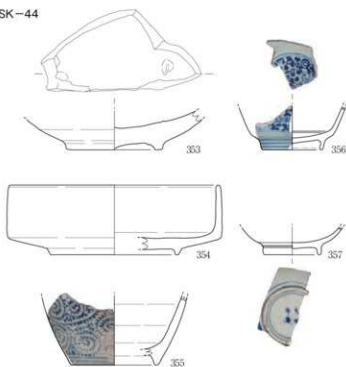
第27図 第2遺構面SK-43出土遺物実測図② (1/3)



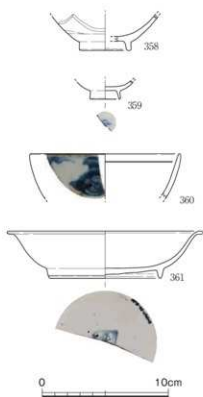
第28図 第2遺構面SK-43出土遺物実測図③ (1/3)



SK-43 SK-44



SK-45



第29图 第2遺構面SK-43・44・45出土遺物実測図 (1/3)



#### SK-44 (第30図)

調査区の中央で検出した不定形の土坑である。遺構は、第1遺構面で検出したSK-20に切られ、残りは僅かである。長軸0.9m以上・短軸0.67m以上、深さは最深部で0.1mを測る。埋土は青灰色粘土で、しまりは弱い。底面は全体的に水平で、立ち上がりは比較的緩やかな傾斜を呈する。

#### 出土遺物 (図版20、第29図)

353は陶器の皿で、見込みに胎土目が2ヶ所残る。窯当て具痕が残る。354は陶器の銅鑄鉢で、茶道具である。高台内に窯当て具痕が残る。355は染付の瓶で、外器面に蜻唐草文が描かれる。356は染付の碗で、高台の外面に三条の圏線、見込みと外面に文様を施す。357は染付の碗で、外器面の裾部から高台にかけて三条の圏線と文様の一部が描かれる。高台内に、一条の圏線と、「大明年製」が描かれる。

#### SK-45 (第20図)

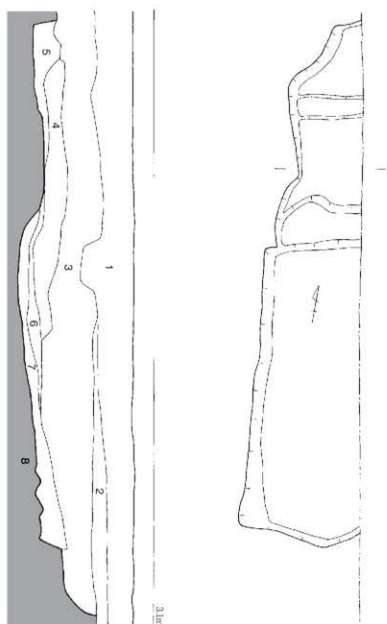
北西側で検出した円形の小穴で、長軸0.34m以上・短軸0.33m、深さは最深部で0.04mを測る。埋土は灰色粘土で、底面は全体的に水平で、立ち上がりは比較的緩やかな傾斜を呈する。

#### 出土遺物 (第29図)

358は陶器の碗で、胴部外面、高台、高台内面に鉄釉のハケガケが施される。359は染付の小杯で、高台内に深川製磁の商標が描かれる。360は染付の碗で、外面に文様が描かれる。361は染付の皿で、高台内に文様が描かれる。

#### SK-46 (第31図)

調査区北側で検出した不定形の土坑で、長軸1.66m以上・短軸1.98m、深さは最深部で0.3mを測る。埋土は灰色粘土で、少量の褐色土がブロック状に含む。底面は全体的に水平で、立ち上がりは比較的急な傾斜を呈する。



SK-44

SK-44 土層断面図注記

1. かく乱 粘質強い
2. 暗茶色土層 粘質強い
3. 黒茶色土層 粘質強い
4. 青灰色土層 粘質強い
5. 黄灰色土層 粘質強い
6. 茶色土層 粘質普通 木を多量に含む
7. 黒灰色土層 粘質弱い 黒色の有機物を多量に含む
8. 青灰色粘土層 粘質弱い

25m



0 2m

第30図 SK-44実測図 (1/40)

### 3 第3遺構面

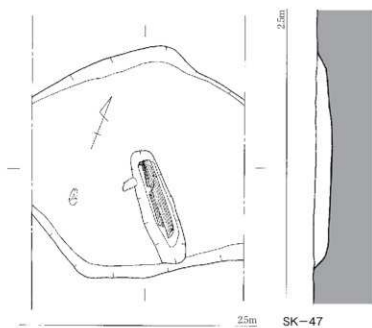
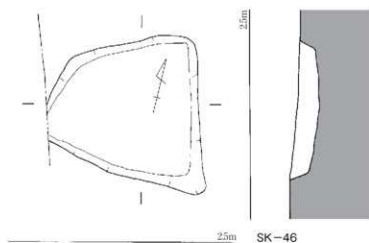
#### SK-47 (第31図)

調査区中央で検出した不定形の土坑で、長軸1.9以上・短軸2.24m以上、深さは最深部で0.16mを測る。埋土は黒色粘土で、しまりは弱い。底面で加工された木材を検出し、全体的に水平で、立ち上がりは比較的急な傾斜を呈する。

#### その他の遺構面出土遺物 (図版20、第32、33図)

362は瓦質土器の火鉢で、胴部は多角形を呈し、脚部と火鉢部は別個に作られ接合されている。外面は丁寧な調整だが、内面はナデ、刷毛目や指圧痕が明瞭に残る。外面の施文については、型押しによる方形区画内に珠文の陽刻、外面区画の窓枠はミガキを施す。363から367は陶器の碗である。363の口縁部は、内面及び外面に緑釉が掛けられる。364は外面下部から高台内にかけて露胎で、見込みにハマ痕が残る。365は貫入が見られる。366は外面に葉文が描かれる。367は見込みに山水文が描かれる。

368は陶器の皿で、見込みに胎土目痕が3ヶ所残る。369は陶器の碗で、高台内面に砂が付着する。370は陶器の皿で外面胴下部に粒状の突帯、白化粘土を施す。371は青磁の皿で、見込みに蛇ノ目軸剥ぎが施される。372は陶器の皿である。373は陶器の蓋で、外面は露胎で直に擂目文、その上に白化粘土で絵付けがされる。374は陶器の甕である。375は陶器の鉢で、内面口縁部から外面にかけて黄褐色の灰釉が施される。376と377は陶器の擂鉢で、擂目の単位は不明である。377は外面胴下部に胎土目跡が2ヶ所、見込みに重ね焼きの痕跡がある。378は青磁の皿で、貫入が見られる。379は磁器の碗で、高台内に砂が付着する。380は白磁の皿で、見込み及び壘付けが軸剥ぎされ、砂が付着する。381は染付碗で、見込みにコンニャク印判の五弁花文が施文され、外面に区画文が描かれる。382は染付碗で、草花文が描かれる。383は染付の杯で、外面裾部に二条の圏線、口縁部付近に文様が描かれる。384は白磁の杯で、高台内に文字が描かれる。385は染付の碗で、外面に桐文が描かれる。386は染付の蕎麦猪口で、外面に二重格子文が描かれる。387は染付の盃で、銅板刷により見込みに鳥・藤などを描く。388から390は染付碗である。388は外面に唐草文が描かれる。389は外面に葉文が描かれ、壘付けに砂が付着する。390は外面に区画間文、見込みに鳥が描かれる。391は染付の蓋で、外面はよろけ縞文、つまみ外面に二条の圏線が描かれる。内面の天井に花文及び一条の圏線が描かれ、口縁部に雷帯文が描かれる。392から394は染付の碗である。392は蓋つきの可能性がある。外面に草花文が描かれる。393は口縁内面に区画文、外面に文様が描かれる。394は見込み及び外面に草花文が描かれる。395から397は染付の皿である。395は内面に花唐草文、見込みに五弁花文、外面に唐草文が描かれる。396は見込み及び外面に、山水文を描く。高台に、割れ部分を補修した痕跡がある。397の器形は輪花を呈し、外面及び内面は唐草文、見込みに環状松竹梅文を描き、高台内面に「大明年製」が描かれる。



第31图 SK-46·47实测图 (1/40)

#### 4 出土土製品（図版 20、第 34 図）

398から402は土人形である。398はSD-10から出土しており、押型成形により作られた、人形の顔の部分である。399はSK-20から出土した土馬の首から頭の部分で、手捏ねにより作られる。400はSK-2から出土の手捏ねにより作られた、人形である。401はSD-35から出土した土馬と考えられる人形の胴部であるが鞍の造形等はなく、手捏ねにより作られる。402はSK-20から出土の手捏ねにより作られた、人形である。

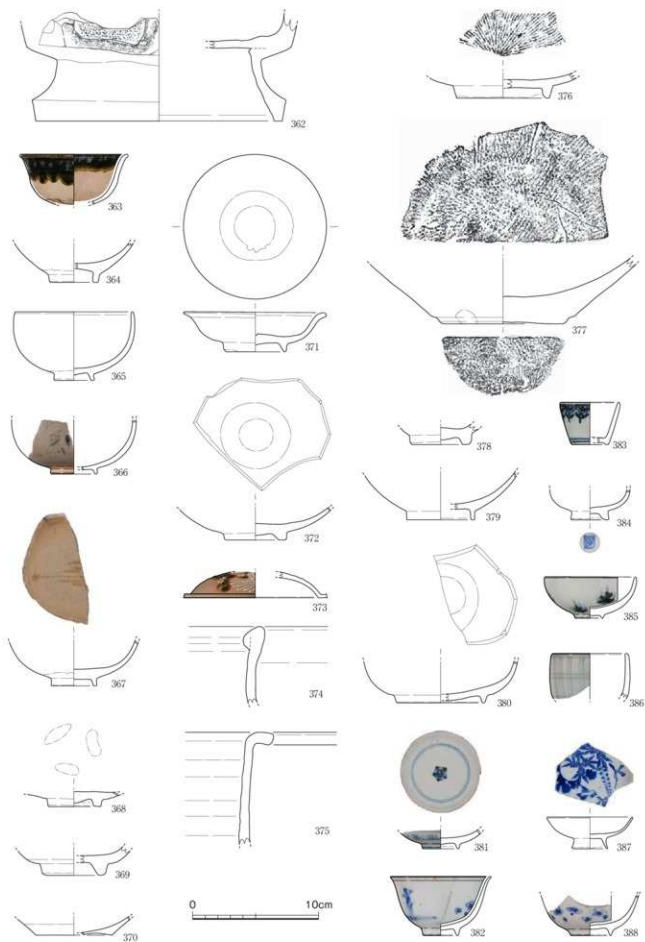
403から405は手捏ねにより作られた、管状土錘である。403はSD-35から出土、404と405は第3遺構面から出土の遺物である。406はSK-28から出土した土鈴で、手捏ねにより作られる。

#### 5 出土瓦（図版 21、第 35～37 図）

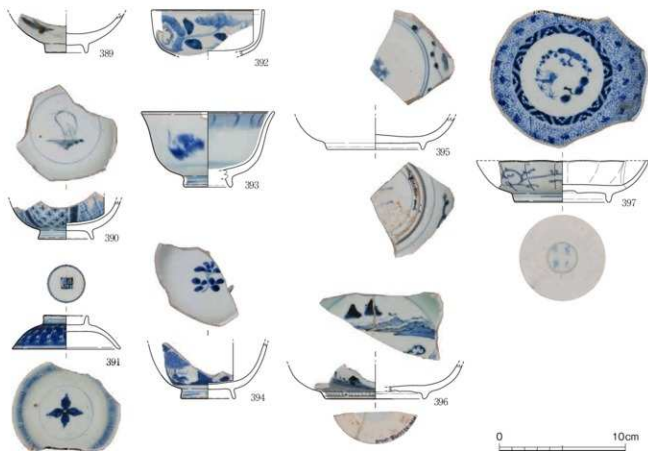
407から410は丸瓦である。407はSK-26から出土し、凹面布目痕が残り、凸面はヘラケズリ後ヨコナデが施される。408はSK-29から出土し、凹面はケズリ、凸面はナデによる調整がされ、釘穴が残る。409は第3遺構面出土で、凹面はケズリと面取りが施され、また席痕が残る。凸面はナデ仕上げによる調整が施される。410はSK-18出土で、凹面に布跡が残る。411はSK-20から出土の瓦で、表面に溝を施し、裏面の端に溝を施す。412はSK-22出土の平瓦で、全体的に摩滅が著しいが、ナデによる仕上げがされる。413と414は切り込み棧瓦で、SD-10からの出土である。413の凹面はナデ仕上げがされ、小口部に菊形のスタンプを押される。凸面はミガキによる調整が施される。414はナデ仕上げによる調整が施され、小口部には菊形のスタンプを押される。415は第3遺構面出土の軒丸瓦で、ナデ仕上げにより調整され、軒部分は巴文である。

#### 6 出土木製品（図版 21、22、第 38、39 図）

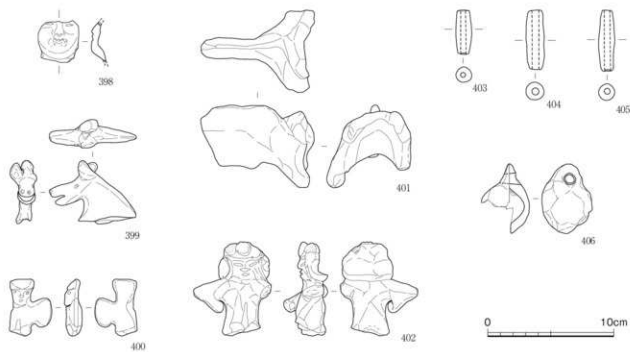
416から419はSK-40から出土の木製品で、416から418は桶板材である。419は曲物の底板である。420は第3遺構面出土の、底板である。421はSK-40出土の桶板材である。422は第3遺構面の溝から出土した、木製品で用途は不明である。423は第3遺構面出土の板状の木製品である。424はSK-40出土で、加工された木製品である。425はSK-40出土の、羽子板形をした製品である。426はSK-40から出土した下駄で下部は破損しており、横緒穴、後歯はない。足部分の厚さは0.6～4.2cmである。427と428は漆器で、427はSK-43出土の椀の蓋である。外面は黒漆、内面は赤漆が塗られ、外面に3ヶ所金彩で丸に五弁の花、梅花と双葉の家紋文が描かれる。428はSK-36出土の椀で、器形は一字腰形を呈し、内外面は黒漆が塗られ、高台内に白色で不明な文様が描かれる。



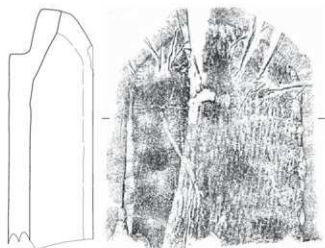
第32图 第3遺構面出土遺物実測図① (1/3)



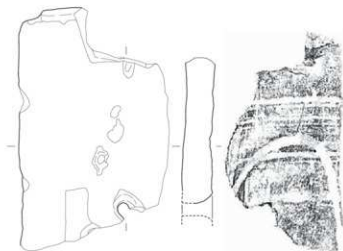
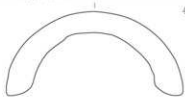
第33图 第3遺構面出土遺物実測図② (1/3)



第34图 出土土製品実測図 (1/3)



407



408

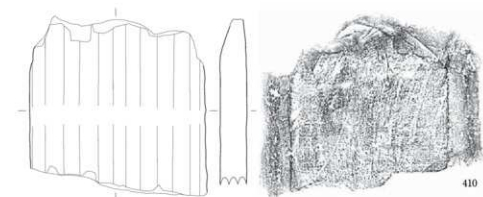


409

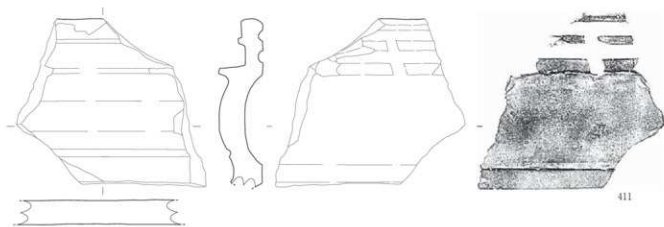
0 10cm

第35图 出土瓦实测图① (1/3)

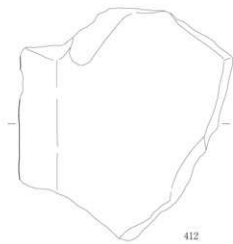




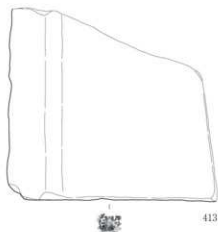
410



411



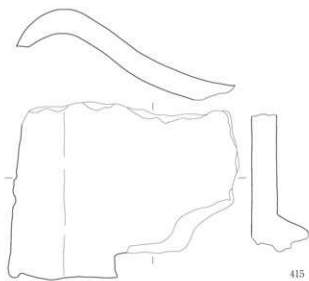
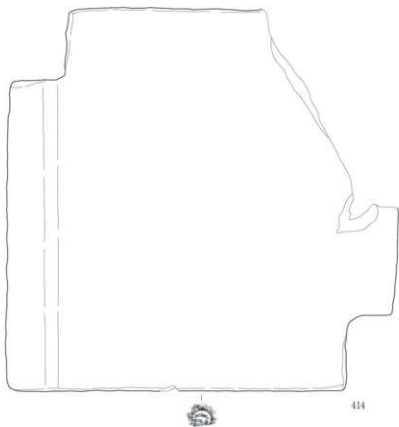
412



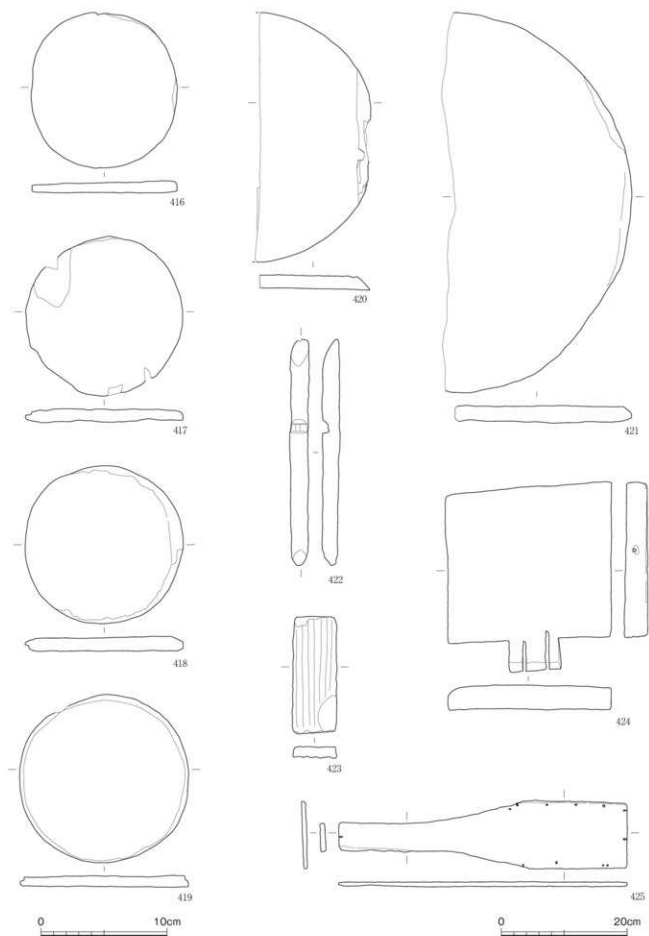
413



第36图 出土瓦实测图② (1/3)



第37图 出土瓦实测图③ (1/3)



第38図 出土木製品実測図① (425は1/6、他は1/3)

## 7 出土鉄製品（図版 22、第 40 図）

429から432は釘である。429はSK-6出土の頭折釘である。430はSK-28出土の角釘である。431はSK-29出土の釘である。432はSK-6出土の角釘である。

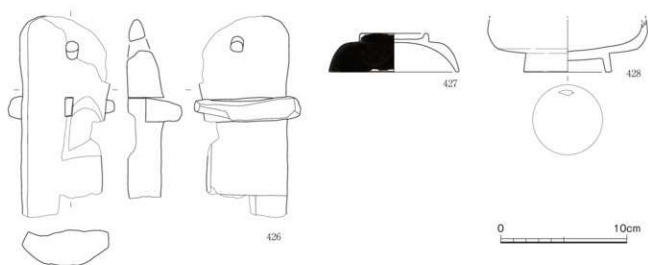
433はSK-44出土の金属製品である。434はSK-29出土の小柄である。

435と436は真鍮製の煙管の吸口である。435は第3遺構面から出土、436はSK-28から出土の遺物である。

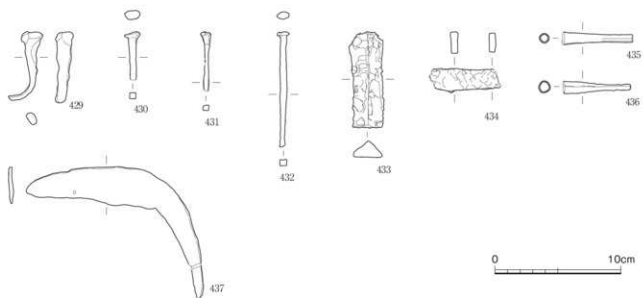
437はSK-43から出土した鉄製の鎌である。

## 8 出土銭（図版 22、第 41 図）

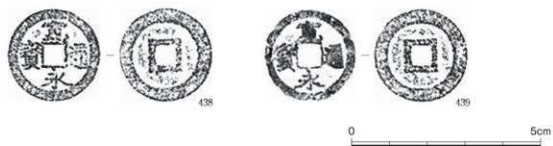
438と439はSK-43出土の銅銭で、寛永通宝である。



第39図 出土木製品実測図② (1/3)



第40図 出土鉄製品実測図 (1/3)



第41図 出土銭 (1/1)

## Ⅳ 総 括

本件の宮永町遺跡は、近世柳川城郭の御家中と呼ばれる武家集住地の宮永小路にあたり、今回の調査地点の宮永町は外堀に南面した城郭南端部に位置する武家地である。本調査では3面の遺構面を確認することができたため、各面ごとに報告を行った。

第1遺構面は、本調査の遺構面の中で最も多くの遺構を検出し、遺物も多く出土した。検出した遺構は、土坑や柱穴が主であり、柱穴のいくつかは櫓列を構成する可能性が考えられるが、全容は不明である。また、本調査区の幅が約2.8mという限られた範囲であったため、多くの土坑の全容は不明である。遺物は近世陶磁器を中心に、瓦、土製品、鉄製品が出土した。

陶磁器の器種としては、碗、皿、鉢、壺、小杯、瓶、徳利、甕、播鉢、火入、火鉢、灰器、香炉、栓、紅皿、合子、灯明皿、土鍋、片口鉢、仏飯器、花瓶等が出土している。

陶磁器の産地については特定できる範囲で見ると、肥前系が多く出土している。出土遺物の肥前系陶磁器を細分化すると、唐津焼、武雄焼、嬉野焼が出土している。その他の出土地域としては、高取焼、現川焼、常滑焼、在地系の蒲池焼の可能性が考えられる遺物が出土すると共に、中国産や朝鮮産の海外からの輸入陶磁器も僅かに確認できる。

第2遺構面は、第1面よりも遺構の検出数は少なく、遺物の出土数も少ない。検出した遺構は、第1遺構面と同様の土坑や柱穴が主である。第2遺構面の特筆する遺構として、調査区の南端部において、木材を側溝の様に用いた遺構を検出した。この遺構については、当地が柳川城郭の南端部に位置し、外堀に面して築かれた土居に隣接する場所で検出したことから、土居の基礎遺構の可能性が考えられる。また、「旧柳河藩干拓遺跡Ⅱ」の調査においても本遺構に類似する基礎遺構が検出している。現在、柳川城の土居の多くは失われ、本調査地の東に残る通称「米多比隅」と呼ばれる土居を除いては、江戸時代の土居の高さを留めるものはない。

出土遺物は近世陶磁器を中心に、瓦、土製品、鉄製品が出土した。

陶磁器の器種としては、碗、皿、鉢、壺、小杯、瓶、徳利、蕎麦猪口、火鉢、香合の蓋、灯明皿、土鍋、仏飯器、花瓶、播鉢、花生、茶道具等が出土している。

陶磁器の産地については特定できる範囲で見ると、肥前系が多く出土している。出土遺物の肥前系陶磁器を細分化すると、唐津焼、武雄焼、嬉野焼、有田焼が出土している。その他の出土地域としては、上野高取焼系、現川焼、志野焼、八代焼又は小代焼と考えられる熊本系、瀬戸美濃系等を確認することができる。また在地系の蒲池焼の可能性もある遺物も出土している。輸入陶磁器の内容としては、中国南部産も僅かに確認できる。

第3遺構面については、非常に遺構密度が薄く個別報告を行った遺構も1基のみである。また、出土遺物についても、第3遺構面の検出面から出土した物を掲載しているが、出土遺物の年代については19世紀代の物から、16世紀代の唐津焼まで年代が広い結果となった。第3遺構面で19世紀の遺物が出土している一方、16世紀の唐津焼、17世紀の龍泉窯や中国産磁器等も出土している。この遺物が伝世品の可能性もあるため、第3遺構面が16世紀に遡ると断定することは避ける。

今回の調査で、柳川城郭の土居基礎遺構の可能性のある遺構を、城郭南端で検出した点は柳川城の失われた土居を考える上で重要な成果となった。また、出土遺物については柳川藩窯の蒲池焼の可能性のある遺物を出土した点は、蒲池焼の流通を考える上で一つの事例となったと考える。その他に、輸入磁器や、他地域産の陶磁器の出土遺物から、柳川城下町の御家中における他地域との物

流の一端を垣間見ることができた。

本調査で検出した遺構や、出土遺物の成果は近世柳川城の御家中の様相を解明するための重要な成果となった。

#### —参考文献—

- 『九州陶磁器の編年—九州陶磁学会10周年記念—』 2000 九州陶磁学会  
『角川日本陶磁大辞典』 2011 角川学芸出版  
『新・柳川明証図会』 2002 柳川市史編集委員会・別編部会  
『柳川の歴史5 柳河藩の政治と社会』 2021 柳川市史編集委員会  
『柳川歴史資料集第3集 柳河藩立花家分限帳』 1998 柳川市史編集委員会  
『本町袋町道跡・南長柄町道跡』 柳川市文化財調査報告書第4集 柳川市教育委員会  
『京町道跡』 柳川市文化財調査報告書 第7集 2009 柳川市教育委員会  
『上町道跡 Ⅰ』 柳川市文化財調査報告書 第10集 2016 柳川市教育委員会  
『旧柳河藩干拓道跡Ⅱ』 一般国道208号有明海沿岸道路関係埋蔵文化財調査報告 第7集 2009 九州歴史資料館  
『上町道跡 2次調査』 福岡県文化財調査報告書第264集 2018 九州歴史資料館

# 出土遺物觀察表





調査号	器種 形式 通称名	法量 (cm) ( ) 底光緒	胎の特徴 胎の色	釉薬	調整・成形・裝飾技法・特徴	窯話技法	産地	年代	備考
SK-2西土 第7周 1	皿	口径 (12.0) 器高3.5 底径 (4.2)	陶器 黒色粒子 黄白色		貫入	見込みにて、口縁側より 高台内面及び高台に輪 土目痕		18C	
SK-2西土 第7周 2	皿	残存高2.5～ 底径 (5.9)	陶器 黒色粒子		貫入	器付け輪跡、 胎土目痕	肥前系 京焼風		底部欠0.5
SK-2西土 第7周 3	皿	口径 (11.5) 残存高11.9～	陶器 精良 石灰、黒色粒子 褐色		内面及び外面輪だれ 外面底部付近にスス付着				
SK-2西土 第7周 4	皿	口径 (13.6) 残存高2.6～	白磁 精良 灰白色	薬丸輪				17C前半	
SK-2西土 第7周 5	染付皿	口径 (13.8) 残存高3.8～	精良 白色	透明	内面及び外面磨草文		肥前系	17C後半 ～ 18C前半	
SK-2西土 第7周 6	染付碗	口径 (8.2) 残存高4.6～	精良 灰白色	透明	外面 草文		肥前	19C	口縁部欠
SK-2西土 第7周 7	染付碗	口径 (8.2) 残存高3.6～	精良 白色	透明	外面口縁部に帯状の文様、下部は赤絵で絵		肥前系		
SK-2西土 第7周 8	染付碗	底径3.4 残存高1.8～	精良 白色	透明	外面 磨草文	器付け輪跡	肥前	19C	底部部欠
SK-3西土 第7周 9	鉢	底径 (16.6) 残存高5.1	瓦質土器 精良 黒灰色		内面ナデ、ハケメ、オサエ 外面上部にナデ、中部ハケメのちナデとオサエ 底部ハケメ				0.2
SK-3西土 第7周 10	碗鉢	口径 (27.8) 残存高17.4	陶器 精良 淡褐色	鉄輪	内面 縦目 外面 回転ナデ				口縁部欠
SK-3西土 第7周 11	皿	残存高2.7～ 底径 (8.0)	陶器 精良 白色	緑輪 薬丸輪	内面白化肥土上に緑輪薬 外面緑輪後に白化肥土を掛ける	内面に胎土目痕 器付け輪跡	肥前系	17C後半	0.2
SK-3西土 第7周 12	碗	残存高5.3～ 底径 (4.6)	陶器 精良 淡灰色	透明	貫入 高台露胎	器付けに4つの胎土目痕	昭野系		底部定形
SK-3西土 第7周 13	皿	口径 (6.0) 残存高4.1～	精良 白色	青磁	外面唇に梅花彫り付け	口縁部輪跡	鍋島?	18C	口縁部
SK-4西土 第7周 14	薬	口径 (103.6) 器高10.4 底径39.6	瓦質土器 最大1.6cmの小石を 含む		外面口縁部ハケの後ナデ、中部はハケの下に帯 状のタタキ及びハケの上にオサエ、底部タケ ハケ 内面口縁部ハケ調整後、横ナデ、中部から横ハケ、 斜めハケ、ハケの上から一部オサエ底部はハケ メ後ナデ				口縁部欠
SK-5西土 第9周 15	鉢	残存高4.9～	瓦質 1～5mmの砂粒含む 明褐色		外面下部から底部にかけて焼熱あり				底部欠
SK-6西土 第9周 16	小杯	口径 (6.0) 残存高2.1～	陶器 微細な黒、白粒子		貫入				口縁部欠
SK-6西土 第9周 17	碗	口径 (9.0) 残存高 (4.8)	陶器 精良 黄白色	透明	貫入、口縁部に鉄輪を器付け 外面に緑染付で書文 陶胎染付、胴下部に鉄輪を器付け				口縁・胴部 破片
SK-6西土 第9周 18	染付碗	口径 (11.4) 残存高5.5～	磁器 黒い粒子含む		外面口縁付近に二重の磨眼、 高台付近に三本の磨眼、 腹部に文様の一部		肥前		口縁部欠
SK-16西土 第9周 19	小皿	口径 (6.4) 器高1.7 底径 (4.6)	土師器 微細な黒赤磁、白雲母 あり 2mmの小石あり		赤切り ヨコナデ				残0.3
SK-16西土 第9周 20	小皿	口径 (6.8) 器高1.7 底径 (3.8)	土師器 微細な黒赤磁、白雲母 あり		赤切り ヨコナデ				残0.5
SK-16西土 第9周 21	小皿	口径 (6.9) 器高1.9 底径4.6	土師器 微細な黒赤磁、白雲母 あり		赤切り ヨコナデ				口縁部欠
SK-16西土 第9周 22	小皿	口径 (7.7) 器高1.9 底径4.2	土師器 微細な黒赤磁、白雲母 あり		赤切り ヨコナデ				口縁部欠 (一部欠損 あり)

調査号	器種 形式 通称名	法量 (cm) ( ) 底光径	胎の特徴 胎の色	輪軸	調整・成形・裝飾技法・特徴	窯結技法	産地	年代	備考
SK-160土 第9期 23	小杯	口径 (4.0) 器高2.7 底径 (2.0)	白磁 黒い粒を含む		貫入				底部残0.5
SK-160土 第9期 24	小杯	口径 (5.6) 器高3.8 底径 (2.0)	白磁 灰白色		貫入		肥前	17C	残0.5
SK-160土 第9期 25	碗	残存高2.6～ 底径 (5.0)	陶器 0.5～2mmの砂粒含む 明褐色	鉄軸	内面 オリーブ色の灰軸	見込みに移付着	肥前系	17C前半	底部定形
SK-160土 第9期 26	碗	残存高2.0 底径 (5.0)	白磁 精良 黒い粒子を含む 黄白色	透明	黒い粒子が全体的に混ざる。焼付に軸 透明軸を施し、貫入、輪だけ	焼付に2ヶ所移付着 焼付は輪跡とせず砂目 の部分のみ削げている	朝鮮	16C～ 17C	底部定存
SK-160土 第9期 27	碗	残存高2.3 底径 (4.1)	陶器 精良 白と褐色の粒子を含む 明赤灰色		貫入				底部残0.7
SK-160土 第9期 28	碗	残存高3.6 底径 (3.8)	陶器 精良 黄白色	透明	胴下部に花草文飾 高台内に「小表」の文字彫り 胎土緑跡 見込みに鉄跡で山水文	高台、胴下部 露胎	京焼風		残0.3
SK-160土 第9期 29	皿	残存高1.7～ 底径 (5.6)	陶器 明灰色		見込みに胎ノ目状に白化磁土				底部残0.7
SK-160土 第9期 30	碗	口径 (17.0) 器高5.2 底径 (4.8)	陶器 軟質 黄灰白色		見込みに鉄跡 京焼風磁土滑津 貫入		滑津		残0.5
SK-160土 第9期 31	瓶	残存高3.9～ 底径 (6.8)	陶器 2mmの粒を含む	鉄軸 鉄壁					底部残0.3
SK-160土 第9期 32	火入	口径 (10.6) 残存高5.5	陶器 1mmの粒を含む	鉄軸					口縁残0.3
SK-160土 第9期 33	火鉢	口径 (28.6) 残存高4.9～	陶器 1mmの石英、 微細な白雲母を含む		外面の口縁近くに印泥				口縁部残0.2
SK-160土 第9期 34	壺	口径 (19.4) 残存高4.3～	陶器 1mmの石英を含む						口縁部小片
SK-160土 第9期 35	火入	口径 (10.8) 残存高6.0	陶器 1mm程度の石英	面輪 鉄壁 緑軸	外面胴部に露輪を帯状に施す		高取		口縁部残0.2
SK-160土 第9期 36	鉢	口径 (22.8) 残存高6.8～	陶器 1mmの石英		外面 白化磁土の刷毛目露輪 内面 白化磁土の刷毛目露輪		武雄		口縁部片
SK-160土 第9期 37	深鉢	口径 (34.6) 残存高3.4～	陶器 1mm程度の砂粒を含む	鉄壁			肥前系		口縁部片
SK-160土 第9期 38	深鉢	残存高6.5～	陶器 0.5～1mmの砂粒 2mmの小石を含む 暗赤灰色	鉄軸	鎌目日本 輪だけ				口縁部片
SK-160土 第9期 39	深鉢	残存高10.0～	陶器 0.1～1mmの砂粒を含む 赤褐色	鉄軸	鎌目日本 口縁の内面から外面にかけて鉄軸				口縁部片
SK-160土 第9期 40	深鉢	残存高63.0～	陶器 0.1～1mmの砂粒を含む 赤褐色	鉄軸	鎌目日本				口縁部片
SK-160土 第11期 41	深鉢	残存高5.5～ 底径 (16.0)	陶器 0.1～1mmの砂粒を含む 石英 暗赤灰色		鎌目日本				底部片
SK-160土 第11期 42	深鉢	残存高5.6～ 底径 (10.2)	陶器 1mm程度の粒を含む		赤切り	見込みと底部外部に胎 土目痕			底部残0.3
SK-160土 第11期 43	碗	口径6.7 器高4.9 底径3.3	白磁 精良 白色	透明	胴部に桜枝梅色胎の痕跡 潤滑しているが赤色。 見込みに青花文胎の痕跡				残0.5
SK-160土 第11期 44	小杯	残存高1.1 底径2.7	白磁 精良 黒い粒子を含む 灰白色	透明	内面 一部薄い緑色の輪が露まる 高台内輪だけ	焼付、高台内に移付着	中国	16C～ 17C	底部定存

図番号	器種 形式 通称名	法量 (cm) ( ) 底径	胎の特徵 胎の色	釉薬	調整・成形・裝飾技法・特徴	窯証技法	産地	年代	備考
SK-16西土 第11回 45	菊花小皿	残存高2.2 底径 (4.8)	白釉 精良 黒と橙色の粒子を含む 灰白色	透明	貫入 菊花形	内面と高台内腔が付着	中国	16C- 17C	底腔残0.5
SK-16西土 第11回 46	碗	残存高2.0 底径 (3.9)	白釉 精良 白色	透明					残0.2
SK-16西土 第11回 47	碗	残存高2.2 底径 (4.4)	白釉 精良 白色	透明	貫入				残0.2
SK-16西土 第11回 48	傘付皿	口径 (11.0) 残存高1.6~	磁器 白色	透明	内面 花唐草文、外面 唐草文		肥前		口縁部残0.2
SK-16西土 第11回 49	傘付皿	口径 (13.7) 器高3.5 底径 (8.0)	磁器 青灰色	透明	手書き呉須染で付高台内に一糸團扇。 外面 四糸の團扇 内面 雲丹草文 見込みはコシニヤク印明による五弁花文		肥前		口縁部残0.2
SK-16西土 第11回 50	傘付皿	口径 (23.4) 器高3.4 底径 (13.4)	磁器 精良 黄白色	透明	見込みに環状の松竹梅文 外面 唐草文		肥前	17C後半 ~ 18C前半	口縁部残0.5
SK-16西土 第11回 51	傘付露文茶碗口	口径 (6.8) 残存高4.5~	磁器 精良 白色	透明	外面 文様		肥前		口縁部片
SK-16西土 第11回 52	傘付小茶	口径 (4.6) 器高2.6 底径 (2.0)	磁器 黒い粒を含む 灰白色	透明	外面 模文			19C	底腔定存
SK-16西土 第11回 53	傘付碗	口径 (8.0) 器高4.0 底径2.8	磁器 精良 白色	透明	貫入 外面 土敷、草花文		肥前		残0.5
SK-16西土 第11回 54	傘付皿	口径 (12.4) 器高3.1 底径 (8.2)	磁器 精良 白色	透明	見込みに五弁花文 (コシニヤク印明) と團扇 模本、ハマゴ 外面 高台に二糸團扇 團扇状の文様 高台中で2つに分れる 高台内に一糸團扇 ハナ網が上縁		肥前		残0.3
SK-16西土 第11回 55	傘付皿	口径 (13.4) 器高4.0 底径 (7.8)	磁器 精良 灰白色	透明	花弁口縁、口筒 内面 竹枝梅文 見込み 五弁花文 高台に「大明年製」を朱欄傘付 外面 唐草文 外面口縁に輪だれ 貫入	墨付砂付着	有田	18C	残0.5
SK-16西土 第11回 56	傘付碗	口径 (7.8) 残存高3.5~	磁器 精良 白灰色	透明	外面 スタンプ文				口縁部片
SK-16西土 第11回 57	傘付色絵碗	口径 (9.8) 残存高4.9~	磁器 精良 灰白色	透明	内面 赤・金の色絵 外面 鳥・草の文様		肥前		口縁部片
SK-16西土 第11回 58	傘付碗	口径 (10.2) 残存高3.5	磁器 黒い粒を含む	透明	貫入 龍、草花文		肥前		口縁部残0.3
SK-16西土 第11回 59	傘付碗	口径 (10.6) 残存高3.1~	磁器 黒い粒を含む	透明	外面 花、唐草文		肥前		口縁部残0.2
SK-16西土 第11回 60	傘付碗	口径 (10.4) 残存高4.4~	磁器 灰白色	透明	口筒 外面 竹、梅文		肥前		口縁部残0.3
SK-16西土 第11回 61	碗	口径 (11.8) 残存高4.1~	陶器 黄灰白色		見込みに白水文か 景後風陶器 貫入		京焼風		口縁部片
SK-16西土 第11回 62	傘付碗	口径 (7.9) 器高3.8 底径 (3.2)	磁器 精良 白色	透明	外面 草花文 貫入		肥前		残0.3
SK-16西土 第11回 63	傘付碗	口径 (9.3) 器高5.3 底径 (3.6)	磁器 精良 灰白色	透明	外面 花唐草文		肥前	19C	残0.3
SK-16西土 第11回 64	傘付碗	口径 (9.8) 器高5.3 底径 (4.2)	磁器 精良 黄と黒い粒を含む 灰白色	透明	高台内に一糸團扇と僅かに文様 外面草花文 (梅) 外面と高台部に二糸團扇が見られる 貫入	墨付に砂付着			残0.5
SK-16西土 第11回 65	傘付碗	口径 (10.0) 器高5.2 底径 (4.2)	磁器 精良 灰白色	透明	見込みに顔目文と丸に草花文、高台に二糸 網下部に一糸團扇、外面 二重網目文 高台内に文字			19C	残0.3

調査号	器種 形式 通称名	法量 (cm) ( ) 復元値	胎の特徴 胎の色	輪軸	調整・成形・裝飾技法・特徴	窯結技法	産地	年代	備考
SK-160土 第11回 66	染付焼	口径 (10.0) 器高5.0 底径4.0	磁器 精良 灰白色	透明	見込みに黒目文と丸に菊文 外面 高台に二条、胴下部に一条黒線、二重黒 目文 高台内に一重角杓、渦組 蓮ナ字成形	墨付に移付着 高台に一部露筋		19C	残0.5
SK-160土 第11回 67	染付焼	口径 (10.6) 器高4.8 底径 (4.2)	磁器 精良 灰白色	透明	見込みに黒目文と丸に花 外面 高台に二条、胴下部に一条黒線、二重黒 目文	高台内に移付着、一部 露筋		19C	残0.3
SK-160土 第11回 68	染付焼	口径 (8.8) 残存高3.5～	磁器 黒い粒子を含む	透明	外面口縁部 雨降文		肥前		口縁部残0.3
SK-160土 第12回 69	染付焼	残存高2.7 底径 (3.8)	磁器 精良 黒い粒子を含む 灰白色	透明	高台内に一条黒線 と僅かに大明り装		肥前		底縁残0.3
SK-160土 第12回 70	染付焼	残存高 (3.3～) 底径 (3.7)	磁器 精良 白色	透明	外面丸文、コンニャク印柄 高台輪に一条黒線 高台に二条黒線 高台内に「大明り装」文字、一条黒線		肥前		残0.3
SK-160土 第12回 71	染付焼	残存高3.8 底径 (3.8)	磁器 精良 灰白色	透明	胴部に土版の一部、一条黒線、貫入 見込みに貫入 高台内に一条黒線 高台に海中で寝た女顔 高台内に一条黒線	墨付砂目	肥前		残0.3
SK-160土 第12回 72	染付焼	残存高2.3 底径 (3.8)	磁器 黒い粒子を含む	透明	見込みに五弁花文 外面文様		肥前		底縁残0.3
SK-160土 第12回 73	染付焼	器高2.5～ 底径3.6	磁器 精良 灰白色		外面 水雲文		肥前	19C	底縁定形
SK-160土 第12回 74	染付焼	残存高2.6～ 底径 (3.4)	磁器 精良 白色	透明	外面 文様 外面高台に輪だれ				残0.2
SK-160土 第12回 75	染付鉢 香炉	残存高4.1～ 底径 (5.4)	磁器 精良 白灰色	透明	外面 草文		肥前系	19C	残0.3
SK-160土 第12回 76	青磁色絵焼	口径12.0 器高4.8 底径3.8	磁器 精良 灰白色		内面 松竹梅の色絵 貫入			19C	残0.7
SK-160土 第12回 77	色絵焼	口径 (9.8) 残存高3.8～	磁器 白色	透明	色絵、文様 花巻草文				口縁部残0.5
SK-200土 第12回 78	小皿	口径8.0 器高2.1 底径4.6	土師器 黒褐色黒母、白雲母 あり		赤切り ヨコナデ 黒底				111F定形
SK-200土 第12回 79	小皿	口径8.9 器高2.3 底径5.2	土師器 黒褐色黒母、白雲母 あり		赤切り ヨコナデ				111F定形
SK-200土 第12回 80	小皿	口径 (8.4) 器高2.4 底径 (4.2)	土師器 灰白色 白雲母を含む		ヨコナデ 摩滅しているが赤切り				残0.2
SK-200土 第12回 81	小皿	口径 (8.8) 器高2.3 底径 (4.8)	土師器 灰白色 白雲母を含む		ヨコナデ へつ切り				残0.2
SK-200土 第12回 82	甕?	残存高6.8～ 底径5.6	土器 3mmの石異含む		外面 帯彫が著しい 内面 底部にも目痕				残0.5
SK-200土 第12回 83	栓	径3.3 幅3.8 高1.5	土器 金雲母、石異含む						定存
SK-200土 第12回 84	壺	残存高7.4～ 底径 (21.4)	陶器 3mmの石粒を含む		内面 格子目のクナギ模				底縁残0.2
SK-200土 第12回 85	六鉢	口径 (34.0) 残存高8.2～	瓦質土器 1mmの白粒含む		口縁外面二条の突帯 印柄を施す				口縁部片
SK-200土 第12回 86	皿	口径 (13.2) 器高3.6 底径4.4	陶器 精良 明褐色		内面緑青色の灰緑 口縁断面に瓦紋状	見込み 蛇ノ目輪軸	肥前系		残0.7
SK-200土 第12回 87	鉢鉢	残存高9.0～ 底径13.8	陶器 1～5mmの砂粒多く 含む 明赤褐色		胴部下部に指すキヌボが3×所残る				残0.2

調査号	器種 形式 通称名	法量 (cm) ( ) 程度	胎の特徴 胎の色	輪軸	調整・成形・裝飾技法・特徴	装飾技法	産地	年代	備考
SK-20出土 第12回 88	皿	残存高3.6～ 底径(6.4)	陶器 1mm程度の白粒含む 灰白色			見込みに胎土目裏 外面髹付から高台の外 周部にかけて胎土目裏	曹津	16C後半 ～ 17C前半	底径約0.5
SK-20出土 第12回 89	鉢	残存高3.3～ 底径(6.4)	陶器 微細な白粒含む				肥前系	18C～ 19C	底径約
SK-20出土 第12回 90	碗	口径(12.8) 器高4.9 底径5.2	陶器 精良 黄白色 越野辺りの土小	鉄輪 鉄壁	見込みに胎ノ目輪割式。1mmほど露胎を残し鉄壁 高台内に胎土目を2つ	見込みに胎ノ目輪割式 髹付輪割式	肥前系	18C	径約0.5
SK-20出土 第13回 91	碗	残存高3.9～ 底径(3.8)	陶器 緻密	透明	透明輪 内面 白泥で穿削毛目 外面 白泥で菓子		成川地		底径約0.3
SK-20出土 第13回 92	鉢	残存高6.2～ 底径(7.8)	陶器 精良 黄灰色		貫入				径約0.3
SK-20出土 第13回 93	台付皿	残存高3.5～ 底径(11.0)	陶器 灰白色		貫入 見込みから高台外周にかけて 円状の白化胚土		高取	18C～ 19C	底径約0.3
SK-20出土 第13回 94	鉢	口径(30.0) 器高9.0 底径(9.8)	陶器 白砂粒含む 明褐色		磨り出し高台 内面 白化粧土の上に輪軸 波状の硝毛目模様 外面 土細から黒褐色の灰輪	高台に胎土目跡が2つ 見込みに環状に砂目跡	武雄	17C～ 18C	径約0.3
SK-20出土 第13回 95	小杯	口径(5.8) 器高2.2 底径3.2	白磁 精良 灰白色	透明	貫入				径約0.7
SK-20出土 第13回 96	紅皿	口径約6.8 器高4.0 器高1.8 底径約4.0 器高2.4	白磁 精良 白色	透明	雪花状に内面髹打し、高台を貼り付け				完形
SK-20出土 第13回 97	碗	口径(9.6) 残存高3.4～	白磁 精良 明白色		口縁				径約0.2
SK-20出土 第13回 98	皿	口径(13.0) 器高3.7 底径(4.0)	白磁 精良 白色	透明		見込みは胎ノ目輪割式			径約0.2
SK-20出土 第13回 99	小杯	口径(6.0) 器高3.6 底径2.6	陶器 精良 白灰色		外面 文様と二条線	見込みに砂付着			径約0.7
SK-20出土 第13回 100	乗付小杯	口径7.0 器高2.4 底径3.2	磁器 精良 灰白色	透明	外面 菊文 外面高台に輪だけ				径約0.7
SK-20出土 第13回 101	乗付碗	口径(10.2) 残存高4.7	磁器 精良 白色	透明	外面周部に割コンニャク印				径約0.3
SK-20出土 第13回 102	乗付皿	口径(14.2) 器高4.3 底径(9.0)	磁器 精良 白灰色	透明	内面 松竹梅文 口縁 高台内に一条線 外面 雲草文 貫入		肥前	18C前半	径約0.2
SK-20出土 第13回 103	乗付輪花碗	口径8.0 器高3.8 底径3.5	磁器 精良 白色	透明	乗付碗(五弁花、輪花) 見込みに五弁花文 高台内に一条線と渦線 外面 口縁に蓮花の柄。2條線の桜花文 周部に一条線に並んで草文 高台に二条線		肥前	18C～ 19C	一部欠け
SK-20出土 第13回 104	礫石	径3.0 幅2.5 厚1.1	石製品		変成岩				
SD-1出土 第13回 105	灯明皿	径7.5 残存高2.0 底径3.7	陶器 精良 赤褐色		内外面に口ウケ着 十字調整 糸切り 外面に彫り				
SD-1出土 第13回 106	皿	口径(8.0) 残存高1.3～	陶器 微細な白粒含む	鉄輪 鉄壁	内面鑲目(8本) 口縁				径約0.3
SD-1出土 第13回 107	鉢	口径(31.4) 残存高1.5～	陶器 淡紫灰白色	鉄輪	内外鉄輪をハケ掛け後、 外面から内面口縁部にか け白化粧土をハケ掛け				口縁部片
SD-1出土 第13回 108	土鍋	口径(13.0) 残存高2.3～	陶器 微細な粒子含む	鉄壁	口縁を削り曲げて逆L字形に成形 口縁部付近に把手を貼り付け		常陸?		口縁部片

調査号	器種 形式 通称名	法量 (cm) ( ) 底光径	胎の特徴 胎の色	輪軸	調整・成形・裝飾技法・特徴	窯結技法	産地	年代	備考
SD-1出土 第139 109	赤胎小杯	口径 (4.3) 器高3.2 底径 (2.2)	白磁 白色		外面に赤胎の痕跡 (技術残像)				底部定存
SD-109出土 第139 110	圓鉢	口径 (30.6) 残存高5.5~	陶器 1mmの石灰含む	鉄軸	全面に鉄軸 内面黒目				口縁部片
SD-109出土 第139 111	碗	残存高1.9~ 底径 (4.8)	陶器 1mmの石灰含む	鉄軸	内面白泥 巻帯毛目 貫入		現川		底部残0.5
SD-109出土 第139 112	碗	残存高2.2~ 底径 (3.6)	陶器 微細な黒、白灰含む		貫入				底部残0.5
SD-119出土 第139 113	青花碗	残存高2.9~	磁器 精良 白色	透明	内面 一条の帯線 外面 文様				口縁部片
SD-109出土 第139 114	染付碗	口径 (14.0) 残存高4.7~	磁器 白色	透明	内面口縁部は紫雲神文帯 外面微細草花に横文		肥前		口縁部片
SD-119出土 第139 115	染付皿	残存高3.3~ 底径 (6.8)	磁器 精良 灰白色	透明	内面紫の文様 外面の黄白に二条帯線 下部に一条帯線と文様		肥前	BC	底部片
SD-119出土 第139 116	碗	口径8.8 器高4.6 底径2.9	陶器 精良 淡灰白色		雨降文のような黄緑色の輪軸 貫入		船野系		残0.8
SK-129出土 第149 117	地味蓋	残存高3.5~ 底径 (5.0)	土師質土器 にふい煙色 白雲母含む 微細な砂粒含む		内外面ナデ 外底は摩羅ノ調成は不明				残0.4
SK-129出土 第149 118	小皿	口径7.6 器高1.6 底径3.6	土師器		赤切り、ヨコナデ 口縁部2ヶ所に黒染				完形
SK-129出土 第149 119	皿	口径 (10.8) 器高1.8 底径 (6.6)	土師器 黄灰色		ヘラ切り、ヨコナデ 内、外側、底部に黒染小円				残0.3
SK-129出土 第149 120	灯明皿	口径6.3 器高2.6 底径4.3	陶器 2mmの石灰	鉄軸	赤切り				一部欠損
SK-129出土 第149 121	灯明皿	口径 (8.7) 器高2.4 底径 (2.4)	陶器 微細な砂粒含む 明褐色	鉄軸	赤切り 内面から外面口縁部に向け鉄軸 外面に輪だれあり 内外面ナデ		高取		残0.3
SK-129出土 第149 122	小杯	口径 (3.0) 器高2.6 底径 (18.0)	白磁 黒、白灰含む		貫入				残0.5
SK-129出土 第149 123	小碗	口径 (6.7) 器高2.8 底径2.1	陶器 精良 黄灰色 微細な石灰を含む	透明	黒ナデ 器部輪だれ 内外面 貫入あり	高台から腰まで彫刻、 磨り出し			残0.5
SK-129出土 第149 124	色絵碗	口径 (8.6) 残存高4.4~	陶器 精良 黄灰色	透明軸	外面赤色で文様が残る 貫入			IBC ~ IBC	残0.3
SK-129出土 第149 125	鉢	残存高3.7 底径 (10.8)	陶器 1mmの石灰	鉄軸			足込み底部、高台の外 面から底にかけて砂付 着	武蔵	底部残0.5
SK-129出土 第149 126	土鍋	口径 (17.6) 残存高4.0~	陶器 黄灰色		貫入 外面の口縁付近にヘラ押え痕				口縁部片
SK-129出土 第149 127	碗	口径 (7.8) 残存高4.1~	陶器 精良 灰白色		貫入				残0.3
SK-129出土 第149 128	土瓶蓋	口径6.6 底径5.5	陶器 金雲母、石灰含む		宝珠状の組み				一部欠損
SK-129出土 第149 129	土瓶蓋	口径9.2 器高2.7 底径5.0	陶器 2mmの石灰	鉄軸	縁ががったワフ状軸 胴部彫刻へラケズリ 宝珠状の組み				一部欠損
SK-129出土 第149 130	蓋	口径14.35 径10.8 器高2.25	陶器 精良 黄灰色	鉄軸	土瓶の蓋 中央に組み				ほぼ完形
SK-129出土 第149 131	土瓶	口径 (8.8) 器高10.7 底径 (7.8) 幅 (16.2)	陶器 精良 明褐色	鉄軸	外面口縁から胴下部まで鉄軸、ケズリ 輪軸部分に白化粧土で文字 内面輪軸部は鉄軸 注口部残存なしのため、注口を器形のみ	外面露胎部に限定する 内面露胎部ナデ			残0.3

調査号	器種 形式 通称名	法量 (cm) ( ) 度元端	胎の特徴 胎の色	輪軸	調整・成形・装飾技法・特徴	装飾技法	産地	年代	備考
SK-12西土 第1408 132	片口鉢	口径 (22.4) 残存高7.3～	陶器 精良 赤褐色		片口は手捏ね 内外に白化粧土 外面は鉄絵で文様施。後彩色の化粧土を種焼き し、その上から白化粧土		高取		口縁部片
SK-12西土 第1408 133	鉢 平脚焼	口径 (22.4) 残存高17.2～	陶器 精良 淡赤色	輪軸 透明	外面、白化粧土を塗布し、帯状に焼き取る 鉄絵と陶軸を掛け渡し、後に白化粧土の上に外 面下部から内面にかけて透明軸 装飾の為か外面に突帯の残りが見られる		武庫	19C	残0.2
SK-12西土 第1408 134	鉢	口径 (19.6) 残存高4.3～	陶器 精良 灰白色	灰軸	藍色の灰軸		高取?		口縁部片
SK-12西土 第1408 135	楕鉢	口径 (36.8) 残存高8.0	陶器 1mmの石裏	灰軸	内面黒目				口縁部片
SK-12西土 第1408 136	楕鉢	残存高5.4～ 底径 (13.8)	陶器 1mmの石裏含む	灰軸	内面15本の黒目	高台内から底部にか けて移付着			底部残0.3
SK-12西土 第1408 137	碗	器高4.2 底径3.1	陶器 精良 灰色		貫入あり 高台、胴下部輪彫れ 高台内に一部輪	高台、胴下部彫筋		19C	残0.5
SK-12西土 第1508 138	小杯	口径4.8 器高3.0 底径2.5	白磁 精良 白色	透明	全体は無地				ほぼ正形
SK-12西土 第1508 139	碗	残存高3.9 底径3.6	白磁 精良 白色	透明					残0.3
SK-12西土 第1508 140	皿	残存高1.3 底径 (4.3)	白磁 精良 白色	透明	胴部の高台際近くと高台に一条彫線 何れも脱落しているが赤色か		肥前		残0.2
SK-12西土 第1508 141	ミニチュア碗	口径4.8 残存高1.8～	白磁 精良 白色	透明					残0.5
SK-12西土 第1508 142	青花蓋	器径4.8 器高4 器高1.1	磁器 精良 白色	透明			16C後半		残0.5
SK-12西土 第1508 143	染付碗	残存高1.8 底径 (4.0)	磁器 精良 灰白色	透明	見込み 胴部に朱嵌文 貫入		肥前	19C	底部残0.5
SK-12西土 第1508 144	染付碗	残存高2.3 底径 (3.2)	磁器 精良 灰白色	透明	胴部に文様 高台に二条彫線 見込みに一輪の花		肥前		底部残0.5
SK-12西土 第1508 145	染付皿	残存高3.5～ 口径確実12.0	磁器 精良 淡灰色	透明	内面 二条彫線 外面 華文様		肥前		口縁部片
SK-12西土 第1508 146	染付碗	口径 (7.2) 残存高5.0～	磁器 白、濃緑子含む	透明	貫入 内面口縁部付近に二条彫線 見込み胴部に一条彫線 外面の口縁部色あせ 外面、胴部に雲母文文		肥前		残0.3
SK-12西土 第1508 147	染付碗	口径 (8.7) 器高6.8 底径 (4.2)	磁器 灰白色	透明	内面口縁部華文 外面、器文、器高に華文 高台内にも二条彫線 高台外側に二条彫線		肥前		残0.2
SK-12西土 第1508 148	染付台子蓋	口径 (30.0) 残存高9.9	磁器 白色	透明	外面 華嵌文	内面の器高は輪割ぎ	肥前	19C	残0.3
SK-12西土 第1508 149	染付碗	口径 (10.7) 器高6.5 底径 (5.6)	磁器 精良 灰白色	透明	胴部に松の文様 高台部に一条彫線 見込みに「寿」の文字と一条彫線 口縁部 内面に二条彫線 口縁部 外面に一条彫線		肥前	18C～ 19C	残0.3
SK-12西土 第1508 150	染付皿	口径 (12.3) 器高3.0 底径 (8.0)	磁器 微細な白黒粒含む	透明	貫入 外部底面輪割ぎ/目四形高台 見込みに文様		肥前		底部残0.3
SK-12西土 第1508 151	染付皿	残存高4.4～ 底径9.3	磁器 精良 灰白色	透明	型打ち成型 花弁型 見込み山文	高台内輪割ぎ/目輪割ぎ	肥前		底部底面
SK-12西土 第1508 152	染付蓋	器径 (11.0) 径 (12.0) 残存高3.0～	磁器 精良 灰白色	透明	外面 区画割の中に四方華文	受け部 輪割ぎ	肥前		残0.3
SK-13西土 第1508 153	小皿	残存高2.0 底径2.7	磁器 精良 灰白色	灰軸					底部残0.8



調査号	器種 形式 通称名	法量 (cm) ( ) 度元量	胎の特徴 胎の色	輪軸	調整・成形・裝飾技法・特徴	窯結技法	産地	年代	備考
SK-1395土 第159 154	乗付皿	残存高1.8 底径(7.2)	磁器 精良 白色	透明	貫入 見込み 松葉文、草文 足付きハヤ縁		肥前系	18C～ 19C	底縁残0.3
SK-1495土 第159 155	小皿	口径(8.0) 器高2.3 底径(3.8)	陶器 精良 黒褐色	鉄軸	見込み 鉄軸 白濁点 胴部に施され	見込み 少数の砂付着			残0.5
SK-1495土 第159 156	乗付碗	口径6.6 残存高3.7	磁器 精良 白色	透明	外面口縁部 兩降文 全体に透明釉		肥前	18C～ 19C	口縁部破片
SK-1495土 第159 157	色絵皿	口径(11.2) 器高3.0 底径(6.0)	磁器 精良 白色	透明	貫入 見込みの絵ノ目部は緑色で不明の鉄絵 緑色の鉄絵の色絵と不明の鉄景 胴部に鉄景の一部面施と不明の文様 高台に鉄景の二条施 高台内に鉄景の一条施		肥前	18C～ 19C	残0.2
SK-1595土 第159 158	小皿	口径(6.4) 器高2.0 底径(4.2)	土師器 黒褐色黒点、白雲母 あり		赤切り ヨコナデ				残0.5
SK-1595土 第159 159	碗	残存高3.1 底径(5.8)	磁器 精良 灰白色	透明	貫入 胴部にオリーブ黒色の鉄絵				底縁残0.3
SK-1595土 第159 160	乗付皿	口径(12.6) 残存高4.8 底径(8.0)	磁器 精良 灰白色	透明	貫入 見込み 巻草、草、梅、二条施 胴部に巻草文、一条施 高台、一条施 高台内に一条施	高台内は砂付着	肥前	18C	残0.3
SK-1795土 第159 161	碗	残存高2.2～ 底径(3.6)	陶器 精良 灰白色	透明	外面文様 貫入		肥前	19C	底部片
SK-1795土 第159 162	乗付碗	残存高2.8～ 底径(3.6)	磁器 精良 灰白色	透明	外面文様		肥前	19C	残0.2
SK-1795土 第159 163	仏飯器	残存高4.0～ 底径(3.8)	磁器 精良 灰白色	透明	外面にコンニャク印刷のような文様の一部			19C	残0.7
SK-1795土 第159 164	灰器	残存高10.0～	土師質土器 石英 砂粒多く含む 淡灰色		口縁部に、格子状のタキキ痕		在地系 遺物?		口縁部片
SK-1895土 第159 165	碗	残存高1.9～ 底径(3.0)	陶器 黒い粒子、 2mmの白粒含む		貫入				底縁残0.3
SK-1895土 第159 166	乗付皿	口径(11.2) 器高3.5 底径(6.0)	磁器 1mmの石粒含む	透明	貫入 内面 二重格子文		肥前系	19C	残0.1
SK-1895土 第159 167	乗付花瓶	口径18.0 器高10.2 底径3.8	磁器 黒い粒子含む	透明	貫入 外面 草文		肥前系	18C	定形
SK-1895土 第159 168	乗付段重	口径(14.4) 器高5.7 底径(9.2)	磁器 黒い粒子含む	透明	外面 散花草文	重ね部 砂付着	肥前	19C	残0.3
SK-2095土 第169 169	奘	口径(64.2) 器高76.0 底径(43.2)	瓦質土器 0.6mmほどの鉄石 0.3mm程度の石英 微細な白磁石、長石、 石英を含む		内外面 口縁・ハケの上から横ナデ 外面胴部、ハケ目・内面胴部ハケ目 外面胴部の一部穿滅 内面口縁部以下全体穿滅と汚れ(黄白色)				残0.3
SK-2295土 第169 170	小皿	残存高1.5～ 底径4.8	土師器 金雲母 灰黄色		底部の調整は不明				残0.8
SK-2295土 第169 171	土鍋	口径(15.4) 残存高2.7～	陶器 微細な粒含む		口縁を折り返して逆U字形成形 口縁下に横ギケンナ				口縁部片
SK-2295土 第169 172	奘	残存高8.2～ 底径(22.0)	陶器 3mmの石英含む 硬質黒褐色	鉄軸	底部に穴あり、外面白化粧のたれ				底部片
SK-2295土 第169 173	惣柄	口径(2.8) 器高15.9 底径(5.6)	陶器 微細な白、茶、黒粒子 含む		貫入 外面上部白化粧土の文様 下部に鉄軸で書文		京焼風		口縁一部欠損
SK-2295土 第169 174	壺	残存高7.1 底径(6.4)	陶器 微細な白粒子含む	鉄軸			上野高取系		底縁残0.3
SK-2295土 第169 175	乗付蓋草	長軸6.0 短軸3.9 残存高1.9	磁器 白色	透明	内面 半雲文 高台側出し	高台輪割ぎ	肥前		

調査号	器種 形式 通称名	法量 (cm) ( ) 底径	胎の特徴 釉の色	輪軸	調整・成形・裝飾技法・特徴	装絵技法	産地	年代	備考
SK-22西土 第168 176	乗付皿	口径 (13.2) 残存高3.0	磁器 黒い粒子含む	透明	内面 刺文	蛇ノ目輪割ぎの一部	肥前		口縁残0.3
SK-22西土 第168 177	乗付皿	残存高2.3～ 底径 (7.4)	磁器 精良 灰色	透明	外面 一条團縁 高台二条團縁 内面に文様	畳付砂付	肥前		口縁部片
SK-22西土 第168 178	乗付碗	口径 (12.0) 残存高3.3～	磁器 黒い顆粒を含む		外面 草文		肥前		口縁部片
SK-22西土 第168 179	乗付碗	口径 (9.9) 器高5.1 底径 (3.9)	磁器 1mmの白粒、黒粒 含む	透明	貫入 内面の口縁部透弧文 三条團縁 見込みに二条團縁内に「寿」の文 外面 梅花文、裾部三条團縁、水雲文		肥前	19C	残0.5
SK-22西土 第168 180	赤絵碗	残存高2.8～ 底径 (3.2)	磁器 灰白色		外面腹部片丹書草文の赤絵		肥前	18C～ 19C	底部定存
SK-22西土 第168 181	色絵碗	口径 (11.4) 残存高3.5～	磁器 精良 灰白色	透明	内面色絵 文様は不明				残0.2
SP-23西土 第168 182	菊花小皿	口径 (8.9) 器高2.5 底径 (5.0)	白磁 精良 黄白色	透明	高台内にハリ跡1ヶ所 見込みにハリ跡2ヶ所 口縁部以外輪軸の不具 貫入あり (口縁部のみ) 押型成形		肥前	19C	残0.5
SK-24西土 第168 183	灯明皿	残存高1.2 底径3.7	陶器 精良 赤褐色		赤切り				底部定存
SK-24西土 第168 184	皿	残存高2.0 底径 (5.4)	陶器 精良 暗赤褐色	鉄輪 鉄轆	見込み 中心鉄輪 胴部 鉄轆 鉄輪 高台 鉄輪の輪だけ 高台内 鉄輪	見込み 蛇ノ目輪割ぎ			底部残0.3
SK-25西土 第168 185	乗付碗	残存高3.9～ 底径 (4.2)	磁器 黒い粒子含む	透明	外面 雪輪草花文		肥前		底部残0.3
SK-26西土 第168 186	土鍋	口径 (15.0) 残存高2.9	陶器 微細な粒含む	鉄輪 鉄轆					口縁部片
SK-26西土 第168 187	鉢	口径 (22.2) 器高11.3 底径 (10.2)	陶器 3mmの石英含む	鉄輪			高取		残0.5
SK-26西土 第168 188	乗付鉢	残存高3.9～ 底径 (10.0)	磁器 黒い粒子含む	透明	外面 高台付近に二条團縁と扇面文		肥前		底部残0.2
SK-28西土 第168 189	小碗	口径 (8.4) 器高2.5 底径3.6	陶器 0.1mmの砂粒含む 明褐色		外面輪だけ	内面砂目跡が残る	高取		残0.7
SK-28西土 第168 190	鉢	口径 (28.0) 残存高4.5	陶器 1mmの石粒含む	鉄轆	口縁部上部に六条の溝				口縁部片
SK-28西土 第168 191	深鉢	残存高4.7 底径 (9.0)	陶器 微細な粒		内面に横目				底部残0.2
SK-28西土 第178 192	風印	口径 (29.8) 残存高10.4	土師質 良 灰褐色		外面 ハケのちに斜め方向のシガキ、龍ナデ、 口縁部ココナデ 内面ハケのちにオサエ 口縁部ココナデ				蓋、口縁一部
SK-28西土 第178 193	碗	口径 (12.0) 器高5.0 底径 (5.0)	陶器 黄灰色 0.1～0.2mmの砂粒含 む	鉄輪	内面 白化粧土の刷毛掛け 外面 オリーブ色の灰輪 口縁の一部に輪の掛け				残0.2
SK-28西土 第178 194	碗	口径 (11.6) 残存高3.0～	陶器 黒粒子含む		貫入				口縁部片
SK-28西土 第178 195	碗	残存高3.0～	白磁 精良 淡灰白色	透明					底部片
SK-28西土 第178 196	鉢	残存高6.4～ 底径 (13.2)	陶器 0.1～0.3mmの白砂粒 含む 微細な白雲母 明赤褐色		内面 白化粧土を成状に髹漆		武蔵		底部片
SK-28西土 第178 197	乗付皿	口径 (12.6) 残存高2.0	磁器 白色	透明	見込み 花文		肥前		口縁部片

調査号	器種 形式 通称名	法量 (cm) ( ) 底径	胎の特徵 胎の色	輪軸	調査・成形・裝飾技法・特徴	窯結技法	産地	年代	備考
SK-2905土 第1798 198	乗付甕	口径(8.8) 残存高3.6~	磁器 白色	透明	外面 胴部花文		肥前		口縁部片
SK-2905土 第1798 199	乗付甕	口径(8.8) 器高4.6 底径(3.8)	磁器 精良 灰白色	透明	外面 花唐草文	畳付砂付着	肥前	17C~ 18C	残0.7
SK-2905土 第1798 200	罎鉢	残存高4.5~ 底径(8.4)	土質土器 石英、微細な砂粒 にふい橙色		罎目9本				底部片
SK-2905土 第1798 201	鉢	残存高4.2 底径(17.2)	土質土器 2mmの砂粒、微細な 白雲母、黒雲母含む						底部残0.2
SK-2905土 第1798 202	火鉢	残存高5.9~	瓦質土器 微細な砂粒、雲母含む		外面口縁部印花				口縁部片
SK-2905土 第1798 203	罎鉢	残存高4.7~ 底径(9.0)	陶器 0.1mmの白砂粒含む 赤褐色		罎目8本				底部片
SK-2905土 第1798 204	皿	残存高1.15 底径4.4	陶器 精良 灰白色		見込み胎土目取(3ヶ所) 胴部に輪だけ	底部磨削	香津	16C後半 ~ 17C前半	高台残0.8
SK-2905土 第1798 205	小皿	残存高2.5 底径4.3	陶器 精良 灰白色	灰軸					底部定形
SK-2905土 第1798 206	碗	口径(11.6) 残存高4.1~	陶器 精良 黄灰色		見込み 山水文 貫入		京焼風		口縁部片
SK-2905土 第1798 207	皿	口径11.6 器高3.6 底径4.8	陶器 灰白色			見込み 椀ノ目輪割 高台と見込みノ若干の 砂付着	肥前系	18C	定形
SK-2905土 第1798 208	皿	残存高2.8~ 底径(6.0)	陶器 3mmの砂粒含む		貫入		香津	16C後半 ~ 17C前半	底部一部欠損
SK-2905土 第1798 209	皿	口径(19.8) 残存高2.8~	陶器 精良 黄灰色		内面鉄絵が残る		香津	17C前半	口縁部片
SK-2905土 第1798 210	壺	残存高5.1 底径6.2	陶器 精良 黒い砂子を含む 灰色	鉄軸	見込みに3ヶ所、畳付に4ヶ所胎土目取が残る 内面ナメ 外面 ナメとケズリ	外面下平から高台内に かけて磨削	肥前系	17C	残0.3
SK-2905土 第1798 211	鉢	残存高4.0 底径(9.0)	陶器 4mmの石粒含む	鉄軸	見込み重ねねで砂と胎土の胎土		武雄		底部残0.3
SK-2905土 第1798 212	皿	口径(16.6) 残存高3.1~	陶器 精良 にふい橙色				香津	17C前半	口縁部片
SK-2905土 第1798 213	火入	口径(10.4) 残存高5.5~	陶器		筒形 長石軸 貫入				口縁部片
SK-2905土 第1798 214	火入	残存高5.1~ 底径(7.0)	陶器 黒い砂子	鉄軸			京焼風		底部残0.5
SK-2905土 第1798 215	仏飯器	口径5.8 器高5.7 底径3.3	陶器 黒い砂子含む						底部定形
SK-2905土 第1898 216	碗	口径(6.8) 残存高4.2~	陶器 精良 黄灰色		内外面刷毛目模様		現川		口縁部片
SK-2905土 第1898 217	皿	口径(19.0) 残存高2.3~	陶器 精良 黄灰色		内外面刷毛目模様		現川		口縁部片
SK-2905土 第1898 218	皿	残存高1.8~ 底径4.4	陶器 精良 赤灰色		見込みに刷毛目模様を施す	見込み 胎土目取4つ 高台に胎土目取4つ	武雄	17C前半	底部定形
SK-2905土 第1898 219	皿	残存高2.3~ 底径(7.8)	陶器 2mmの石英含む		見込みに白土を掛けて刷毛目模様 その上に砂目跡が4ヶ所	外面の畳付に胎土目を 取り除く時かけた痕跡 あり	武雄		底部残0.5
SK-2905土 第1898 220	鉢	残存高4.9~ 底径(11.0)	陶器 0.1~2mmの白砂粒 多く含む 明赤褐色	灰軸 オリーブ輪 鉄軸	内面 白化粧土ハケ掛け刷毛目模様 外面 オリーブ輪ハケ掛け 高台内 鉄軸ハケ掛け		香津		底部残0.5

調査号	器種 形式 通称名	法量 (cm) ( ) 程度	胎の特徴 胎の色	輪軸	調整・成形・裝飾技法・特徴	窯証技法	産地	年代	備考
SK-29出土 第189 221	鉢	残存高7.6～	陶器 白砂粒含む 明褐色	鉄軸	口縁部玉縁肥厚、外面下部は鉄葉 外面白化粧土層剥落し取り 内面白化粧土をハケ削付		武雄		口縁部片
SK-29出土 第189 222	皿	口径 (14.5) 器高 (2.8) 底径 (6.7)	白磁 精良 白色	透明	型押し成形、見込み花卉文様を降刺 文様を降刺、外面玉縁 貫入 口縁部輪軸跡のち鉄を塗布	底面蛇ノ目輪軸跡 口縁部輪軸跡		19C	残0.3
SK-29出土 第189 223	乗付碗	口径 (6.8) 残存高3.6～	磁器 精良 灰白色	透明	外面 花巻草文		肥前	19C	残0.3
SK-29出土 第189 224	乗付碗	残存高3.6 底径4.0	磁器 精良 灰白色	透明	胴部文様 高台縁だれ	高台内は露筋	肥前		底面残0.5
SK-29出土 第189 225	乗付碗	残存高1.9 底径3.6	磁器 精良 白色	透明	見込み文様 高台、高台筋 一条露筋 胴部 一条露筋、二条露筋		肥前	19C	底面残0.5
SK-29出土 第189 226	乗付碗	口径 (9.8) 残存高3.7～	磁器 精良 灰白色	透明	外面 磨光文 露入		肥前	18C	口縁部片
SK-29出土 第189 227	乗付鉢	残存高5.9 底径 (9.4)	磁器 精良 白色	透明	見込み花巻草文、胴部に草文、一条露筋 高台二条露筋、高台内一条露筋 全体透明輪		肥前		底面残0.1
SK-29出土 第189 228	瓶	残存高2.3～ 底径 (5.8)	白磁 精良 白灰色	透明	内面 輪だれ		肥前系	17C	底面片
SK-29出土 第189 229	瓶	口径5.7 残存高5.9～	磁器 精良 灰白色	透明	文様不明				口縁部片
SK-29出土 第189 230	乗付碗	口径 (11.8) 器高6.3 底径 (5.6)	磁器 精良 黒い粒子を含む 灰白色	透明	山・船が描かれる 高台に二条露筋 高台の上には雷文	磨付に移行着	肥前		残0.5
SK-29出土 第189 231	乗付皿	口径12.8 器高4.1 底径4.5	磁器 精良 白色	透明	内面 桜散文 高台付近 輪だれ	見込み 蛇ノ目輪軸跡	肥前	18C	残0.8
SK-31出土 第189 232	播鉢	残存高2.6～	陶器 1mm程度の石	鉄軸	口縁部は、くの字に内側に突出				口縁部片
SK-31出土 第189 233	土鍋	口径 (35.0) 残存高5.0	土質土器 3mmの石英、 白雲母含む		外面 ハケメ				口縁部片
SK-31出土 第189 234	播鉢	口径 (34.0) 残存高8.2～	陶器 1mmの白粒、白雲母 含む	鉄軸	扉目2本				口縁部片
SK-31出土 第189 235	碗	口径 (13.4) 残存高3.2～	陶器 1mm白粒含む	白色					口縁部片
SK-31出土 第189 236	片口	口径 (22.0) 残存高5.5～	陶器 0.5mmの石英含む				肥前系	16C～ 17C前半	口縁部片
SK-32出土 第190 237	乗付碗	残存高4.3～ 底径 (5.2)	磁器 黒い粒子含む		外面 文様の一部				底面残0.5
SD-35出土 第190 238	仏花瓶	残存高14.3～ 底径 (6.2)	陶器 微細な粒子含む	鉄軸	外面に縁部から内面にかけて茶褐色の鉄軸土削 付、係部に鉄筋の露文、オリーブと青色の山文 貫入、高台内に一部アレスナ跡が残る		武雄		口縁部欠損
SD-35出土 第190 239	乗付皿	口径 (11.4) 残存高2.3～	磁器 黒い粒子含む	透明	見込み 垂文		肥前		口縁部片
SK-36出土 第190 240	火鉢	残存高5.0	瓦質土器 1mmの石粒、 微細な白雲母含む		外面、口縁部付近に印痕				口縁部片
SK-36出土 第190 241	碗	残存高2.5～ 底径 (4.6)	陶器 精良 にぶい褐色		内面から外面中ほどまで輪軸				底面残0.5
SK-36出土 第190 242	皿	口径8.4 器高2.0 底径5.1	白磁 微細な黒粒子含む	透明	貫入、高台内を日 赤切り成形、高台を円形に削り付け 高台内同一方向の筋 輪軸		肥前	18C	残0.8
SK-36出土 第190 243	壺	口径 (9.2) 残存高4.0～	陶器 2mmの黒粒子、 微細な白雲母含む	鉄軸					口縁部片

調査号	器種 形式 通称名	法量 (cm) ( ) 底径	胎の特徵 胎の色	輪軸	調整・成形・裝飾技法・特徴	窯証技法	産地	年代	備考
SK-365土 第198 244	皿	残存高2.5~	陶器 精良 黄灰色		内面に白化粧土を掛け輪軸取り 貫入				口縁部片
SK-365土 第198 245	乗付碗	残存高1.8~ 底径 (4.6)	磁器 精良 灰白色	透明	高台に一条溝施 高台におそらく「大明年製」 貫入		肥前		底部片
SA-375土 第228 246	灯明皿	残存高1.6 底径3.7	陶器 精良 赤褐色	鉄軸	赤切り 内側鉄軸 外側赤褐色、ナデ				底面定存
SA-375土 第228 247	小皿	口径9.1 器高2.6 底径3.3	陶器 暗褐色~紫灰色	鉄軸 透明	三島手のモチーフを見込みに刷印し 鉄軸を全面掛けした後、印刷部に白化粧土を 掛けて印刷部以外を試きとって象嵌し。 透明軸を全面掛け 見込みに並んで3ヶ所		八代境又は 小代地		一部欠損
SA-375土 第228 248	鉢	残存高6.2~ 底径 (10.8)	陶器 0.1~2mmの砂粒含む 石黄 赤褐色			見込みに濃灰の砂目跡 高台内砂目跡			底部片
SA-375土 第228 249	皿	残存高5.4~ 底径 (15.6)	陶器 0.1~2mmの砂粒含む 石黄 赤褐色			見込みに濃灰の砂目跡 あり			底部片
SA-375土 第228 250	皿	残存高4.6~ 底径 (18.4)	陶器 0.1~1mmの白黒砂粒 含む 明赤褐色	鉄軸	内面白化粧土を輪軸取りその上に鉄軸 貼り付け高台	見込みに砂目跡が環状 に付着する 高台に2つの大きな目 跡が付く	武雄	18C	底部片
SA-375土 第228 251	土鍋	口径 (13.6) 残存高3.4~	陶器 白い粒含む	鉄壁	口縁部付着は無軸、内面は鉄葉 外面顔面が連続した飛び文様				口縁部残0.2
SA-375土 第228 252	鉢	口径 (31.6) 残存高7.9~	陶器 1mmの石含む		口縁部を白化粧土を塗った後、 ハナデナデの様な文				口縁部片
SA-375土 第228 253	菊皿	口径 (11.0) 器高2.0 底径 (6.2)	陶器 良 黄白色	透明? 黄緑色?	見込みに輪花 三条の沈殿 貫入	雲目に砂付着	瀬戸美濃		残0.3
SA-375土 第228 254	鉢	口径 (30.6) 残存高5.4~	陶器 1mmの白、系粒含む	鉄軸	鉄軸をハナ染り後、白化粧				口縁部片
SA-375土 第228 255	壺	口径 (31.0) 残存高7.2~	白磁 1mmの石黄含む	透明			中国	16C~ 17C	口縁部片
SA-375土 第228 256	鉢	残存高6.0~ 底径 (14.6)	陶器 5mmの石黄含む	鉄軸 鉄壁		見込み、高台内外に砂 目痕			底部残0.2
SA-375土 第228 257	壺	残存高8.0~ 底径4.7	陶器 0.1~2mmの白・ 黒砂粒多含む 明赤褐色				上野高取系		残0.8
SA-375土 第228 258	鉢	口径 (22.4) 残存高6.8~	陶器 2mmの石黄含む	鉄軸 灰軸	内面腹部に鉄軸、上から鉄軸 口縁付近から外面にかけて白化粧土 外面白化粧の上から文様の一部あり		武雄		口縁部片
SA-375土 第228 259	壺	残存高6.2~ 底径 (9.8)	白磁 精良 淡赤褐色	透明軸 鉄壁 鉄壁	外面 イヤン模様により文様を撰く				
SA-375土 第228 260	鉢	残存高5.3 底径 (9.4)	陶器 精良 赤灰色		内外面ナデ 底部赤切り 外面に磨面研直				底部残0.3
SA-375土 第228 261	壺	残存高10.2~ 底径4.4	陶器 0.1~2mmの砂粒多含む 明赤褐色				上野高取系		残0.8
SA-375土 第228 262	茶道具	口径 (13.4) 残存高 (11.3)	陶器 精良 黄白色		獅子顔取り付け、外面、内面上部輪軸 オリーブ ナデ 内面 中部ナデ、磨面研直 貫入、オリーブ貴輪のら外面口縁から獅子顔上 部まで鉄軸、獅子顔から下はオリーブ貴輪 同遠縁から出たした同一器体と考えられる遺物 には獅子の口縁から左右に貫通した穴あり、ま た口径と獅子顔の中間に穿孔を2ヶ所		高取?	18C小 19C	
SA-375土 第238 263	小杯	残存高2.4 底径 (3.4)	磁器 精良 白色	透明	全体は無地				底部残0.5
SA-375土 第238 264	合子	口径 (4.6) 残存高19.0~	白磁 黒い粒子含む	透明					口縁残0.3

図番号	器種 形式 通称名	法量 (cm) ( ) 底光緒	胎の特徴 胎の色	釉薬	調整・成形・裝飾技法・特徴	窯話技法	産地	年代	備考
SA-37出土 第238 265	筒型瓶	口径 (9.4) 器高6.8 底径 (5.4)	白磁 精良 白色	透明				19C	残0.3
SA-37出土 第238 266	耳付壺	幅10.7 高8.6	磁器 精良 白色	黒色	貫入 ナデ 耳取り付付		中国南部		群部片
SA-37出土 第238 267	色絵小杯	口径 (5.4) 器高2.4 底径 (2.4)	磁器 青白色	透明	内面の口縁付近に金色の雲文 見込み青色で「青染之春」落款 横書き文		肥前		残0.5
SA-37出土 第238 268	染付瓶	口径 (98.0) 器高5.0 底径 (3.1)	磁器 黒い・粒子含む	透明	外面胴部に松文、腹部から高台外縁に 四葉團扇、群部に蓮文、緑繪		肥前		残0.5
SA-37出土 第238 269	染付筒型瓶	口径7.5 器高5.5 底径3.6	磁器 精良 灰白色	透明	横線を織いた間に雲文	墨付に彩付者	肥前	19C	残0.8
SA-37出土 第238 270	染付杯	口径 (8.4) 残存高3.6 ~	磁器 精良 灰白色	透明	外面 葉脈・樹木などの風景 内面 下部に二条團扇 内面口縁に三条團扇か		肥前		残0.3
SA-37出土 第238 271	染付瓶	残存高4.8 ~ 底径6.8	磁器 精良 灰白色	透明	外面 水雲文地に菊花散し文 高台に二条團扇 貫入		有田	19C	残0.3
SA-37出土 第238 272	染付瓶	口径 (11.0) 器高6.1 底径3.6	磁器 精良 灰白色	透明	外面 丸文 上部と下部に二条團扇 見込み コンニャク印付、五弁花	見込みに彩付者	肥前	17C後半	残0.3
SA-37出土 第238 273	染付皿	残存高3.3 底径 (10.2)	磁器 精良 白色	透明	見込み 文様		肥前		破片
SA-37出土 第238 274	皿	残存高1.6 ~ 底径 (4.8)	陶器 精良 灰白色	透明	外面の胴部 透明釉 見込み 緑繪		箱野		底部片
SA-37出土 第238 275	染付皿	残存高2.1 底径 (8.2)	磁器 精良 灰白色	透明	見込み 横書き文と二条團扇 胴部 横書き文、胴下部 一条團扇 高台 二条團扇、高台内 一条團扇 貫入		肥前	19C	底部残0.3
SA-37出土 第238 276	染付皿	口径 (14.1) 器高4.55 底径 (8.8)	磁器 精良 灰白色	透明	胴部に横書き文 一条團扇、高台 二条團扇 高台内に一条團扇、見込み 宝文 口縁部 段差あり、全体 透明釉	高台彩付者 高台内に彩付者	18C		残0.2
SA-37出土 第238 277	染付皿	残存高2.6 底径 (9.8)	磁器 精良 白色	透明	胴部 一条團扇 高台 二条團扇 見込み 五弁花文、二条團扇 貫入		肥前	19C	底部残0.3
SA-37出土 第238 278	染付徳利	残存高11.3 ~ 底径7.6	磁器 精良 青白色	透明	外面 造山の文様 輪のかかりが薄く、文様は灰オリーブ色			17C中葉 後半	残0.3
SA-37出土 第238 279	染付皿	残存高6.5 ~ 底径 (12.4)	磁器 精良 灰白色	透明	内面 文様 外面 碧草文様	高台内 蛇ノ目輪割ぎ 蛇ノ目輪割ぎ内に帯状 に彩付者	肥前	19C	残0.3
SA-37出土 第238 280	染付仏龕器	口径5.8 器高5.8 底径3.2	磁器 精良 灰白色	透明	外面 横書き文 高台に輪がたれる		肥前	19C	残0.8
SA-37出土 第238 281	染付花瓶	口径 (6.3) 器高14.0 底径 (4.8)	磁器 黒い・粒子含む	透明	山水、草、春花文		有田	17C中後	残0.5
SA-37出土 第238 282	染付皿	残存高6.0 ~	磁器 精良 灰白色	透明	口径 透気文・花文 外面 碧草文		肥前	18C	口縁部片
SA-37出土 第238 283	礫石	径2.2 厚0.5			粒状管製 黒 よく研磨されている				完整
SK-386出土 第289 284	鉢	口径 (19.4) 残存高4.2	陶器 精良 暗赤灰色	鉄輪	内外面 鉄輪を掃す 口縁部輪割ぎ 外面 一部輪だけか		肥前系	18C	口縁部破片
SK-386出土 第289 285	碗	残存高3.1 底径4.3	陶器 精良 白と黒い・粒子を含む 灰白色	透明	内面 透明釉を施し、貫入 胴部にオリーブ色の輪		豊前、胴部に彩付者		残0.7
SK-386出土 第289 286	磁鉢	残存高2.9 底径 (11.4)	陶器 暗赤灰色		鉢目の単位十四条 外面 ナデ 糸切り				
SK-418出土 第289 287	碗	口径 (10.8) 器高7.1 底径 (4.3)	陶器 黄白色	鉄輪	見込み 黒当り肌		箱野系統	17C代	一部欠損

調査号	器種 形式 通称名	法量 (cm) ( ) 底光値	胎の特微 胎の色	輪軸	調整・成形・裝飾技法・特徴	窯器技法	産地	年代	備考	
SK-41市土 敷268 288	鉢	残存高4.0 底径 19.8)	陶器 1mmの白粒を含む	キリーブ色	内面は暗褐色の胎土で、白土による刷毛目裝飾 (流状) その上からキリーブ色の輪だれ		武蔵	17C後半	底片	
SK-42市土 敷268 289	合子の蓋	口径 9.6) 残存高1.9	陶器 微細な粒を含む	鉄軸			濃尾?		残0.2	
SK-42市土 敷268 290	皿	口径 (19.8) 残存高3.9～	陶器 2mmの石粒を含む	鉄軸		口縁部に鉄軸 皮解す風	香淳?	18C～ 19C	口縁部片	
SK-42市土 敷268 291	碗	残存高3.0～ 底径 (4.2)	陶器 微細な粒を含む			ひび割 文様の 陶胎染付		18C	底部存在	
SK-43市土 敷268 292	小皿	口径6.4 器高1.9 底径4.5	土師器 灰白色 白雲母を含む		赤切り ヨコナデ				ほぼ定形	
SK-43市土 敷268 293	小皿	口径 (7.7) 器高1.7 底径 (4.6)	土師器 微細な白雲母あり		赤切り ヨコナデ				残0.5	
SK-43市土 敷268 294	小皿	口径8.0 器高2.1 底径4.5	土師器 微細な赤雲母、白雲母 あり 石炭あり		赤切り ヨコナデ				残0.8	
SK-43市土 敷268 295	小皿	口径 (8.2) 器高2.0 底径 (4.8)	土師器 微細な白雲母		赤切り ヨコナデ 内面に黒煤				残0.5	
SK-43市土 敷268 296	小皿	口径8.1 器高2.1 底径4.4	土師器 灰白色 白雲母を含む		赤切りとヨコナデ。 口縁部に焼け跡 外面状態が悪い				ほぼ定形	
SK-43市土 敷268 297	小皿	口径 (8.3) 器高2.0 底径 (5.6)	土師器 微細な赤雲母あり		赤切り ヨコナデ				残0.2	
SK-43市土 敷268 298	皿	口径8.0 器高1.7 底径4.9	土師器 微細な赤雲母を含む		内面、口縁部付近に黒書 赤切り				ほぼ定形	
SK-43市土 敷268 299	小皿	口径 9 器高2.0 底径4.8	土師器 微細な赤雲母、白雲母 あり 浅黄色		赤切り ヨコナデ				残0.8	
SK-43市土 敷268 300	皿	口径 (11.4) 器高2.2 底径6.7	土師器 灰白色 白雲母を含む		ヨコナデ 内外面黒煤 底へタ切り				残0.8	
SK-43市土 敷268 301	焼塩釜	口径6.2 器高6.0 底径4.8	土師質土器 1mmの砂粒		外面保存者 器押入跡				定形	
SK-43市土 敷268 302	小皿	口径8.4 器高2.4 底径4.0	陶器 0.1～1.0mmの白砂粒 含む 赤褐色	鉄軸	鉄軸を内面から外面口縁部までかけるか広い範 囲に輪だれが広がる 高台内にも鉄軸がかかる		高取		残0.8	
SK-43市土 敷268 303	小杯	口径6.2 器高3.8 底径2.5	陶器 灰色						残0.5	
SK-43市土 敷268 304	小碗	口径 (7.3) 器高3.9 底径 (2.4)	陶器 精良 黄白色	透明 銅緑色	口縁部銅緑輪、横ナデ 輪だれあり、貫入		高台から腰部まで露筋	畑野系統	残0.5	
SK-43市土 敷268 305	碗	残存高1.5～ 底径9.6	陶器 精良 灰色		貫入		現川		底部存在	
SK-43市土 敷268 306	皿	残存高2.7～ 底径4.5	陶器 白灰色				見込みに輪ノ目輪跡等	17C?	底部存在	
SK-43市土 敷268 307	皿	残存高2.0～ 底径 (7.4)	陶器 1mmの白粒を含む 淡灰褐色				見込みに輪ノ目輪跡等		底部残0.8	
SK-43市土 敷268 308	皿	口径11.5 器高3.6 底径4.0	陶器 淡白灰色				見込みを輪ノ目輪跡等	肥前系	17C	定形
SK-43市土 敷268 309	蓋	残存高3.0 底径 (17.4)	陶器 灰色	鉄軸	外面底部具の目跡		香淳又は高 取	17C前半	底部小片	
SK-43市土 敷268 310	鉢	残存高3.5～ 底径 (9.6)	陶器 微細な白雲母		内面 鉄泥 赤切り				底部残0.5	

調査号	器種 形式 通称名	法量 (cm) ( ) 役元端	胎の特徴 胎の色	胎素	調整・成形・装飾技法・特徴	装飾技法	産地	年代	備考
SK-43南土 第2798 311	鉢	残存高一 個14.6 底径(7.8)	陶器 0.1~1mmの白砂粒 含む 紫灰色	鉄輪	外面下部に胎ナサエ	見込みに大量の砂目	肥前系		残0.2
SK-43南土 第2798 312	瓶	器高10.5~ 底径(9.8)	陶器 精良 赤褐色		内面 無胎。高台部分は無胎 二把手 高台内と外部下半に鉄壁		武雄		底径残0.5
SK-43南土 第2798 313	鉢	残存高4.0~ 底径(11.0)	陶器 3mmの石粒含む	鉄輪		見込みに砂目			底径残0.3
SK-43南土 第2798 314	皿	口径(20.0) 残存高5.8	陶器 淡黄白色	鉄壁 透明	貫入 鉄壁	見込みに輪割ぎ			口径部残0.1
SK-43南土 第2798 315	飯鉢	口径(36.8) 残存高5.5~	陶器 1mm程度の粒含む	鉄輪	口径部 鉄輪 内面に11本の罫目				口径部片
SK-43南土 第2798 316	飯鉢	口径(25.6) 残存高9.5~	陶器 6mmの石粒を含む		内面、胴部に9本の罫目				口径部残0.3
SK-43南土 第2798 317	飯鉢	口径(30.8) 残存高3.5~	陶器 1mmの白粒含む	鉄輪	口径部 鉄輪 内面 罫目				口径部片
SK-43南土 第2798 318	飯鉢	口径(37.0) 残存高8.9	陶器 紫灰色	鉄輪	口径部 鉄輪 外面 横ナア 内面 横ナアのち輪割ぎ				口径部片
SK-43南土 第2798 319	飯鉢	口径(34.8) 残存高7.3~	陶器 2mmの石粒	鉄輪	内面 罫目 玉縁状の口縁				口径部片
SK-43南土 第2798 320	飯鉢	残存高4.9~ 底径(11.0)	陶器 精良 暗黒褐色		内面 罫目を施す	底部に胎土跡			底径残0.3
SK-43南土 第2798 321	皿	残存高3.5 底径(6.0)	陶器 精良 灰白色	鉄壁 透明	見込み 蛇ノ目輪割ぎのち鉄壁 見込み1.4cm幅で化粧土を施した後、輪割ぎ 貫入 底部ハリ跡	見込み蛇ノ目輪割ぎ 胎付輪割ぎ			残0.3?
SK-43南土 第2798 322	皿	残存高9.9~ 底径(6.0)	陶器 0.3~2mmの石多く 含む 灰褐色	鉄輪 灰輪	内外面胴下部に鉄輪毛掛け 外面 オリーブ色の灰輪を流し掛け輪だれ	胎付に5mmの石付着	肥前系	17C後半	残0.3
SK-43南土 第2798 323	瓶	残存高4.0 底径4.2	陶器 淡黄白色		肥前系京風陶器の模 見込み 山文水(鉄絵) 高台内 縦割「流水」	胎付は露胎	京焼風		底部定存
SK-43南土 第2798 324	花瓶	残存高8.7~ 底径(4.3)	陶器 灰白色					18C	底部定存
SK-43南土 第2798 325	皿	口径(19.6) 器高4.7 底径(8.8)	陶器 精良 灰紫色	鉄輪 灰輪	緑灰色の灰輪が内面から外面口径。内面はその 上から打ち刷毛目模様 外面 胴下部に鉄輪 刷毛掛け	内面 見込みに蛇ノ目 輪割ぎ	武雄	18C	残0.2
SK-43南土 第2898 326	皿	口径(25.6) 残存高4.3~	陶器		内面 打刷毛目		武雄		口径部小片
SK-43南土 第2898 327	皿	高7.6 高4.7	陶器 精良 灰紫色		高台を除く内外化粧土の刷毛掛け	見込み 蛇ノ目輪割ぎ	龍川?	18C	底部片
SK-43南土 第2898 328	土瓶	口径(9.8) 残存高7.9 幅(17.4)	陶器 精良 黄褐色	鉄輪	外面 鉄輪を施す。その上に化粧土で文字 緑輪で草文を表す。内面 ナア 鉄壁を胎付 鉄輪部、内面土瓶			19C	口径部片
SK-43南土 第2898 329	鉢	口径(28.0) 残存高4.0~	陶器 精良 明褐色	鉄輪 灰輪	内面化粧土で刷毛目模様の上からオリーブ色 の灰輪を口径部まで 外面口径に鉄輪				口径部片
SK-43南土 第2898 330	小杯	口径(7.0) 器高4.5 底径(3.8)	白磁 精良 灰白色	透明	外面 柳石陶門系にご手風風				残0.5
SK-43南土 第2898 331	碗	口径8.2 器高3.8 底径3.7	白磁 精良 白色	透明					残0.5
SK-43南土 第2898 332	小皿	口径10.4 器高2.9 底径5.2	磁器 精良 白色	透明	口径口端 無文 花卉彫 柳石陶門		有田	17C後半 ~18C前 半	残0.8



調査号	器種 形式 通称名	法量 (cm) ( ) 復元値	胎の特微 胎の色	輪軸	調整・成形・裝飾技法・特徴	窯結技法	産地	年代	備考
SK-430土 第280 333	瓶	残存高3.7～ 胎高6.6 底径6.2	青磁 精良 灰白色		高台が高い				残0.5?
SK-430土 第280 334	小杯 碗反	口径6.4 胎高3.8 底径2.8	陶器 1mmの砂粒含む 淡黄褐色	薬丸軸	外面 草文 外面胴下部 二条線飾		高取上野系	17C前半	定形
SK-430土 第280 335	薬付小瓶	残存高2.2～ 底径3.1	磁器 精良 灰白色	透明	外面 草文	薬付にかなりの砂が 付着	肥前		底部定存
SK-430土 第280 336	薬付小瓶	胎高2.2～ 底径3.2 幅7.6	磁器 精良 灰白色	透明	外面 草花文		肥前		残0.3
SK-430土 第280 337	薬付瓶	口径 (7.5) 胎高4.2 底径2.6	磁器 精良 白色	透明	外面 草花文と宝文		肥前		残0.3
SK-430土 第280 338	薬付瓶	口径8.1 胎高4.9 底径 (3.4)	磁器 精良 白色	透明	外面高台から胴下部 三条線飾 外面胴部草花文 内外面 貫入		肥前		ほぼ定形
SK-430土 第280 339	薬付瓶	口径 (8.2) 胎高4.7 底径 (3.5)	磁器 灰白色	透明	外面 横文				残0.5
SK-430土 第280 340	薬付瓶	口径4.4 胎高4.2 底径3.0	磁器 精良 白色	透明	外面 蛇籠草花文		肥前		残0.7
SK-430土 第280 341	薬付瓶	口径8.7 胎高5.1 底径3.7	磁器 精良 白色	透明	外面胴部草文 (暗青色) 高台・高台唇 三条線飾	薬付輪削ぎ	肥前		ほぼ定形
SK-430土 第280 342	薬付瓶	口径 (10.0) 残存高5.2～	磁器 精良 灰白色	透明	外面 草文 底部 高台内 線飾あり		肥前	17C～ 18C	残0.3
SK-430土 第280 343	薬付瓶	口径9.6 胎高4.8 底径3.4	磁器 精良 白色	透明	外面 花卉文、梅文		肥前		残0.8
SK-430土 第280 344	薬付瓶	口径 (10.8) 胎高5.5 底径 (5.0)	磁器 精良 白色	透明	外面 竹文 口縁 口溝				残0.3
SK-430土 第280 345	薬付瓶	残存高6.3 幅4.8	磁器 精良 白色	透明	外面 高台に二条、高台上に一糸線飾 内面に また、草花文 内面：見込み、横文		肥前		残0.3?
SK-430土 第280 346	薬付皿	口径 (13.3) 胎高4.8 底径 (4.8)	磁器 灰白色 微細な黒粒子	透明	貫入 内面、口縁付近に折板垂文	見込みに蛇ノ目輪削ぎ	肥前	18C	底部定存
SK-430土 第280 347	薬付手盛皿	一辺2.2 胎高2.6 底径5.2	磁器 精良 灰白色	透明	糸切り細工の整打ち成型 見込み 草花文、外面 草草文 高台内「大明年製」 口縁 口溝		肥前		ほぼ定形
SK-430土 第280 348	薬付瓶	残存高2.5～	磁器 精良 灰白色	透明	内面 松文 外面 口縁近く近くに輪だれ		肥前	17C～ 18C	口縁部片
SK-430土 第280 349	薬付皿	口径13.2 胎高3.5 底径7.8	磁器 精良 灰白色	透明	見込み コシニヤ印模花卉文 内面 半環草草文 外面 草草文 高台内「大明年製」	薬付に砂目散がかなり 残る	有田	18C前半	残0.8
SK-430土 第280 350	瓶	残存高11.3～ 底径9.2	陶器 精良 黄灰色	透明		薬付砂付着 陶筋染付	肥前系	18C	胴上部欠損
SK-430土 第280 351	薬付皿	口径14.0 胎高3.8 底径8.1	磁器 精良 白色	透明	見込み コシニヤ印模花卉文 内面 菊草草文、外面 草草文 高台内「象」、花卉形		有田	18C前半	定形
SK-430土 第280 352	薬付皿	口径20.8 胎高3.3 底径14.0	磁器 精良 白色	透明	外面 草草文、内面 花唐草文 見込み 花卉文 裾縁は扇箱を模した染付 高台内にハナリ支え燈籠模5、輪花	薬付砂付着	有田	18C前半	残0.7
SK-440土 第290 353	皿	残存高3.1～ 底径 (7.6)	陶器 2mmの石炭含む	透明	燈付で具装	見込みに2ヶ所胎土	高取? 豊津?	17C前半	底部残0.5
SK-440土 第290 354	銅鑄鉢 茶道具	口径 (17.2) 胎高5.5 底径 (10.2)	陶器 1.5mmの砂粒含む		貫入 口縁部の欠損が大きい 高台内に染付で具装		志野	16C後半	残0.5
SK-440土 第290 355	薬付瓶	残存高5.5～ 底径 (6.8)	磁器 黒い粒子含む	透明	外面 胡唐草文 外面胴部 二条の線飾		肥前	19C	底部残0.2

調査号	器種 形式 通称名	法量 (cm) ( ) 底径	胎の特徴 胎の色	釉薬	調整・成形・装飾技法・特徴	装飾技法	産地	年代	備考
SK-44出土 第268 356	乗付椀	残存高3.4～ 底径(4.7)	磁器 青白色	透明	高台の外周三条垂線 見込みと外面 文様		肥前		底部0.3
SK-44出土 第268 357	乗付椀	残存高2.2～ 底径(4.4)	磁器 黒い粒子含む	透明	貫入 高台内 一条垂線。「大明年製」 外面の細部から高台にかけて三条垂線と 文様の一部		肥前		底部0.5
SK-45出土 第268 358	碗	残存高2.9 底径3.8	陶器 精良 灰白色	灰輪 透明	全体に貫入 胴部、高台、高台内 灰輪のハゲガケ 胴中部と内面 透明輪				底部0.3
SK-45出土 第268 359	乗付小杯	残存高1.5 底径2.3	磁器 精良 白色	透明	全体に透明輪 高台内 深川製陶の商標		肥前		高台部0.3
SK-45出土 第268 360	乗付椀	口径11.8 残存高3.6	磁器 精良 白色	透明	見込み 一条垂線 胴部 不明文 全体に透明輪		肥前		口縁部破片
SK-45出土 第268 361	乗付皿	口径15.5 器高3.75 底径8.8	磁器 精良 白色	透明	全体に透明輪 高台内に文様が隠される		肥前	18C～ 19C	残0.5
第3遺構面出土 第328 362	火鉢	残存高8.6 底径(19.4)	瓦質土器 1mmの白雲母含む		胴部が多角形、脚部と火鉢部は別個に作られ接 合されている 外面は丁寧な調整だが、内面はナガ、剛毛目や 指圧痕が明顯である。脚付の大鉢 外面は指押しによる方形区面に珠文の陶刻 外面区画の意匠はゴキキを施す		瀬戸?		底部0.3
第3遺構面出土 第328 363	碗	口径(8.6) 残存高4.0～	陶器 精良 灰白色	緑輪	口縁部緑輪		織物風	19C	口縁部片
第3遺構面出土 第328 364	碗	残存高3.1 底径(3.8)	陶器 精良 白と黒い粒子を含む 灰白色	透明	貫入 見込みに足付ハマ滑着痕小 透明輪を施す	外面下部から高台内に かけて垂動	京焼風		底部0.5
第3遺構面出土 第328 365	碗	口径9.4 器高5.4 底径3.1	陶器 精良 黒い粒子を含む 灰白色		貫入				残0.7
第3遺構面出土 第328 366	碗	口径4.3～ 残存高(3.6)	陶器 黒、白粒子含む		貫入 粟文				底部0.3
第3遺構面出土 第328 367	碗	残存高3.6 底径(3.6)	陶器 精良 白と黒い粒子を含む 灰白色	透明	貫入 見込みに山水文 透明輪	外面下部から高台内に かけて垂動	京焼風		底部0.7
第3遺構面出土 第328 368	皿	残存高1.2 底径4.1	陶器 精良 灰色	透明	貫入 見込みに輪土目模(3ヶ所) 全体に透明輪	費付に砂目あり	曹津	16C	高台定形
第3遺構面出土 第328 369	碗	残存高2.2～ 底径(4.0)	陶器 0.1～1mmの砂粒含む 淡黄褐色		外面に輪だけ	高台内面に砂付着			底部片
第3遺構面出土 第328 370	皿	残存高1.5～ 底径(6.0)	陶器 精良 灰白色		外面胴下部に粒状の突起、白化粒土		肥前系		底部片
第3遺構面出土 第328 371	小皿	口径11.3 器高3.2 底径4.6	青磁 黒、白い粒子含む		貫入	見込みに蛇ノ目輪模様	中国南部	17C	定形
第3遺構面出土 第328 372	皿	残存高2.6 底径4.7	陶器 精良 灰白色						底部定形
第3遺構面出土 第328 373	蓋	口径(11.4) 残存高2.1～	陶器 微細な白、黒粒含む		内面 貫入 外面は垂動に直に輪模文。その上に白化粒で輪 付け				口縁0.2
第3遺構面出土 第328 374	壺	残存高6.1～	陶器 石英 0.5～1mmの砂粒含む 暗赤褐色						口縁部片
第3遺構面出土 第328 375	鉢	残存高8.8～	陶器 0.1～1mmの白砂粒 含む 暗赤灰色	灰輪	内面口縁から外面にかけて黄褐色の灰輪が付				口縁部片
第3遺構面出土 第328 376	楕鉢	残存高2.0～ 底径(7.4)	陶器 精良 灰白色						底部片

図番号	器種 形式 通称名	法量 (cm) ( ) 底光径	胎の特微 胎の色	釉薬	調整・成形・裝飾技法・特徴	窯結技法	産地	年代	備考
第3遺構面出土 敷329 377	楕鉢	残存高5.3～ 底径19.6	陶器 0.5～1mmの白砂粒 含む 暗赤褐色			外面腹下部に胎土跡 2ヶ所 見込みに重ね焼きの痕 跡あり			底面陶0.5
第3遺構面出土 敷329 378	皿	残存高2.2～ 底径4.6	青磁 精良 青灰色	青磁	貫入		龍泉窯	17C	底面片
第3遺構面出土 敷329 379	碗	残存高3.8 底径15.4	磁器 精良 黒褐色の粒子を含む 灰白色	透明 褐色	高台に1ヶ所押したような跡が見られる 陶輪を施す	墨付輪調子 高台内に砂付着			底面陶0.3
第3遺構面出土 敷329 380	皿	残存高3.3 底径16.8	白磁 精良 黒い粒子を含む 灰白色	透明	透明輪を施す	見込みに輪調子。 砂付着 墨付輪調子。砂付着			底面陶0.5
第3遺構面出土 敷329 381	染付碗	残存高1.6～ 底径12.8	磁器 精良 灰白色	透明	見込み コンニャク印判 五弁花文 外面 区画文		肥前窯	18C小 19C	底面片
第3遺構面出土 敷329 382	染付小碗	口径18.0 器高4.7 底径12.7	磁器 精良 黒い粒子を含む 灰白色	透明	内面 草花文	墨付輪調子	肥前		陶0.3
第3遺構面出土 敷329 383	染付小杯	口径14.8 器高3.4 底径12.9	磁器 灰白色	透明	外面腹部に二条の襷輪 口縁部付近に文様 貫入		肥前		陶0.5割
第3遺構面出土 敷329 384	小杯	残存高2.4～	白磁 精良 灰白色	透明	高台内 文字		肥前	19C	陶0.3
第3遺構面出土 敷329 385	染付小碗	口径17.1 器高3.3 底径12.2	磁器 精良 灰白色	透明	外面 額文		肥前	19C	陶0.8
第3遺構面出土 敷329 386	染付そば盛口	口径15.8 残存高3.6～	磁器 精良 灰白色	透明	外面 二重格子文		肥前	19C	口縁部片
第3遺構面出土 敷329 387	染付茶	口径19.8 器高2.5 底径12.7	磁器 精良 灰白色	透明	見込み 鳥・雲など描く 調板刷		肥前	近代	陶0.7
第3遺構面出土 敷329 388	染付碗	残存高3.2～ 底径13.1	磁器 精良 灰白色	透明	外面 草草文		肥前	19C	陶0.7
第3遺構面出土 敷330 389	染付碗	残存高3.1 底径13.3	磁器 精良 灰白色	透明	全体に透明輪 胴部に紫文	墨付砂目			高台部定形
第3遺構面出土 敷330 390	染付碗	残存高3.0～ 底径14.2	磁器 精良 灰白色	透明	外面 区画調文 高台 二条の襷輪 見込み 鳥が描かれる		肥前	19C	陶0.3
第3遺構面出土 敷330 391	染付蓋	つまみ183.4 板188.5 器高2.7	磁器 精良 灰白色	透明	外面はよろけ織文、つまみ外に二条の襷輪 内面 天井部は花文、一条の襷輪 内面口縁部は草草文 つまみ内に不明文字、一条の襷輪 全体に透明輪				陶0.8
第3遺構面出土 敷330 392	染付碗 墨付き碗	口径18.8 残存高3.7～	磁器 精良 灰白色	透明	貫入 外面 草花文		肥前	19C	口縁部片
第3遺構面出土 敷330 393	染付碗	口径110.4 器高6.0 底径13.6	磁器 精良 灰白色	透明	内面 区画文 外面 文様不明		肥前	19C	陶0.3
第3遺構面出土 敷330 394	染付碗	残存高4.4 底径14.2	磁器 精良 灰白色	透明	見込み 草花文 胴部に区画の中に草花文 高台に二条の襷輪 全体に透明輪		肥前		陶0.3
第3遺構面出土 敷330 395	染付皿	残存高2.5～ 底径17.6	磁器 精良 灰白色	透明	内面 花唐草文 見込み 六弁花文 外面 草草文 外底に文様	高台内面に砂付着	肥前	19C	底面片
第3遺構面出土 敷330 396	染付皿	残存高2.8～ 底径17.8	磁器 精良 灰白色	透明	見込み 山・波・樹木等 外面 水・波唐草 高台 樹唐文 高台に割れた磁器を直した跡がみられる	高台内縁に輪調調子	肥前	19C	陶0.2
第3遺構面出土 敷330 397	染付輪花皿	口径113.4 器高3.3 底径17.5	磁器 精良 黒い粒子を含む 灰白色	透明	外面は草草文と高台二条、胴下部一条の襷輪 内面 襷輪草草文 見込み 襷輪松竹梅を模した染付 高台内縁に「大明年製」 墨付ら成型	高台内縁に輪調調子	肥前	19C	底面定存

図番号	図様 形式 名称	法量 (mm) ( ) 度光値	胎の特徴 胎の色	輪筆	調整・成形・裝飾技法・特徴	窯話技法	産地	年代	備考
SD-10出土 第348 398	土製品 土人形	高さ2 幅3.2 厚0.9	土製品		型押成形				
SK-20出土 第348 399	土製品 土馬	長6.9 幅2.2 高さ5.0	土製瓦土器 0.5～1mmの砂粒含む 黒雲母含む 明褐色		手捏ね				胴部から 上のみ
SK-2出土 第348 400	土製品 土人形	長4.0 幅3.2 厚1.2			手捏ね				
SD-35出土 第348 401	土製品 土馬	高さ6.5 幅8.7 奥行8.3			手捏ね 鞍の造形はない 淡白色				
SK-30出土 第348 402	土製品 土人形	長7.4 幅6.1 厚3.5	土製瓦土器 暗黄灰白色		手捏ね				下部欠損
SD-35出土 第348 403	土製品 管状土鉢	長3.5 幅1.25 厚1.25			手捏ね				
SK-第3遺構面 出土 第348 404	土製品 管状土鉢	長4.7 幅1.4 厚1.4			手捏ね				定形
SK-第3遺構面 出土 第348 405	土製品 管状土鉢	長4.8 幅1.3 厚1.3			手捏ね				定形
SK-28出土 第348 406	土製品 土鈴	長5.5 幅3.9	土製品 白雲母		手捏ね				残0.8
SK-26出土 第338 407	丸瓦	器高6.7 長19.0 幅14.0 厚2.1	瓦質 精良 灰色		西面市目煎 凸面ヘラズリ後ヨコナテ				残0.5
SK-29出土 第338 408	丸瓦	長18.2 幅11.9 厚2.0	瓦質		西面 ケズリ 凸面 ナテ 釘穴あり				
SK-第3遺構面 出土 第338 409	丸瓦	長16.1 幅14.0 厚2.0	瓦質 灰色		西面ケズリと面取り・磨削 凸面ナテ仕上げ				
SK-18出土 第368 410	丸瓦	幅14.0 厚2.1 端部0.8	瓦質 精良 灰色		西面に磨削 凸面に型跡・形跡				
SK-20出土 第368 411	瓦	幅13.7 厚2.0	瓦質 精良 灰色		表面に溝を掘り 裏面に溝を掘り				
SK-22出土 第368 412	平瓦	幅16.8 厚2.5	瓦質 灰白色が黒灰色を挟む		摩滅が著しい ナテ仕上げ				
SK-10出土 第368 413	切り込み様瓦	幅15.1 厚1.8	瓦質		黒灰色 凸面 ミヤギ 西面 ナテ仕上げ 小口部に彫形のスタンプ				
SK-10出土 第378 414	切り込み様瓦	幅30.8 厚2.0	瓦質		ナテ仕上げ 小口部に彫形のスタンプ 黒灰色				
SK-第3遺構面 出土 第378 415	軒様瓦	幅13.8 厚2.0	瓦質 灰白色が黒灰色を挟む		ナテ仕上げ 巴文				
SK-40出土 第388 416	植板材	長12.3 幅11.5 厚1.0	木製品						
SK-40出土 第388 417	植板材	長12.7 幅12.5 厚1.0	木製品						
SK-40出土 第388 418	植板材	長12.5 幅12.5 厚1.1	木製品						
SK-40出土 第388 419	曲物成板	長13.3 幅13.4 厚1.0	木製品						
第3遺構面出土 第388 420	成板	長19.8 幅8.8～ 厚1.0	木製品						

調査号	器種 形式 通称名	法量 (cm) ( ) 復元値	胎の特徴 胎の色	輪郭	調整・成形・裝飾技法・特徴	窯結技法	産地	年代	備考
SK-40西土 第389号 421	木製品 植板材	長29.9 幅24.0 厚1.8							
第3遺構面 第389号 422	木製品 不明	長17.9 幅1.5 厚1.4							
第3遺構面の土 第389号 423	木製品	径9.2 幅3.5 厚0.9							
SK-40西土 第389号 424	木製品	長14.7 幅12.8 厚1.9							
SK-40 第389号 425	木製品 羽子板形製品	長45.6 幅19.7 厚7.0							
SK-40西土 第389号 426	下駄 (露形?)	長15.8 幅6.4-8.4 厚0.6-4.2	木製品		下部破損 (横破六・後歯なし) 厚さ 0.6-4.2 (足部分) 柄は1つ				
SK-43西土 第400号 427	輪蓋	つまみ径(5.4) 胴径(10.4) 高さ3.0	漆器	黒漆 赤漆	外面黒漆、内面赤漆で外面に3×所金影で丸に 五弁の花、梅花と反重の家紋文				
SK-36西土 第389号 428	柄	残存高4.1 底径(7.0)	漆器	黒漆	一文字腰形 内外面黒漆 高台内に白色で不明な柄あり				
SK-6西土 第400号 429	銅釘釘	径5.6 幅1.2 厚0.9	鉄製品						
SK-28西土 第400号 430	角釘	長3.8- 幅1.2 厚4.2	鉄製品						
SK-29西土 第400号 431	釘	径4.7 幅2.8 厚0.7	金属製品						
SK-6西土 第400号 432	角釘	長9.12 幅0.5 厚4.2	鉄製品						
SK-44西土 第400号 433	不明	径7.6 幅2.7 厚1.3	金属製品						
SK-29西土 第400号 434	小柄	径5.4 幅2.0 厚0.6	金属製品						
第3遺構面の土 第400号 435	煙管吸口	径5.6 幅1.0	金属製品		真鍮製				
SK-28西土 第400号 436	煙管吸口	径5.3 幅1.0	金属製品		真鍮製				
SK-43西土 第400号 437	鎌	長13.6 幅3.0	鉄製品						
SK-43西土 第419号 438	鏡 寛永通宝	直径:2.4cm	銅鏡						
SK-43西土 第419号 439	鏡 寛永通宝	直径:2.4cm	銅鏡						

# 圖 版



1 宮永町遺跡調査区遠景  
(東から)



2 宮永町遺跡調査区遠景  
(西から)



3 宮永町遺跡調査区  
(直上)







1 SK-3 完掘状況  
(南から)



2 SK-4 完掘状況  
(南から)



3 SK-5 完掘状況  
(南西から)

- 1 SK-6完掘状況  
(南から)



- 2 SK-16完掘状況  
(南西から)



- 3 SK-20有機物検出状況  
(東から)





1 SK-20完掘状況  
(南から)



2 第2遺構面遠景  
(直上)



3 第2遺構面全景  
(直上)

1 SA-37完掘状況遠景  
(北から)



2 SA-37完掘状況  
(南から)



3 SA-37土層堆積状況  
(東から)





1 SK-38完掘状況  
(東から)



2 SK-39土層堆積状況  
(西から)



3 SK-41完掘状況  
(北西から)

- 1 SK-44完掘状況  
(南西から)

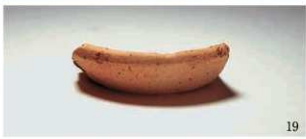


- 2 SK-46完掘状況  
(西から)



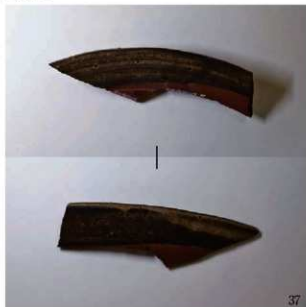
- 3 SK-47完掘状況  
(北西から)







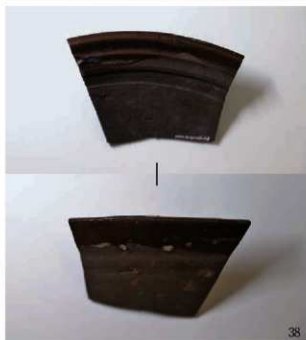




37



40



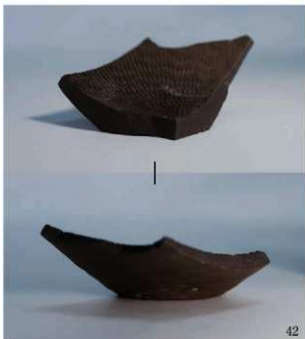
38



41

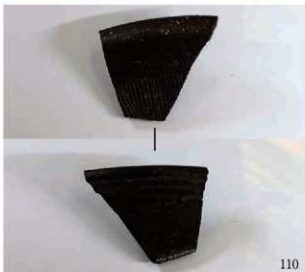


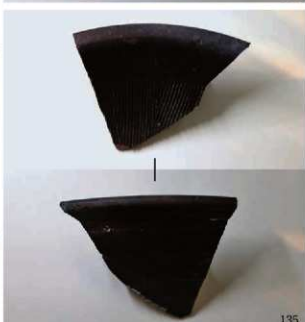
39



42









136



137



138



139



140



141



142



155



158



159



163



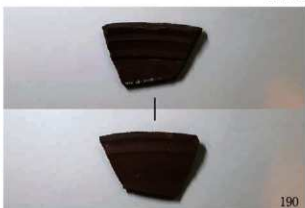
164



165



171





204



205



207



208



210



211



215



222



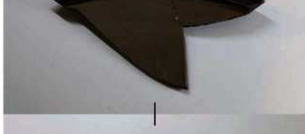
224



228



229



234

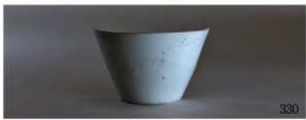


235













407



413



408



414



409



415



411



412



417



418



419



420



424



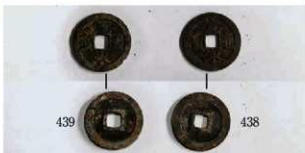
425



426



428



# 報告書抄録

ふりがな	みやながまちいせき							
書名	宮永町遺跡							
副書名								
巻次								
シリーズ名	柳川市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第18集							
編著者名	橋本清美 牧之角健太							
編集機関	柳川市教育委員会							
所在地	〒832-8555 福岡県柳川市三橋町正行431							
発行年月日	2024年9月30日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ° °	° ° °		(㎡)	
みやながまちいせき 宮永町遺跡	福岡県柳川市宮永町 4-1外	40207	80167	33° 9' 25"	130° 24' 22"	2020.10.23 ～ 2020.12.25	287	市道建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
宮永町遺跡	城下町	近世	土坑、柱穴	陶磁器、土師質土器、 木製品、鉄製品、銅銭		16世紀末～幕末		
<p>当遺跡は、有明海に面した筑後平野の南西部、筑後川左岸と矢部川右岸に挟まれた標高38m程の沖積平野上に位置する。近世柳川城下町の武家地が集中する、城内地区の宮永小路である。武家地の生活遺構とこれに伴う遺物を確認することができた。遺物は土師器、瓦質土器、近世陶磁器、木製品、鉄製品、銅銭が出土している。</p>								

# 宮永町遺跡

柳川市文化財調査報告書  
第18集

令和6年(2024)9月30日

発行 柳川市教育委員会  
〒832-8555 福岡県柳川市三橋町正行431  
電話 0944-77-8832

印刷 大同印刷株式会社  
〒849-0902 佐賀県佐賀市久保泉町大字上和泉1848-20  
電話 0952-71-8520(代)